

2023（令和5）年度  
事業報告

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

# 目次

01 法人 .....	1
02 垂穂寮 .....	12
03 やまばと希望寮 .....	15
04 わかば(もくれん含む) .....	19
05 みぎわ .....	25
06 ケアセンター花もも .....	27
07 ケアセンター野ばら .....	30
08 ケアセンターかたくりの花 .....	32
09 ワークセンターカサブランカ .....	35
10 ワークセンターコスモス .....	39
11 ワークセンターなのはな .....	42
12 ワークセンターあさがお .....	45
13 ワークセンター希望の家(ふれあい含む) .....	48
14 ワークセンターやまばと .....	54
15 ワークセンターさくら .....	57
16 ケアセンターマーガレット .....	60
17 レタスクラブ .....	63
18 生活支援センターやまばと .....	66
19 聖ルカホーム(ショートステイ含む) .....	70
20 グレイス .....	76
21 相寿園 .....	80
22 ぎんもくせい .....	83
23 デイサービスセンター真菜 .....	86
24 デイサービスセンターすずらん .....	90
25 ライフサポートさふらん .....	94
26 居宅介護支援事業所シャローム .....	98
27 牧之原市地域包括支援センターオリーブ .....	101
28 コミュニティセンターぶどうの木 .....	103
30 付属明細書 .....	106

# 2023 年度（令和 5）年度 法人全体 事業報告

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

## A 総括

当年度もコロナ感染は続き、幾つかの施設でクラスターが発生したが、かつてと違って、「重症化」や「死」を意識することはなく、幾らか余裕をもって対応できたのは幸いでした。最重要課題である「人材の確保と育成」に関しては、5名の新人大卒者に対して、年間を通してフォローするなど、その育成に力を注ぎました。外国籍の働き人も計6名（内、EPA生2名）となっています。国が資格取得を推奨する中、有資格のスタッフが増えたことは嬉しい限りですが、専門性の深まりが必ずしも利用者の笑顔に結びつかないケースもあり、どの職員も、専門性に加えて優しさや思いやりを持つスタッフになるよう、今後も採用・育成過程を検討し、人財確保のため努力する必要があります。事業に関しては、①グループホーム「みぎわ」の定員数を15名から10名にしたこと、②二期10年務めた島田市立養護老人ホーム「ぎんもくせい」の指定管理業務を、2023年度末をもって終了させたことが挙げられます。人材確保や福祉財源の面で厳しさが増す中、「共生社会形成」という当法人のミッションを忘れず、優先すべき課題を見極めながら歩んでいきたいと思っております。

## B 2023 年度牧ノ原やまばと学園の事業概要

### 1 評議員、理事、監事の氏名と任期

【評議員】（9名。任期は4年。2021年6月～2025年6月の定時評議員会）

池上千穂、柴田敏、杉本正、外岡潤、田島逸雄、早川ひろみ、久田則夫、  
山城厚生、渡辺紀久子（メンバーの変更はなし）

【理事】（7名。下線は理事長。任期は2年。2023年6月～2025年6月定時評議員会）

姉崎弘、大石幸、佐々木炎、長澤道子、平井章、松田正幸、三浦賀世  
（メンバーの変更あり：2023年6月17日、金子初子の退任に伴い、平井章を選任）

【監事】（2名。任期は2年。2023年6月～2025年6月定時評議員会）

飯塚誉之、松浦隆雄（メンバーの変更なし）

### 2 評議員会や理事会等の開催数

評議員会：計1回（定時評議員会1回）

理事会：計6回（対面の理事会5回と、書面による理事会1回）

監事監査：業務監査も会計監査も、各2回実施

開催日時や内容等は、添付資料「事業報告B-2」に記載したので、参照のこと。

### 3 2023 年度実施の事業、種別、責任者名、職員数等（2024年3月31日時点）：

計画に挙げた通りの事業を実施した。各施設の責任者名等は「事業報告B-3」に記載。

### 4 2023 年度に実施した研修：添付資料「事業報告B-4」に記載したので、参照のこと。

### 5. 2023 年度末牧ノ原やまばと学園 職員状況：総人数は、463名（2024年3月31日時点）

	正規職員	準職	嘱託	パート	パ・利用者	非正規・計	職員総数
男性（人数）	74	9	4	33	11	57	131
女性（人数）	109	19	4	199	1	223	332
平均年齢(才)	48.4	51.2	68.1	59.7	45.4	58.5	54.5
平均勤続年数 (年)	12.03 男 12.22 女 11.90	10.33 男 14.71 女 8.25	14.15	7.63 男 8.25 女 7.53	5.24	7.99	9.58

(注) パ・利用者とは、就労継続A型事業所の利用者で、法人の職員としても雇用された人。

★改正女性活躍推進法に定められた「把握すべき項目」は、下記のような内容になった。  
 全労働者中、女性労働者の割合は、71%、 男女の平均勤続年数は、上の表に記した通り。  
 管理職に占める女性労働者の割合は、56%（男性 10 名、女性 13 名）

#### ◆ C ～ G 2023 年度の計画に対する評価

下記 C～G には、管理者 19 名による評価内容、並びに、理事長によるまとめ（結論）を記載。  
 評価にあたっては、専ら自分の施設を中心に考え、必要に応じて法人の活動についても検証。  
 記号の意味は、○（達成、よかった）、△（今後も継続）、×（達成不可、悪い、終結）。  
 記号は二つ以上選んでも良いとしたことや、色々に解釈された面もあり、大雑把な評価と言える。

#### C 7つの重要計画

計画内容	○	△	×	まとめ
<b>1 理念の学びと、支援への具体化</b> (1) 「人権尊重」と「助け合い」で特色づけられる職員集団になる。 (2) 「人権尊重」の視点から、「同性介助」が原則 (3) 「サービス提供指針」に基づいた支援を行う。	12 6 10	20 18 20	0 6 0	1 の評価は良い。又、「継続」すべきと考えられている。「同性介助」は、自立した利用者が多い施設では、必要性がない。また、職員の男女比が同性介助を不可とする場合もあり、今後も検討が必要。
<b>2 専門性と思いやりをもった人材の育成</b> (1) 対人支援力アップを目指す専門的研修の機会を提供 (2) 自己と他者への理解が深まり、心が養われる研修や、読書の機会を提供	5 4	13 16	2 3	(1) も (2) も、引き続き、継続となる。(2) については自分の事業所だけではできないとの声あり。→ 法人の課題
<b>3 人材の確保と定着</b> (1) 実習生の受入と丁寧な対応 (2) 全ての事業所が定着率の良い職場となるよう、原因検討と、改善への努力	12 6	14 18	2 1	実習生受入れに関してマニュアルがほしいという声もあったので、応えたい。
<b>4 虐待行為の根絶</b> (1) 各事業所と全体会議において、虐待防止の取組 (2) 現場職員が話し合い提案→事業所同士で検討・採択（案）→決定後、周知徹底	11 7	20 16	0 2	虐待ゼロという施設が多いが、不適切ケアについて対応・検討したという施設もあり、今後もゼロを目指して継続。
<b>5 事務部門の統一と ICT 活用による連絡体制構築</b> (1) 障害者部門と高齢者部門の現況を把握し、検討。 (2) タブレット等、ICT 導入による円滑な意思疎通と情報共有体制への移行	0 2	20 16	3 6	×をつけた人は、これは施設ではなく、法人がすべきという意味で回答していた。→ 法人の計画として継続
<b>6 地域とつながる</b> (1) 地域のニーズを把握し、応答すべき課題に対しては、計画的に対応 (2) 従来の交流の継続、並びに、新しい形で地域へ発信	3 2	17 17	3 2	×をつけた人は、計画を終結させるべきという意味ではなく、取組めなかったという意味での×であった
<b>7 中長期計画の策定</b> 4つの基本姿勢から現状を把握し、2025 年に向かって取り組むべきテーマを選び、中長期計画を策定する。当年度からは、作業チームと特別委員会によって進められる。単年度計画と重複するものもあり新しい計画もある。	5	14	1	×は、計画に参加しなかったのが不明という意味。又、内容をよく知らず無回答の人もいた。中長期計画は 2024 年 6 月発表の予定だが、適宜その内容を関係者以外にも知らせる必要がある。

<補足>

ケアプラン作成のため家族の要望を聞くことが多いスタッフより、次のような情報提供あり。  
 「同性介助について、これを実施している事業所は少なく、事業所に対して、「同性介助」を  
 必須要件として求める人もほとんどいない。同性も大事だが、求められているのは、「人を思  
 いやる支援や接遇です」

D サービス内容向上のための計画

計 画 内 容	○	△	×	ま と め
1 利用者本位のサービスの提供：実践状況を共有	5	13	2	×は、共有しなかった施設
2 同性介助の実現	5	15	3	職員の男女比による困難があるものの、今後も取り組む。
3 「ご利用者支援や業務改善の取組」発表会開催	1	15	3	×は、発表会の企画ナシの意味
4 家族や住民からの感謝等を職員へ伝える	1	14	5	ちょっとした声かけ、感謝の大切さを指摘する声が多い。
5 苦情をサービス内容向上のため活用する (1) 苦情解決委員会：事例検討を通して学び合う。 (2) 改善状況を全体で共有しホームページに公開	13 5	13 15	0 1	苦情解決委員会の評価は良い。 改善状況の報告を今後も続ける
6 虐待行為の根絶：C-4に記載済み	/	/	/	パートに対し、短時間動画研修を実施する施設が多かった
7 ヒヤリハットや事故防止のための努力、 並びに、身体拘束状況の改善	8	19	0	身体拘束は障害者施設で多い ので今後も検討・改善が必要
8 三つの改革委員会の内容や経過を共有 (「垂穂寮」「希望寮」「わかば・もくれん」の会合)	1	15	4	十分共有できなかったため、 継続していく。

E 労務環境改善のための計画

計 画 内 容	○	△	×	ま と め
1 一般事業主行動計画 仕事と家庭の両立を図る雇用環境整備： 有給休暇の消化／育児休暇取得奨励／ノー残業 デー。職員への周知、男性の育休取得の実現	8	16	1	当年度は、男性の育休取得者 が3名になった。 有給休暇取得率もアップした が、なお施設間で違いがある ので、改善が必要。
2 最新の福祉・労務関連法令の学びと 法令遵守	3	16	2	今後も、努力する必要あり。
3 職員の声を聴き、可能な限り希望に応える。	3	14	2	管理者や上司の基本姿勢にする。
4 職員の悩みに答える相談担当者を配置し対応	3	16	5	専門家の配置を望む声、多い
5 シニアワーカーの実態把握と環境整備	4	16	2	各事業所における評価

<その他、要望等>

- 管理者が多忙な施設より「公休さえ取れない、管理者の働き方改革を」という声があった。  
→ まずは、実状を知ることから始めたい。
- 有給取得率は、介護員のほうが事務員より高いのではないかと、事務員は自分の仕事は自分で  
しなければならぬので、休むと負担が増えるのではと懸念している。  
→ 施設によっても違うし、個人の姿勢も様々だが、休暇取得できるよう改善したい。
- 「シニアワーカーをフルに活かせる場を作してほしい」という要望があった。今働いているシ  
ニアワーカーなのか、それとも高齢者一般をさすのか不明なので、具体的な意味を聞いてみたい。
- 「アンケートの結果をどうするのか今後に期待」という声もあった。そのままにせず報告したい。
- 「当法人の職員の年齢構成は、50代から80代が全体の60%を占めていて、10代～40代が少な  
い。10年後を考えると危機的状況。若者取得のため、お金を費やすべきでは？」という意見も  
あった。→ 貴重な意見であり、今後も若者採用のため力を注ぎたいが、「少子高齢化」という

厳しい現実が続くので、様々の年齢の人が多様な働き方によって仕事を遂行できる方法も工夫したい（ロボットの活用や、短時間労働による連携・協力等）。又、かつてと違って、転職者が多い社会になっているので、今の基準で10年後の職員状況を推測しても該当しないかもしれない。今後は、中途採用によるリーダー確保の道もありうるので、悲観も楽観もせず、専門性と思いやりのある職員集団となるよう努め、働き手の確保と育成のため、人知を尽くしていきたい。

## F 地域に対する活動

下記1と2について、○や△による評価ではなく感想を求めた。その内容は、★に記した通り。

### 1 地域に対する公益的取組

(1)低所得者への利用者負担軽減制度事業の継続 / (2)ひとり暮らし高齢者のための「ワイワイ話そう会」の再開 / (3)地域のサロン参加者（高齢者）に対し送迎協力 / (4)地域の清掃活動 / (5)食糧支援活動 / (6)住民の買物支援のため、施設の車両の貸出し / (7)地域生活支援拠点事業所として登録し、地域で暮らす障害者の緊急事態に対応

### 2 新しい活動

(1)「喫茶ほとり」と「やまばと」関係者がコラボして、地域住民との交流を企画  
7月～9月、毎月1回、店頭販売や飲食等（喫茶店主で職員でもある田平さんの提案）

### ★＜感想や意見＞

- 1 (3) について：移動に困っている高齢者が多いようなので有益と思う。継続してほしい。
- 2 (1) について：一部参加し、地域の様々な課題について知ることができた。／障害を持つ方が、地域に理解して頂くためにもよい機会になった。／可能なことには協力し参加したい。／大きな法人として継続できると良いと思う。

## G リスク対応

計 画 内 容	○	△	×	ま と め
<b>1 防災訓練</b> (1) 全体防災訓練 毎年1回実施。BCPに沿った対応の徹底 (2) ハザードマップの確認と防災対策： 全ての事業所が、危険個所の確認と対策を。 (3) 安否コールシステムの活用 「安否確認訓練」を、毎月1回以上実施。いざという時、活用できるようにする。	4 7 12	16 15 15	2 2 0	(1)：現実的な被災想定をしていなかった」と、どの事業所も反省。 (2) 原発被災に関しては、対策は困難との声が多い。 (3) 長年の訓練の成果が出ているが、参集訓練や災害別の訓練はしていない。
<b>2 感染対策</b> (1) 食中毒、インフルエンザなどの感染予防対策を周知・徹底 (2) コロナ対応：当分、マスク着用、手洗い、換気の継続。時にはフェイスガード等の着用も。	12 10	14 14	0 0	(1) グループホーム等では周到に準備できない。→実情を聞き適切に支援する (2)：マスク着用等、そろそろ止めたらとの意見あり
<b>3 サイバー攻撃やシステムダウン等への対策</b> (1) データ消失防止対策：クラウドやサーバーを活用、バックアップ等を実施。 (3) コンピューターウイルス「Emotet」への警戒：安易に添付ファイルを開かない。 (3) リスクの防止：ウィルス等に関する最新情報を、職員に周知徹底し、未然に防ぐ。	3 2 1	15 16 15	1 1 3	(1) 高額になる場合もあるので、十分な検討が必要。 (2) PC初心者には、基本的な講義などをするとよい (3) 十分にはできなかったが、今後も、リスクを未然に防止できるよう努める、

## ◆ C ～ G の評価結果と、今後の取り組み

「まとめ」を参考にして、早急に着手すべきこと（例：実習生受入れのマニュアル作成）と、継続的に取り組むべきこと（例：障害者施設における身体拘束の軽減）を峻別し、優先順位を定めて、実行に移していきたい。「人材確保・育成」を初め、多くの計画が「今後も引き続き、取組必要」とされたので、それらは次年度に発表予定の「中長期計画」に引き継がれる。

## H 施設整備や環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

垂穂寮：電子錠の設置、トイレ改修工事の設計。（着工はかなり遅れ、2024年4月に入札）

聖ルカホーム：ICT補助金によるWi-Fi設置、リフトチェア購入。

グレイス、ICT補助金によるWi-Fi設置。カサブランカ：休憩室も兼ねたプレハブ設置。

ふれあい：屋根壁の塗替え。花もも：スロープ設置。

## I 収支、並びに、借入金返済計画

### 1 2023年度決算

サービス活動収益 2,171,292,511円 サービス活動費用 2,164,152,704円

当期活動増減差額 21,593,994円（事業活動収支計算書より／詳細は計算書を参照）

.....

当期活動増減差額は、前年比1500万円増となったが、高齢者部門も、障害者部門も株式会社やNPO法人の参入により、かつてのような収益は見込めない状況になっている。なお、「ぎんもくせい」は、補助金収入により、黒字の結果となった。

### 2 借入金償還計画

聖ルカホーム（ショート、さふらん含む）、並びに、ワークセンターなのはなの、「長期借入金」返済は、計画通り実施した。合計、年間21,371,009円（聖ルカ18,251,009円／なのはな3,120,000円）、支払利息年間合計3,030,264円（聖ルカ2,732,223円、298,041円）。

国の金融政策が変化している折から、借入金のうち、変動利率への影響を注視していきたい。

### 3 寄付金収入（2023年4月～2024年3月31日）

本部への寄付金は、9,174,686円 事業所への寄付金は、2,110,073円

合計11,284,759円の寄付金が、この1年間に与えられました。感謝いたします。

## J 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

- ・定款変更：「介護・福祉に従事する介護員等の教育・研修及び養成事業」の削除、「奨学金貸与事業」の追加、／垂穂寮、聖ルカ、花もも、真菜の地積、地目の変更。（8月）
- ・9月1日 静岡県福祉指導課による法人指導監査。文書指導は、月次試算表の予算超過の際は、理事長の承認を得て、流用の手続をとる事。
- ・旧デイサービスセンター真菜の財産処分は、県介護保険課より建設時補助金等の確認待ち。
- ・ぎんもくせい、垂穂寮に対し、静岡県福祉指導課による実施指導、指導監査が実施された。

## K 実習生やボランティアの受け入れ、学校との連携

### 1 恵泉女学園中・高校生の夏季実習受入

コロナ感染のため中止していたが、3年ぶりに再開。7月末から8月初めの2泊3日間、入所施設と通所施設において、有意義な実習と交流の機会を持った。

### 2 福祉科を持つ大学との連携強化

- (1) 実習生：東京通信大学（垂穂寮）、常葉大学（希望寮、マーガレット）、浜松学院短期大学（希望寮）、浜松未来総合専門学校（希望寮）
- (2) 定期的交流：島田看護専門学校生の受入れ（コスモス、なのはなは）
- (3) 下記の就職説明会へ出典

静岡福祉大学、聖隷クリストファー大学、同介護専門学校

- (4) 牧之原市の『RIDE ON MAKINOHARA おかえりプロジェクト』※による若者受入  
相良高校生のジョブシャドウイング：希望寮（1名）、Woc やまばと（1名）。  
インターンシップ：花もも（1名）・真菜（2名）・グレイス（2名）、相寿園（1名）。  
WEB面談（2名）
- (5) 清流館高等学校・実習生受入れ：なのはな、さくら、あさがお、マーガレット

## L その他

### 1 機関紙「やまばと」の発行と、支援者へのアピール：

隔月発行。「福祉情報の発信」や「当法人の活動の公開」という目的に沿って、実施した。

### 2 ホームページ：

Web での求職申し込み可能など、内容を大幅に変えたが、実際の公開は次年度になった。

### 3 インスタグラムやフェイスブックによるPR活動の推進：

実施事業所は、法人、垂穂寮、やまばと希望寮、花もも、野ばら、かたくりの花、コスモス、希望の家、Woc やまばと、聖ルカ、グレイス、真菜、すずらん、ぶどうの木

### 4 外国人ワーカーの確保：

2025年度EPA生の受入申請、2024年度のミャンマー人女性採用のための面接を実施。

### 5 オリーブ園祭りの再開：

祭りで使う土地を、自然災害防止工事業者に貸していたため当年度も実施しなかった。

### 6 「ワークセンターコスモス（就労継続B型支援事業所）」の活動に関して

「2025年度から「作業日課のある生活介護」へ移行する」案が、理事会や島田市を初め、関係機関・関係者に了承されたので、次年度から種別変更の歩みを進めることになる。

### 7 牧ノ原やまばと学園 運営のための会合や委員会：下表のとおり。

開催日・回数	名称	参加者	内容
毎月 2回	経営会議	理事長、6名の部長	施設運営に関する審議・決定
毎月 1回	管理者会議	理事長、事務局長、施設長、事務長	施設間の情報共有、意見交換
毎月 1回	中長期計画策定会（未来検討会）	理事長、経営会議メンバー、プロジェクトチームメンバー4名	グループ討議、提案。←→ 全体で質疑応答、意見交換 → 経営会議で結論
隔月 1回	研修委員会	理事長、管理者、研修委員	新年度研修の企画
隔月 1回	編集委員会	理事長、管理者、編集委員	機関紙の企画
年2回	全体防災委員会	理事長、管理者、防災委員	防災対策、訓練計画、情報共有
年2回	苦情解決委員会	理事長、管理者、苦情解決委員	第三者委員も出席／苦情の学び
年2回	事故防止委員会	理事長、管理者、事故防止委員	事故の検証と予防対策
年2回	全体虐待防止委員会	理事長、管理者	2月、7月、施設管理者会にて。
年2回	事務合同検討会	理事長、事務局長、事務長、事務主任	2部門合同、年間予定や、業務の確認
年1～2回	全体事務連絡会	事務局長、2部門の事務長、事務員	事務に関する情報共有、連絡
隔月	栄養士会	部長、栄養士	各施設の給食状況、目標設定
年に1～2回	看護師会	理事長、部長、看護師	感染防止、健康管理など情報共有

以上



## 1 理事会

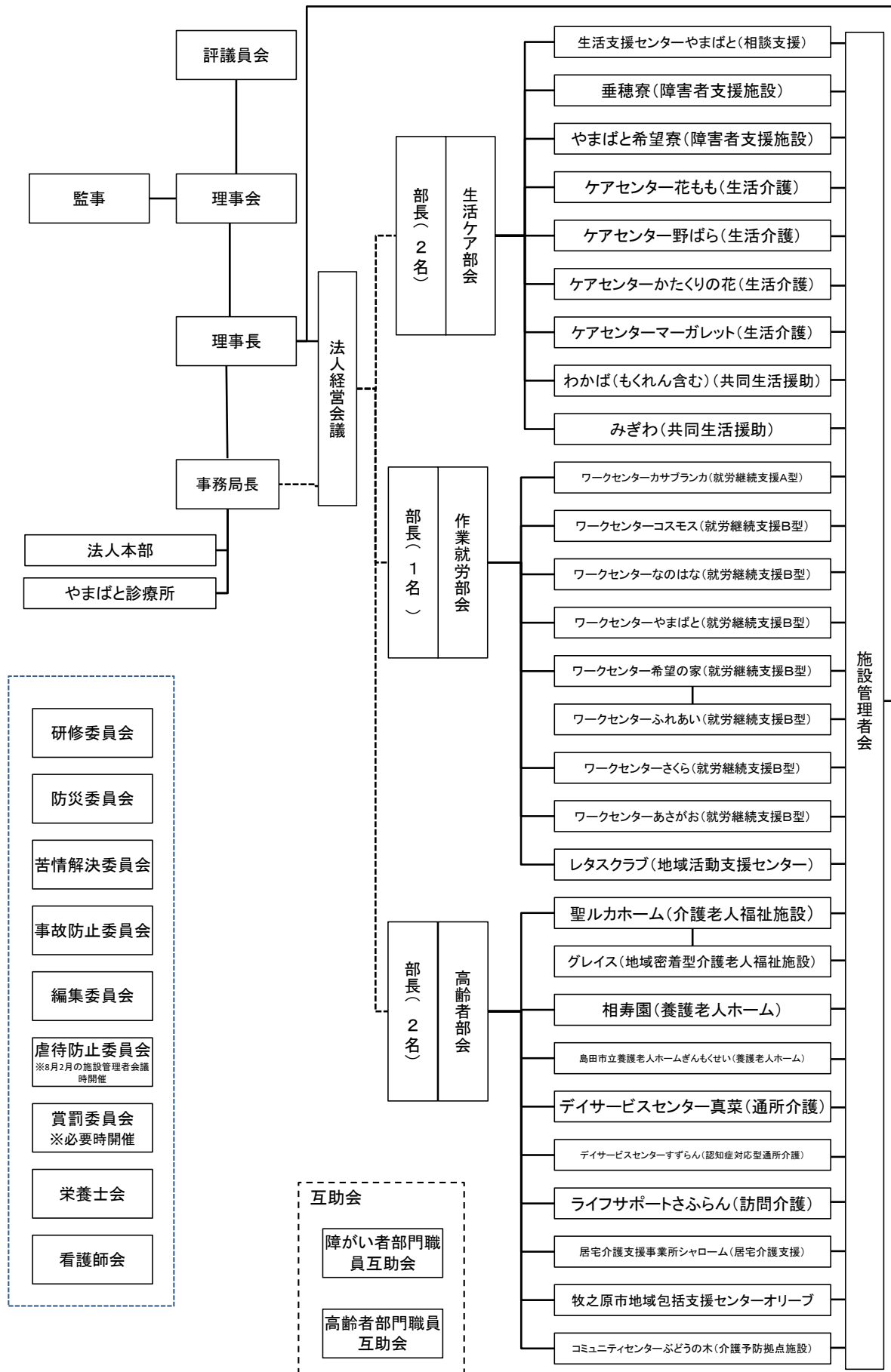
開催日	出席者（内、ZOOM参加者）数		議 案
	理 事 （定数は7名）	監 事 （定数は2名）	
2023年 5/27	7名（0）	2名（0）	監事監査報告について/2022（令和4）年度事業報告（案）並びに決算（案）/定款の変更（事業の追加と別表の地目等の変更について）/理事及び監事候補の推薦について/管理者人事について/定時評議員会の招集について
2023年 6/17	7名（1）	2名（0）	理事長の選定について/招集者の選定について
2023年 7/25	7名（0）	2名（1）	管理者人事について/島田市養護老人ホームぎんもくせいの「2023年度給食業務委託契約内容」一部変更について ※書面
2023年 9/9	6名（0）	2名（0）	監事監査報告に対する回答について/経理規程及び経理規程細則の変更について/垂穂寮トイレ改修工事に関して/入札に係る資格（指名）委員会の設置について/第1次補正予算案について/牧之原市地域包括支援センター運営事業の受託について/パートタイマー等の就業規則の変更について
2023年 12/16	7名（1）	2名（0）	島田市立養護老人ホームぎんもくせいの改善指導事項に対する是正・改善計画について/法人に対する指導監査の実施結果通知と回答について/定期監事監査報告について/第2次補正予算案について/定款細則の変更について/経理規程の変更について/管理者人事について/島田市立養護老人ホームぎんもくせいの指定管理に応募しない件について/給与規程の変更について/島田市立養護老人ホームぎんもくせいの「2023年度給食業務委託契約」内容の一部変更について
2024年 3/16	7名（1）	2名（0）	2024年度に関する役員賠償責任保険の契約について/定期監事監査報告に対する回答について/ぎんもくせい拠点区分前期末支払資金残高の取崩しについて/2023年度第3次（最終）補正予算案について/ワークセンターコスモスの事業種別変更について/2024年度事業計画案、予算案について/経理規程の変更について/給与規程の変更について/パートタイマー等の就業規則の変更について/管理者人事について

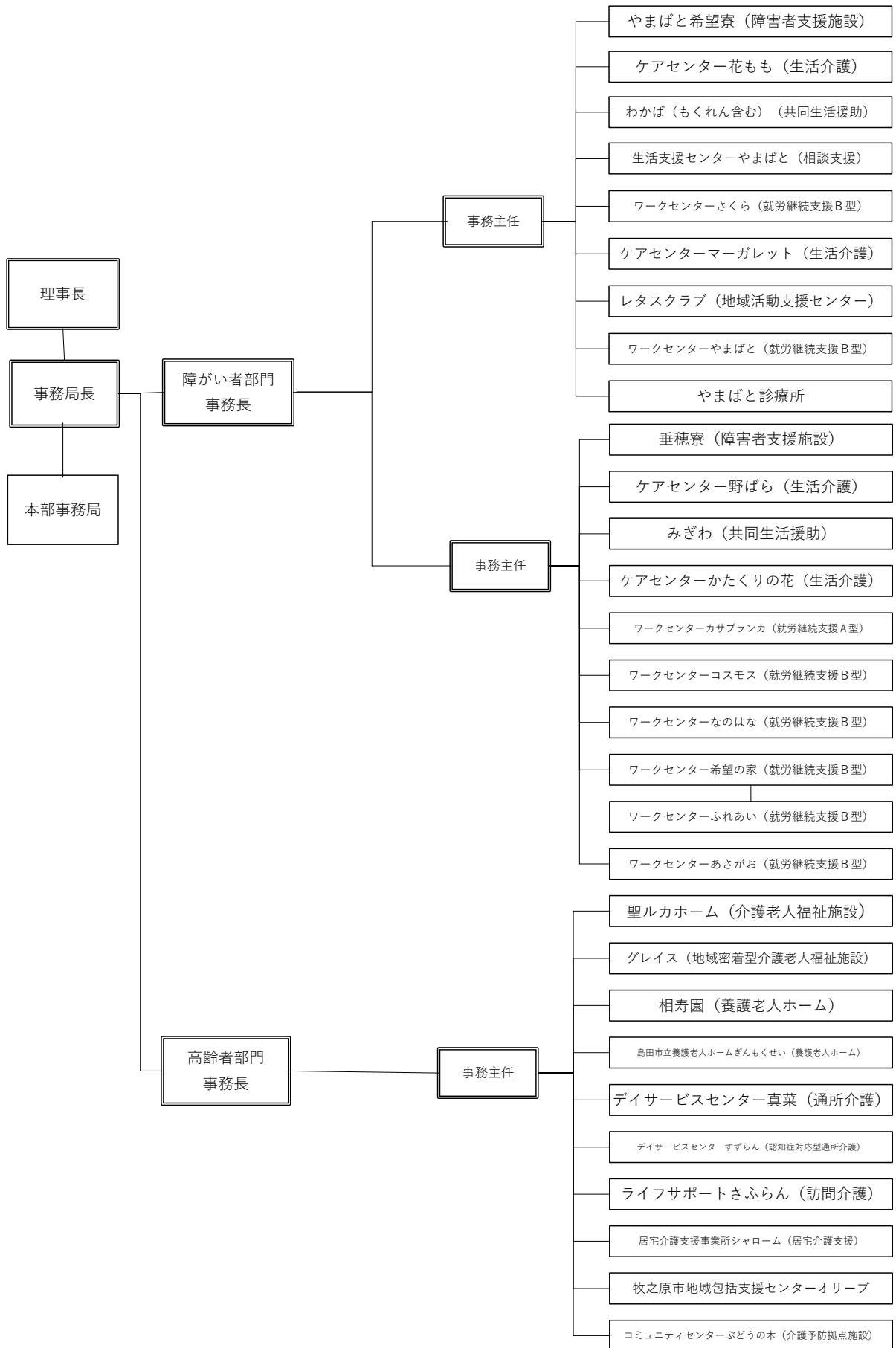
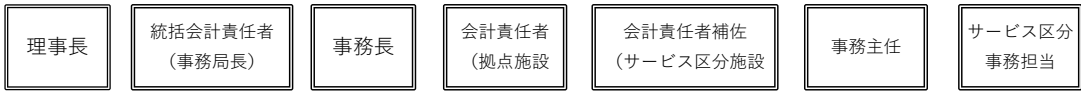
## II 評議員会

開催日	出席者（内、ZOOM参加者）数		議 案
	評議員 （定数は9名）	説明役員	
2023年 6/17	9名（5）	理事 1 監事 2	7名の理事候補者の承認、並びに、2名の監事候補者の承認について/2022（令和4）年度事業報告、並びに、計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録承認の件/定款の変更について

III 評議員選任解任委員会： 開催なし

（完）





## 2023 年度牧ノ原やまばと学園／活動内容や在籍者数、責任者名等

(2024 年 3 月末時点)

事業所名	責任者名	内容や種別	定員	在籍	職員
本部事務局	板倉 仁	事務・財務の統括			4
やまばと希望寮	大畑 彰弘	障害者支援施設	30	30	30
垂穂寮	田澤 岳大	〃	50	45	43
ケアセンター野ばら	田澤 岳大	生活介護	20	20	14
ケアセンター花もも	桑原 裕子	〃	20	21	13
ケアセンターかたくりの花	渡邊 千恵子	〃	20	20	12
ケアセンターマーガレット	河原崎 明人	〃	20	20	11
レタスクラブ	河本 敦子	地域活動支援事業		不特定	3
ワークセンターカサブランカ	澤渡 繁	就労継続支援 A 型	15	12	★4 + 12
ワークセンターやまばと	鈴木 千春	就労継続支援 B 型	20	19	8
ワークセンターコスモス	森山 規子	〃	20	16	8
ワークセンターなのはな	西村 美恵子	〃	30	26	12
ワークセンターあさがお	石神 知之	〃	20	21	12
ワークセンターさくら	河本 敦子	〃	20	18	7
ワークセンター希望の家	原 絵梨	〃 (主たる事業所)	20	19	8
ワークセンターふれあい	原 絵梨	〃 (従たる事業所)	20	13	5
みぎわ	杉山 勝拓	共同生活援助	15	10	11
わかば	高杉 和成	〃	10	9	10
もくれん	高杉 和成	〃	10	10	15
生活支援センターやまばと	大畑 彰弘	相談支援事業			8
聖ルカホーム	大石 幸	特別養護老人ホーム	70	70	76
〃 短期入所	大石 幸	特養短期入所部門	10		
グレイス	山脇 世津子	地域密着型特養ホーム	29	29	29
相寿園	松田 正幸	養護老人ホーム	50	30	23
ぎんもくせい	阿部 順子	〃	50	38	20
デイサービスセンター真菜	吉田 陽子	通所介護	35	日替り	19
すずらん	米山 千穂	認知症対応通所介護	12	日替り	10
地域包括支援センターオリーブ	小笠原直美 (代行)	調査、相談、権利擁護等			9
コミュニティセンターぶどうの木	鈴木 ひろみ	介護予防拠点施設		日替り	6
ライフサポート さふらん	大石 幸	訪問介護事業			16
居宅介護支援事業所シャローム	栗林 真弓	ケアプラン作成所			2
やまばと診療所	赤堀 由砂	保険医療機関			2
合 計 ⇨				496	463

★ カサブランカご利用者 (12 名)は、本部と雇用契約を結んでおり、職員としても計上。

★ 「ぎんもくせい」は当年度末 (2024 年 3 月 31 日)をもって「指定管理業務」を終了。

★ 「みぎわ」の定員は、当年度末まで 15 名だが、2024 年度 (2024 年 4 月 1 日)からは、10 名になる。

## 職員育成のための研修

- 対象は法人職員 ● 各事業所で実施した研修や外部研修は除く、

日時	研修名	講師	内容	参加者数
4月 1日	第1回新入オリエンテーション	理事長 長澤道子 他 6名	創立の精神や歴史、就業規則等の学び	19
4月3 ～7日	大学新卒職員を対象にした研修	理事長 長澤道子他	「ともに生きる」を実践するため、初任者として必要な基礎知識の習得	5
4月 15日	新年度全体職員研修(基調講演)	日本女子大学教授 久田則夫 氏	「いきいきと喜びをもって働く人になるために確認すべきこと」	130
6月 16日	1・2等級研修	人材サポート有限会社 代表 長崎 一朗 氏	マナーその他の学び	23
8月 3日	交通安全講習会	インターリスク総研㈱ 四方 氏	交通安全の学び	24
8月 22日	人事評価に関する研修	社会保険労務士 小山圭子 氏	公正な評価をするための学び	24
9月 7日	事例検討会 (高齢部門)	東洋大学大学院 教授 吉浦輪 氏	事業所での困難事例について学ぶ	13
9月 8日	事例検討会 (障がい部門)	東洋大学大学院 教授 吉浦輪 氏	事業所での困難事例について学ぶ	17
9月 29日	第2回新入オリエンテーション	理事長 長澤道子 他 6名	創立の精神や歴史、就業規則等の学び	13
10月 5日	育児介護休業法に関する研修	社会保険労務士 小山圭子 氏	改正育児介護休業法について学ぶ	24
10月 6日	大学新卒職員 フォローアップ研修	理事長 長澤道子他	理念等の学び、ディスカッション	5
12月 8日	全体防災研修	静岡県立大学短期大学 教授 鈴木俊文氏	BCPの質を高める災害対応研修	32
1月 17日	(未来検討会の学び) 市の将来計画を知る	牧之原市副市長 大石勝彦 氏	牧之原市の中長期計画について学ぶ	24
1月 19日	主任等研修	人材サポート有限会社 代表 長崎 一朗 氏	社会人としてのマナー	24
2月 27日	2024年法改正 研修	社会保険労務士 小山圭子 氏	2024年法改正の内容と対応	10
3月 27日	大学新卒職員 総仕上げ研修	進行：松田正幸 新卒職員5名の発表	この1年を振り返っての感想や、参加者(理事長や施設長等)との質疑応答	14

## 2023（令和5）年度事業報告

障害者支援施設  
垂穂寮

### A 2023年度の目標と実践に関する振り返り

#### 1 事業所の2023年度事業計画に関する報告（総括）

前年度から引き続き行われている「改革委員会」改め「運営委員会」ですが、業務改善や環境整備、福利厚生等に多く取り組んだ。業務改善の点はご利用者個々の支援マニュアルの作成や業務マニュアルの作成を行い、職員の支援力と介護記述の向上に関しては、福祉大学教授を招いての研修を行った。施設づくりの一環としての環境整備に関しては、電子錠の設置を行った。カギを回す手間を考えると効率的になったと思われる。また、職員の業務中のストレス軽減や事故等の早期発見を考慮し、インカム（無線）を導入した。現在試行中だが、職員同士の素早い情報共有が可能となった。

トレイの改修工事に関しては、理事長・事務局長と話をしつつ、来年度実施を見込んで進めている。福利厚生として全員に2枚ずつ制服を貸与した（デザインは職員で決めた）。

#### 2 理念に基づいたサービス提供

サービス提供指針、服務心得、私たちの願いを口に出して読む機会は会議等で唱和した。読む場所に関しては、各チームが必要とされるところを抜粋してケース全体で読み上げた。

#### 3 法人の当年度重点計画との関連

生活困窮者自立支援制度の一環として、大津地区社協買い物支援での車両提供を月1回行った。また、社協主催の「福祉職つながりPJ」に職員が参加し、他事業所との繋がりを強める事ができた。地域の行事である「大津ふれあいまつり」への参加、島田市ニコニコクリーン作戦への参加、地域交流の一環として、しまだっ子にやまばとのお菓子をプレゼントするなど、地域との繋がりを大切にする活動に積極的に参加した。

### B 利用者と職員の状況

#### 1 利用実績（2023年3月31日現在）

	定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1日平均	利用率
施設入所支援	50	45	-5	366	15964	43.6	87.2%
生活介護	50	45	-5	270	10170	37.7	75.3%
ショートステイ	4	4	±0	366	722	2	49.3%
日中一時支援		0	-4		0	0	0%

#### 2 施設入所支援利用者障害程度区分（2023年3月31日現在）

区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	1	4	40	45

#### 3 職員状況（2023年3月31日現在）

	施設長	副施設長	サビ管	生活支援員	看護師	栄養士
実人数	1	(1)	1	31	1	2
常勤換算人数	0.9	(0.1)	1	25.55	1	2
増減	0	(0)	0	-0.3	-0.5	0
	調理員	事務員	業務員			合計
実人数	5	1	0			43
常勤換算人数	3.95	1	0			35.5
増減	+1	0	0			-0.4

#### 4 残業、有給休暇取得状況

2023年度の総残業時間は2,777時間25分となった。一人当たりの平均時間として66時間となり、昨年度よりも時間外の削減に努める事が出来た。業務の効率化を図る事で負担の少ない業務内容となったと思われる。有給取得率は52%にとどまってしまった。効率よく取れるように、余裕のある職員配置を目指すべく人材確保に対して積極的になる必要があった。

#### 5 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

各ケース会、チーム会、ケース検討会、運営委員会、寮全体会を毎月又は毎月に近い形で開催した。

内部委員会としては、虐待防止委員会、給食員会、研修委員会、感染症対策委員会、身体拘束委員会を開催した。

外部委員会としては、法人関係の防災、事故、苦情に関する委員会に出席した。

法人外としては、行政（県、市）の自立支援協議会や強度行動障害関連、地域のケース会議、社会福祉協議会評議委員会、県知協障害協議会、志太榛原施設連絡会等に出席した

#### C 利用者の喜びのために工夫したこと

スヌーズレンルームを改造してWi-Fiが通るように設定した。ご利用者の好む動画を写したり、好きな音楽を流したりする活動に取り組んだ。また、コロナ過で外出できない日が続いている為、誕生日会でカラオケをしたり、秋祭りやクリスマス会のイベントで美味しい食事を食べたりと、ご利用者が楽しめるような行事を企画し実施した

#### D 職員の喜びや成長のための実践したこと

##### 1 同じ目標を認識するためのプログラムについて

寮全体会で全体研修を行う事で、チームとして学ぶ事や取り組むべきことに対する意識付けを行う事が出来た。また研修自体をグループで行う事で、チームワークの育成や、個々のスキルアップに繋げる事が出来た

##### 2 楽しい職場づくり、チームワークの形成について

貸与として、2種類のシャツに関してアンケートを取りながら企画し作成した。また、誕生日に福利厚生の一環としてお菓子を提供した

##### 3 研修報告

(施設内研修) 救急法、排泄ケア、手洗い指導、介護技術、セルフケア、身体拘束研修、事例検討、嘔吐物処理、KYT(危険予知トレーニング)、BCP研修

(法人内研修) 新卒者研修、中堅職員研修、事務関係 他

(法人外研修) ABA研修、強行研修、BCP研修 コミュニケーション研修 他

#### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

生活困窮者自立支援制度の一貫として、大津地区社協買い物支援での車両提供を月1回行った。また、社協主催の「福祉職つながりPJ」に職員が参加し、他事業所との繋がりを強める事ができた。地域の行事である「大津ふれあいまつり」への参加、島田市ニコニコクリーン作戦への参加、地域交流の一環として、しまだっ子にやまばとのお菓子をプレゼントするなど、地域との繋がりを大切にする活動に積極的に参加した。

#### F 家族との連携、交流、連絡など家族との連携、交流、連絡など

家族だより「みのり」を毎月発行して、情報提供に努めた。内容は担当から利用者の最近の様子、ケースチームごとに写真、各部門からの連絡事項、苦情、虐待の恐れのある事例に関する報告も掲載した。また、相談部門から事故については状況により家族報告を行った。保護者会奉仕作業や総会が行われ、事業所から連絡事項を伝えた。相談部門から個別支援計画に関する説明を行い、支援内容伝えた。

#### G 苦情とその対応に関する報告

1件ショート利用の保護者（正確には行政）より、身体に痣があったと報告を受ける。カメラの確認やその場にいた職員の事情聴取をし、虐待ではない事を確かめる。今後については受入れの際や終了時にボディチェックを行い、記録に残す。

#### H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

事故 84件（転倒、他害、薬関係、自傷、物損、無断外出）

ヒヤリハット 41件（転倒、他害、無断外出、物損、薬関係）

身体拘束 3,022件（居施設錠、繋ぎ服、4点柵、車いす2点ベルト）

行政報告となる事故は1件（抜糸を伴う怪我）となった。職員の情報共有や支援の統一が不十分だったと思われる。全体的に再発するケースが多いため、周知徹底を心掛ける必要があった。

## I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

毎月1回開催（火災想定、地震想定）。防災倉庫の備品確認は年1回行っている。今年度は通常の防災訓練に加えて、BCP発動時の動きについて訓練を行った。また、BCPに関しては、静岡福祉大教授や佛教大教授、県・市社協と話し合いを進めながら作成に取り組んだ。

## J 環境整備（100万円以上の修繕や改装など）

12/1～12に、山田組に依頼して電子錠を4ヶ所（来客用玄関、ホールから垂穂寮に入るドア、寮生玄関2か所）に設置する。カギの摩耗も減らす事ができ、またかがむ必要がないため、身体にかかる負担軽減にもつながった。

## K 収支状況、並びに、借入金返済報告

### 1 収支状況（事業活動）

科目	2023年度	2022年度	増減
サービス活動収益計	265,960,585	270,880,214	△4,919,629
サービス活動費用計	246,463,068	252,072,555	△5,609,487
経常増減差額	20,070,573	19,319,084	751,489
特別増減差額	△12,901,948	△17,929,159	5,027,211
当期活動増減差額	7,168,625	1,389,925	5,778,700

※サービス活動収益の内、寄付金収益（830,000円）

### 2 借入金償還状況

なし

## L 主務官庁に関連した報告

12月12日に実地指導を実施する。特に主だった問題はなかったが、感染症BCPによる訓練と研修を多なう様にと口頭による指示があった。

## M 実習生やボランティアに関する報告

ボランティア 調理：内藤せき様 洗濯：大石節子様 恵泉女学園  
民生委員（15名程度）

実習生：東京通信大学相談援助実習1名 静岡福祉大ソーシャルワーク実習1名  
清流館高校4名

見学：静福大施設見学（木下教授、ゼミ生（3名））

## N その他

今年度はクラスターもなく、落ち着いた生活を送ることが出来た。5類になったものの、未だに外出は制限をかけている。3月に入り外出の頻度や面会の頻度を多くして以前の様な形に戻りつつあるが、施設として十分な感染症対策を取る必要があった。条件づけではあるが、外泊まで出来るように努めて行きたい。



## A 2023 年度の目標と実践に関する振り返り

### 1 2023 年度事業計画に関する報告

#### (1) 明るい未来検討会における事業所改革の実施について

「業務改善」「環境整備」「職員の育成」「人間関係の向上」の4グループを柱に毎月1回、新型コロナクラスターによる中止を除く計11回開催した。聖隷クリストファー大学篠崎准教授の研修等の開催、機能の高いおむつへの変更、排泄・食事・入浴・日課に分かれての手順書作成などの業務改善、デザインコンペを経てユニフォームの作成、粗大ごみの処分や訓練室の整理や各所修理等が行われた。

#### (2) 感染予防対策の徹底について

感染症対策委員会を中心として、特に新型コロナウイルス感染症の予防に努めた。また、感染症対策の動画視聴を行った。マニュアルやBCPの見直しや作成に取り組むことができたが一部は未完成となっている。

新型コロナクラスター（18名感染）が2月に発生し、他事業所の協力を得ながら約3週間で収束に至った。

#### (3) 業務の3M（ムリ・ムラ・ムダ）に関する計画の実施と見直しについて

月間業務目標を11月から毎月設定し、3Mを意識した取り組みを行った。また、明るい未来検討会を通して業務改善や整理整頓を含めた環境整備の活動を通して、3M（ムリ、ムラ、ムダ）を意識し、業務の効率化に努める事ができた。

### 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

#### (1) ともに生きる、私たちの願い、サービス提供指針

職員日より希望と支援を7回発行し、職員に少しずつ伝える取り組みをおこなった。

#### (2) 働く仲間と力を合わせて前進していく

利用者様の支援内容について情報共有を進めるために、寮全体会、ケース会やチーフ会等話し合いを行った。

#### (3) 地域の福祉ニーズ

牧之原市自立支援協議会（重心部会、こども部会）に参画し地域ニーズの把握に努めた。

### 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

#### (1) 人権尊重の徹底

虐待に関する自己チェックシートの毎月の実施や、サポカレを活用した虐待防止研修を実施した。しかしながら、職員が利用者様は頬を叩く虐待の可能性のある不適切な支援が12月に発生した。

#### (2) 職員確保と育成

インターネット媒体やハローワーク、求人誌等への求人掲載を行った。紹介含めて正規職員1名、パートタイマー3名の採用に至った。

育成については、新人については指導職員の選任、明るい未来検討会人材育成グループ研修、サポカレを活用した研修、年4回の施設長面談を通しての目標設定と振り返り、事業所月間目標の設定と振り返りを行うことができた。

#### (3) 地域とのつながり（地域貢献含む）

関連事業所と連携の上で、毎月1回（計10回）坂部ふれあいサロンの送迎支援を行った。また、榛原中学校の資源回収や地域（坂部小学校）の資源回収に協力することができた。

## B 利用者と職員の状況報告

### 1 利用実績

	定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1日平均	利用率
施設入所支援	30	32	+2	366	10683	29.2	97.3%
生活介護	30	32	+1	269	7945	28.3	94.4%
ショートステイ	5	11	+6	366	179	0.5	9.8%
日中一時支援	5	10	+8	366	42	0.1	2.3%

入所者：6/1 男性1名 病院から、2/13 女性1名 在宅から

退所者：1/22 女性1名 特別養護老人ホームへ

前年度比：施設入所支援-2.2%、生活介護-3.0%、ショートステイ-19.0%、日中一時：+1.1%

### 2 職員状況（年度末現在、増減は昨年度末比）\*産前産後育休中職員含む

	施設長	副施設長	サビ管	生活支援員	看護師	栄養士
実人数	1	(1)	1	22	1	1
常勤換算人数	0.8	(0.1)	1.0	20.2	1.0	1.0
増減	+0.3	(0)	0	+0.6	0	0
	事務員	その他				合計
実人数	1	1				30
常勤換算人数	0.8	0.6				25.3
増減	-0.9	0				-0.1

\*産前産後又は育児休暇取得者 10/1～男性正規職員、11/1～女性パート職員

新規採用：正規職員2名 4/1 杉山（生活支援員）、9/1 阿部（生活支援員）

パートタイマー4名 6/1 原、6/13 太田園、12/1 由谷、1/1 伊藤（生活支援員）

退職：正規職員1名 6/30 山田（生活支援員）

パートタイマー4名 5/31 河原崎（事務員）、眞田（生活支援員）、

8/31 小野（生活支援員）、10/31 原（生活支援員）

配置転換（転入）：正規職員2名 4/1 大畑（施設長）、7/1 高松（生活支援員）

### 3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	2098.9時間	最高残業時間	386.0時間	有給休暇取得率	73%
-------	----------	--------	---------	---------	-----

職員一人当たり平均 72.4時間/年、平均6.0時間/月

前年度比で、有給消化率が5%減、総残業時間が317.6時間増（前年対比117.8%）

残業は、職員一人当たりの平均で約11.0時間/年、約1時間/月増。サービス残業減少への取組みが主な理由と考えている。

### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況（省略あり）

#### (1) 外部会議

新型コロナウイルス感染症予防に努めながら以下の会議に出席した。牧之原市自立支援協議会、県知協愛護ギャラリー展実行委員会、志太榛原施設連絡会 他

#### (2) 法人内会議

担当者を選任し以下の会議に出席した。経営会議、施設管理者会、苦情解決委員会、生活ケア会議、防災委員会、事故防止委員会、研修委員会 他

#### (3) 事業所内会議

定期開催、適宜開催等を決めた上で、以下の会議を開催した。また、会議を通しての情報共有に努めた。明るい未来検討会、寮全体会、主任者会、感染症委員会、チーフ会、給食委員会、給食検討会、納涼祭会議、虐待防止委員会 他

## C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

### 1 日課について

散歩、外気浴、スノーブレンやドライブなど日々の日課の中で取り組みを行った。

### 2 行事について

松浦先生音楽教室（毎月1回）、勝利さん音楽ク、誕生会（2か月に1回）、運動会、開寮記念行事、外出行事（エスパルス観戦、伊豆三津パーパガイ、オレンジマラソン、花鳥園他）、キッチンカー、納涼祭、クリスマス会、新年会、お楽しみ会、等を行った。

### 3 その他

赤堀医師・田代医師の来診（毎月1回）、健康診断（年2回）、新型コロナワクチン接種、インフルエンザワクチン接種、ブラッシング指導、訪問医療マッサージ（週3日、2月から週5日）、望月PTリハビリ（11月から開始毎月1回） 他

#### **D 職員の喜びや成長のために実践したこと**

- 1 共通目標を認識するための取組みについて
  - (1) 月間業務目標の設定  
毎月、職員が取り組む業務目標を寮全体会等で決定し、周知、評価を行い、80%の職員が達成した場合は次の目標を設定する取組を11月から開始した。
  - (2) 施設長面談の実施  
4半期に1回、施設長が職員面談を実施し、個別目標の設定と達成率の確認、その他困りごとや希望等の確認を行った。
  - (3) 情報の共有化のため取組み  
出勤時等の動線上に掲示板を設置、また、事業所内PCでグループメールが確認できるようにし、必要な情報を発信、共有できるようにした。
  - (4) 寮全体会  
寮全体会を通して、利用者支援の基本理念、個別支援状況の共有、感染症対策等を共有した。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して  
新人職員歓迎会、忘年会を実施した。また、デザインコンペを経てユニフォームを作成した。
- 3 職員研修
  - (1) 外部研修  
施設見学、静岡県、静岡県社会福祉人材センター、静岡県知的障害者福祉協会等主催の研修に延べ43名が参加することができた。
  - (2) 法人内研修（事業所外）  
法人全体研修、新人オリエンテーション、主任等研修、垂穂寮実習、グレイス実習、社労士研修、などの研修に延べ26名が参加することができた。
  - (3) 事業所内研修  
毎月虐待の芽チェックリストを実施した。サポカレ（意思決定支援、支援者のマナー、支援者の虐待を防ぐ）研修、統合失調症について、聖隷クリストファー大学篠崎准教授を講師に迎え観察力を高めるためのアセスメント研修を全職員に実施することができた。

#### **E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告**

- 1 地域に対する公益的取組  
関連事業所と連携の上で、毎月1回（計10回）坂部ふれあいサロンの送迎支援を行った。また、榛原中学校の資源回収や地域（坂部小学校）の資源回収に協力できた。
- 2 地域との交流  
地域の町内会（坂2班長会）定例会に出席し地域住民の方との関わりに努めた。また、ご近所に対して年始の挨拶周りを行った。

#### **F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告**

保護者総会並びに事業説明会を5月と3月に実施した。参加者は約半数。面会、外出は状況をみて可としたものの、新型コロナ感染拡大を理由に中止とした時期もある。

「家族だより どり〜む」を毎月発行し、各部門からの家族宛の情報提供に行った。

#### **G 苦情とその対応に関する報告**

2件。10月：短期入所利用者荷物紛失、家族連絡不足他、11月：利用者本人の身だしなみをもう少し意識して欲しい。

#### **H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）**

- 1 事故

- 合計で64件、月平均で約5.3件発生した。他害（他の利用者を叩くなど）が最も多い。
- 2 ヒヤリハット  
合計で16件、月平均で約1.3件発生した。転倒転落が最も多い。
  - 3 虐待  
虐待が疑われる行為が12月に1件発生した。
  - 4 身体拘束  
合計で5114件であった。サビ管を中心として施錠の見直しなどを行った結果、前年度比68%（2403件の減少）となった。数内訳は3985件（78%）が夜間等の居室施錠、634件（14%）がベッドからの転落予防のための夜間4点柵他となっている。対象者は24名となっている。

#### I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- 1 防災訓練  
安否コール返信訓練を毎月実施した。避難訓練については4回（6月、10月、11月（法人全体）、1月）に実施した。その他として備蓄の確認を行った。
- 2 被害状況  
なし

#### J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕等）

なし

#### K 収支状況、並びに、借入金返済報告

- 1 収支状況（事業活動）

科目	2022年度	当年度	増減
サービス活動収益計	201,235,365	192,134,989	△9,100,376
サービス活動費用計	177,366,663	181,137,740	3,771,077
サービス活動増減差額	23,868,702	10,997,249	△12,871,453
経常増減差額	25,299,277	11,236,024	△14,063,253
当期活動増減差額	2,558,633	1,860,612	△698,021

※サービス活動収益の内、寄付金収益（376,000円）

- 2 借入金償還報告 なし

#### L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

- 11/13 吉田消防署宛 6/15 立入検査消防法不適合に関する改善報告  
3/7 他 静岡県、牧之原市宛社会福祉施設等感染症等発生報告（第1～5報）

#### M 実習生やボランティアに関する報告

- 1 実習生  
実人数で9名の実習生を受け入れた。  
浜松学院短期大学、浜松未来総合専門学校、常葉大学、ジョブシャドウイング（相良高校）
- 2 ボランティア  
日赤奉仕団（草取り・清掃）、サマーショートボランティア（支援補助）、鈴木勝利様・吉永治子様（音楽教室）、保護者（草とり）、職員（年末年始応援、クラスター応援）、わかば職員（昼食応援・実習）

#### N その他

- 2月に新型コロナのクラスターが発生し、利用者14名、職員4名の合計18名が感染した。

## 2023（令和5）年度事業報告

（事業種別）共同生活援助  
（事業所名）わかば

### A 2023 年度の目標と実践に関する振り返り

#### 1 目標について

利用者の思いに寄り沿い、家庭的な環境作りを進め、安定した生活を送ることを目標に掲げましたが、高齢になったご利用者の介護保険サービス移行の検討、てんかん発作を発症がきっかけとなった体調の変化など、本来は予測して取り掛かるべき課題への準備不足が安定した生活環境の実現を遅らせる結果となっています。年度の後半には、てんかん発作、脳出血の対応のために救急搬送した事例も増え、救急対応についての役割分担・手順について振り返る機会となっています。

#### 2 事業報告

##### (1) 人権擁護と虐待意識の徹底

毎月虐待に関する自己チェックを毎月継続して行い、サポートカレッジ視聴による「虐待防止研修」を行い、7月と1月にチェックシートの分析を基にした支援の振り返りを実施。利用者の身体の変化が見られた場合に防犯カメラの記録を振り返り、原因の追究を行ってきました。

##### (2) グループホームの役割の理解

他施設での取り組み比較をすることにより、現環境で困難な支援、実現しやすい支援について考察し、実行する事により家族・成年後見人等関係者間のサポートを得ることが出来ました。また、ご利用者の医療に係る支援を通して、関係者と検討を重ねることによりグループホームとして行える支援の限度を学ぶ機会を得る事が出来ました。

#### 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

毎月行われる全体会議で「サービス提供指針」の読み合わせを行いました。

#### 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

##### (1) 地域とつながる

施設の立地環境からすると、交通機関を使用しなければ社会資源の活用が難しく地域との接点を得る事を課題としていた中、感染症の規制の緩和により家族の面会、日中一時帰宅の機会が多くなったことで、「地域とつながる」機会を持てたと思います。

##### (2) 理念の見える化・学び

毎月行われる会議では「サービス提供指針」の読み合わせを実施。施設で行っている支援の振り返りを実施してきましたが、法人が開催する研修には職員を参加させることが出来ず、理念を十分に学ぶ機会を職員に与えることが出来ませんでした。

### B 利用者と職員の状況報告

#### 1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
10	10	0	366	3656	9.9	99.8
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	1	0	6	3

#### 2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	その他	合計
実人数	1	1	5	6	1	0	12
常勤換算	0.25(兼務)	0.25(兼務)	2.88(兼務)	2.65	0.2	0	6.23
計画との差	0	0	0 (0.38)	0 (0.65)	0	0	0 (1.03)

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	278.0	最高残業時間	119.0	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	72.0
-------	-------	--------	-------	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	11	隔月 2回/年	給食検討会	1
	給食委員会	1		法人苦情解決委員会	1
	生活ケア部会	1		法人事故防止委員会	1
	施設管理者会	1		法人虐待防止委員会	1
	明るい未来検討会	4			
	施設検討会	3			

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・春の遠足、スイーツづくりの行事を実施した。
- ・土曜日・日曜日にも生活のリズムを崩さないよう、また身体能力の維持を目的とした散歩等の運動を継続してきた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎朝	理念の継承	全員	サービス提供指針の読み合わせをした。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- ・「明るい未来検討会」から引き継いで「施設検討会」を開催してきました。「不適切ケア」廃止を徹底させるため取組と、ご利用者の意思をより尊重した支援の検討を継続した。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	5/15	サポカレ(虐待防止)	10	12/12	サポカレ(障害特性)	10
	6/12	サポカレ(虐待防止)	11	1/15	サポカレ(障害特性)	10
	10/11	サポカレ(障害特性)	8	2/12	サポカレ(障害特性)	10
施設外研修	12/3	強度行動障害支援者養成研修(実践)	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
4/9	吉田港ビーチクリーン	職員2名、利用者2名
9/10	吉田港ビーチクリーン	職員1名、利用者2名
11/5	吉田港ビーチクリーン	職員2名、利用者2名
1/13	島田市地域交流イベント参加	職員1名、利用者1名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
3回/年	保護者会	職員、保護者

- ・保護者会で立替金制度への移行・実施について説明を繰り返し行った。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

なし

**H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告**

事故	13	ヒヤリ	10	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

事故：転倒、転落、服薬ミス、衝突等。

ヒヤリ：ふらつき、転倒未遂。

**I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告**

- ・防災訓練（地震、水害想定）実施。
- ・8/31 わかば・もくれん合同消火訓練。
- ・11/24 法人全体防災訓練実施。

**J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）**

なし

**K 収支状況、並びに、借入金返済報告**

## 1 収支報告（事業活動）

科目	2023年度決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計	34,349,159	34,200,783	108,876
サービス活動費用計	34,124,050	33,739,273	384,777
経常増減差額	230,984	473,328	△242,342
特別増減差額	△800,000	△1,500,000	700,000
当期活動増減差額	△569,014	△1,026,672	457,658

## 2 借入金償還報告

なし

**L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）**

なし

**M 実習生やボランティアに関する報告**

なし

**N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）**

- ・創立13年

## 2023（令和5）年度事業報告

（事業種別）共同生活援助  
（事業所名）もくれん

### A 2023 年度の目標と実践に関する振り返り

#### 1 目標について

利用者の想いの寄り添い、家庭的な環境作りを進め、安定した生活を送ることを目標に支援しました。支援者間での連携を高める為にも、ご家族・成年後見人にも声を掛けさせていただき、例年よりも多く面会・行事の参加を実施することが出来ました。社会資源活用については、グループホーム職員が主にサポートしていた為、配置人員の調整等が難しく、十分な成果は上げることが出来ませんでした。ご利用者家族の高齢化等が課題となり成年後見制度を活用するご利用者も増えました。個人の生活を豊かにしていくために、グループホーム職員だけのサポートだけでなく、様々なサービスの活用を検討・実行を始めた年になりました。

#### 2 事業報告

##### （1）人権擁護と虐待意識の徹底

毎月虐待に関する自己チェックを毎月継続して行い、サポートカレッジ視聴による「虐待防止研修」を行い、7月と1月にチェックシートの分析を基にした支援の振り返りを実施。利用者の身体の変化が見られた場合に防犯カメラの記録を振り返り、原因の追究を行ってきました。

##### （2）グループホームの役割の理解

他施設での取り組み比較をすることにより、現環境で困難な支援、実現しやすい支援について考察し、実行する事により家族・成年後見人等関係者間のサポートを得ることが出来ました。また、困難事例を通し支援者間での連携を実感できた1年にもなりました。ご利用者の生活を支える一つのサービスとしてグループホームが存在している事について学ぶ事が出来ました。

#### 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

毎月行われる全体会議で「サービス提供指針」の読み合わせを行いました。

#### 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

##### （1）地域とつながる

施設の立地環境からすると、交通機関を使用しなければ社会資源の活用が難しく地域との接点を得る事を課題としていた中、感染症の規制の緩和により家族の面会、日中一時帰宅の機会が多くなったことで、「地域とつながる」機会を持てたとします。

##### （2）理念の見える化・学び

毎月行われる会議では「サービス提供指針」の読み合わせを実施。施設で行っている支援の振り返りを実施してきましたが、法人が開催する研修には職員を参加させることが出来ず、理念を十分に学ぶ機会を職員に与えることが出来ませんでした。

### B 利用者と職員の状況報告

#### 1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
10	10	0	366	3616	9.88	98.8
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	1	4	4	1

#### 2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	その他	合計
実人数	1	1	5	12	1	0	12
常勤換算	0.25(兼務)	0.25(兼務)	2.0(兼務)	4.7	0.2	0	7.4



計画との差	0	0	△1 (△1.0)	1 (0.7)	0	0	0 (△0.3)
-------	---	---	--------------	------------	---	---	-------------

### 3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	309.0	最高残業時間	158.5	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	56.0
-------	-------	--------	-------	---------	-----	---------	------

### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数	
毎月	職員会議	10	隔月	給食検討会	1	
	給食委員会	1		2回/年	法人苦情解決委員会	1
	生活ケア部会	1			法人事故防止委員会	1
	施設管理者会	1			法人虐待防止委員会	1
	明るい未来検討会	3				
	施設検討会	3				

### C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・季節ごとの小外出、バーベキューパーティー、ご利用者様の希望をとった昼食作り等の行事を行った
- ・土曜日・日曜日にも生活のリズムを崩さないよう、また身体能力の維持を目的とした散歩等の運動を継続してきた。

### D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎朝	理念の継承	全員	サービス提供指針の読み合わせをした。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
- ・「明るい未来検討会」から引き継いで「施設検討会」を開催してきました。「不適切ケア」廃止を徹底させる取り組みと、ご利用者の意思を尊重した支援の検討を継続した。

### 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	5月	サポカレ(虐待防止)	13	1月	サポカレ(支援の基礎)	10
	6月	サポカレ(虐待防止)	13	2月	サポカレ(支援の基礎)	10
	9月	サポカレ(支援の基礎)	10	3月	サポカレ(支援の基礎)	10
	12月	サポカレ(支援の基礎)				
施設外研修	1/22	強度行動障害支援者養成研修(基礎)	1			

### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
4/9	吉田港ビーチクリーン	職員1名、利用者2名
7/2	吉田港ビーチクリーン	職員2名、利用者2名
8/13	吉田港ビーチクリーン	職員2名、利用者2名
9/10	吉田港ビーチクリーン	職員2名、利用者2名
1/13	島田市地域交流イベント参加	職員1名、利用者1名
3/3	吉田港ビーチクリーン	職員1名、利用者2名、ボラ1名

**F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告**

日付	内 容	参加者
3回/年	保護者会	職員、保護者

- ・保護者会で成年後見制度の活用について説明を繰り返し行った。

**G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）**

なし

**H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告**

事故	53	ヒヤリ	29	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

事故：転倒、転落、服薬ミス、自由外出等。

ヒヤリ：ふらつき、転倒未遂等。

**I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告**

- ・防災訓練（地震、火災想定）実施。
- ・8/31 わかば・もくれん合同消火訓練
- ・11/24 法人全体防災訓練実施。

**J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）**

なし

**K 収支状況、並びに、借入金返済報告**

## 1 収支報告（事業活動）

科目	2023 年度決算	2022 年度決算	増減
サービス活動収益計	35,961,505	33,987,298	1,974,207
サービス活動費用計	33,764,498	33,203,717	560,781
経常増減差額	2,198,022	805,178	1,392,844
特別増減差額	△1,500,000	△1,500,000	0
当期活動増減差額	698,022	△694,522	1,392,844

## 2 借入金償還報告

なし

**L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）**

なし

**M 実習生やボランティアに関する報告**

なし

**N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）**

- ・創立13年
- ・2024年度の食事提供体制について、天候不良・燃料費等の改善を目的からウェルビーからスマートミールサービス(チルド食品を専用スチーマーで温めて提供する)へ変更を検討・実施した。

## 2023（令和5）年度事業報告

共同生活援助事業所  
みぎわ

### A 2023年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2023年度事業計画に関する報告（総括）

職員の専門性の向上については、法人内の研修や外部研修に正職中心に参加。全職員には短時間でも可能なリモート研修を提供したが、十分に活用出来なかった。  
記録システムについて、業務記録に活用し始めた。

3 施設合同の防災会議等を行なった。職員の大きなケガによる緊急時には、隣接施設で勤務調整をすることで、対応することが出来た。  
外部機関との連携については、利用者移行の対応もあり小まめな連絡を取れた。感染症対応については、エリア分けをすることで感染拡大を予防出来た。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告  
理念の浸透と実践については、ともに生きる、私たちの願いを職員会議の参加者で唱和し、確認の場とした。  
個別で短時間の買い物等を、感染予防に注意して行った。  
利用者ミーティングで個人の意見や要望を傾聴する時間を設けた。
- 3 「法人の当年度重点計画」関連した活動報告  
やまぼと主催の地域交流地域貢献事業（カフェ）へ、利用者・職員が参加し、地域の方と触れ合った。

### B 利用者と職員の状況報告

#### 1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1日平均	利用率	
15	14→10	-4	366	4876	13.2	88.8%	
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
2→0	0	1	4→3	4→1	5	0	14→10

#### 2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	合計
実人数	1	2	8	8	1	20
常勤換算人数	0.1	0.2	3.7	3.6	0.5	8.1

#### 3 残業、有給休暇取得状況

年間総残業時間は433時間。月平均で36時間であった。1人当たりの月平均は3.6時間程度。最も多く残業を行った職員は、年間116時間、1か月平均9.7時間であった。  
有給休暇取得状況については、全体では51.8%の取得率、最高は100%（2名）、最低は25%（1名）であった。職員の入院などで、時間外の増加、有休取得率の低下があった。

#### 4 職員会議、委員会、外部委員会

職員会議を感染予防に配慮しながら計9回開催し、重要事項の連絡等を行った。  
外部委員会は法人関連の虐待防止、防災、苦情に関する委員会に出席した。また、隣接事業所との連携を目的として防災、給食委員会に参加した。  
その他として、隣接事業所との連携を深めるために、防災や管理者等の会議を行い、必要事項の情報交換を行った。また、自立支援協議会の研修、部会会議やケース検討会に参加した。

### C 利用者の喜びのために工夫したこと

隣接する施設の余暇設備（通信カラオケ）を利用して、余暇時間の充実を図った。  
季節の行事（クリスマス会）では、テイクアウトメニューの利用等を活用した。  
毎月のミーティングや個別での意向や希望を聴く時間を設けて、支援や行事等に活かしていた。

### D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムについて  
職員会議の冒頭、理念の継承を目的として「わたしたちの願い」の読み合わせを行った。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して  
利用者移行に向けて、職員同士で協力して対応を行なった。
- 3 研修報告  
外部研修として、サービス管理者更新研修、島田市虐待防止研修、自閉症研修に参加した。法人内研修として、新年度研修、防災研修。事業所内研修として、職員会議の際に法人理念、事前に動画視聴した感染症と虐待に関する学び等を行った。

**E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告**

昨年より毎月第三水曜に拠点で、公用車を地域の方への貸し出しを行なった。  
7、9月やまばと主催の地域交流地域貢献事業（カフェ）へ、利用者・職員が参加した。  
12月に自立支援協議会の部会が主催する、地域の清掃活動に職員が参加した。

**F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告**

家族便りを毎月発行し、情報提供に努めた。また、情報共有、意見交換会を1度実施した。

**G 苦情とその対応に関する報告**

苦情の報告はなかった。

**H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告**

年間を通じて、事故10件、ヒヤリハット18件、身体拘束14件、虐待0件であった。事故については転倒が最も多かった。原因は身体機能の急激な低下によるものであった。

**I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告**

コロナ感染、職員の緊急入院対応による中止を除いて、計10回の防災訓練を実施した。また、3施設合同の防災委員会を開催し、BCPの見直しを行なった。

**J 環境整備に関する報告**

水道管の工事396,000（税込）、給湯器、居室エアコン交換等も行なった。

**K 収支状況、並びに、借入金返済状況**

1 収支状況（事業活動）

科目	2023年度	2022年度	増減
サービス活動収益計	35,959,294	42,735,433	-6,776,139
サービス活動費用計	41,767,656	43,250,080	-1,482,424
経常増減差額	-5,244,498	-514,547	-4,729,951
特別増減差額	4,571,299	-1	4,571,300
当期活動増減差額	-673,199	-514,548	-158,651

※サービス活動収益の内、寄付金収益（20,000円）

2 借入金償還状況 なし

**L 主務官庁との関連した報告**

特になし。

**M 実習生やボランティアに関する報告**

実習生の受入れ実績はなし。就職前の現場体験2名。

**N その他**

青葉棟の老朽化による修繕等が困難な為、9月に法人と相談して青葉棟を閉鎖することに。定員も15名から10名へ縮小に向けて取り組んだ。3月末で契約者10名となった。その為収益が大きく減ってしまった。

職員が7月、2月と業務中と通勤中に大きなケガを負い、隣接施設の協力で対応した。

2023（令和5）年度事業報告

生活介護  
ケアセンター花もも

**A 当年度の目標と実践に関する振り返り**

1 目標について

大きなケガ、病気をすることなくご利用者、職員ともに過ごすことが出来た。11月に新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生したが長引くことなく収束した。新たな外部講師（音楽）を招いての活動も始まり楽しい時間やご利用者が自ら選択できるよう配慮し自己決定することで主体的に活動に臨めるように心がけた

2 事業計画

(1) 障害特性に配慮した環境整備を行う

エリア分け、ホール内での居場所、余暇活動の見直しを行い落ち着いて過ごせるように配慮した。

3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

(1) 職員の自主的な発想や意見を大事にし作品展、クラブ活動などご利用者が生き生きと過ごしていただけるよう心掛けた。

(2) さかべサロン送迎、エコキャップ、使用済み切手などのエコ活動、地域の催事や文化祭への参加を通し啓発活動及び地域貢献に努めた

4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

(1) 同性介助への取り組み

外部講師を招き職員全員で検討し花もも独自の『同性介助についての信条』を作成した。目に触れる場所（職員室）に掲示し毎月の支援者会議内で唱和している

**B 利用者と職員の状況**

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	20	+0	254	4,255	16.75	81.4
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	0	3	10	7

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	調理員	事務員	合計
実人数	1	1	10	1	0	1	13（兼務2名）
常勤換算	0.3	0.7	7.17	0.4	0	0.3	8.92
計画との差	±0	±0	+1	-0.1	±0	±0	+0.52

※年度途中で準職員2名入職したため常勤換算数が上がった

3 残業と、有給休暇取得状況

総残業時間	263.75	最高残業時間	82.75	有給義務所得率	100	有給休暇取得率	82
-------	--------	--------	-------	---------	-----	---------	----

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加人数	開催月	種類	参加人数
毎月	職員会議・ケース会	全員	隔月	自立支援ネットワーク	1
	生活ケア部会	1		給食検討委員会	1
	給食委員会	1	2回/年	法人防災委員会	1
	管理者会	1			

**C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）**

1 年4回クラブ活動を実施。活動内容や小グループ外出先、食事などご利用者の希望を聞き取った内容のものサービスを提供できた。

- 2 塗り絵、アイロンビーズなどの作品を展示し『花もも個展』を初開催した。他にも坂部地区の文化祭や喫茶ほとりに展示。地域の人たちに利用者、事業所の啓発活動に努めた
- 3 効果的にスヌーズレンを導入するために体験、見学、研修を実施した。

#### D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、以下のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
毎朝 職員会議	理念の継承	全員	朝礼で『わたしたちの願い』を読み合わせた 会議にてサービス提供指針を読み合わせた

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 当事者意識を持って会議に参加してもらえるよう1人1発言を心がけた。
- (2) 正職・パートリーダーを中心とし、相談しやすい関係性、職場環境を目指した。面談などを通し職員の思いに耳を傾け場合に応じて業務改善につなげた

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	6/2	身体拘束&虐待防止 サポカレ障害特性	10	12/2	感染症講座	10
	2/2	身体拘束&虐待防止 ユーチューブ視聴	10	7/7	スヌーズレン体験&見学	10
				9/1	スヌーズレン講座	10
	9/29	ブラッシング講座		8/4	ヨガレッスン	9
1/5	花ももBCPについて	9	10/6	同性介助の取り組みについて	10	
				10/20	起震車体験	35
法人研修	1/19	主任等研修	1	4/15	新年度研修	10
	7/12	1.2等級研修	2	9/8.7	事例検討会	2
施設外研修	9/22	喀痰吸引等研修第2号	1	1/31	富士見学園実践研究報告会	2
	10/3	喀痰吸引等研修第3号	1			
	2/7	権利擁護研修	1			

#### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
毎月	坂部サロン参加者送迎	職員1名
適宜	エコ活動(使用済み切手、空き缶収集)	職員全員 利用者2名
9月	坂口谷川かかし祭り 喫茶ほとりに催事 自主製品販売	全員 2名
10月	坂部区民センター文化祭 作品出展	全員
11月	牧之原市産業フェア 自主製品販売 「皆で作る楽しいマルシェ」自主製品販売	職員1名 委託販売

#### F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者
2回/年	保護者会	保護者、職員
12月	クリスマス会招待	保護者、利用者、職員
毎月	花もも便り&号外号	

#### G 苦情について対策(前年度を振り返って考えること)

前年度苦情件数0件

#### H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

事故	23	ヒヤリ	110	虐待	0	身体拘束	1374
----	----	-----	-----	----	---	------	------

事故：転倒・他者を叩く・車両事故

ヒヤリ：ふらつき・連絡ミス  
身体拘束：車いす腰 胸ベルト装着（同意書あり）

**I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告**

「安否確認コール」の年間返信率は91%  
近隣事業所（聖ルカホーム・真菜・グレース）と協働で起震車体験を実施  
災害時に必要とされる防災用品（発電機等・ポータブル電源等）を備えた

**J 環境整備に関する計画（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）**

2月 女子トイレ便器修繕  
3月 テラスにスロープ設置

**K 収支、並びに、借入金返済報告**

**1 収支報告（事業活動）**

科目	2023年度決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計	57,009,101	50,150,580	6,858,521
サービス活動費用計	53,029,337	51,228,314	1,801,023
経常増減差額	4,032,224	△968,289	5,000,513
特別増減差額	△3,263,375	15,107,606	△18,370,981
当期活動増減差額	768,849	14,139,317	△13,370,468

2 借入金償還計画  
なし

**L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）**

**M 実習生やボランティアに関する見込みや計画**

- 1 実習生：10月 ジョブシャドウ 3名（相良高校生）  
3月 インターンシップ 1名（相良高校生）
- 2 ボランティア：隔月 おはなしぽっぽ（読み聞かせ）  
12月～毎週1回 静岡大学大学院 土本さん
- 3 外部講師：毎月 音楽教室  
隔月 笑いヨガ

**N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）**

・創立27年（移転名称変更後2年目）

## 2023（令和5）年度事業報告

生活介護事業所  
ケアセンター野ばら

### A 2023年度の目標と実践に関する振り返り

#### 1 事業所の2023年度事業計画に関する報告（総括）

3施設間での会議は2回のみ行ったが、普段から話し合いを行う機会が多いため、会議自体は終了とした。それでも各事業所の課題等に対して他の事業所が即時に対応し、各々の事業所の負担軽減に繋げることが出来た。また、通所会議やソフトスタッフ会議にて事業所の課題を取り上げ、全体で検討し問題解決に取り組むことが出来た。地域との連携の数は少なかったが、ニコニコクリーン作戦や「しまだっ子」へのプレゼント配布等に取り組むことが出来た。

#### 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

野中式事例検討の研修を通して、本人中心支援について学び、個別支援計画に反映させた支援を行う事ができた。また、会議等で研修会を開き、全体で学ぶ事でチームワークの強化に繋げることが出来た。

#### 3 法人の当年度重点計画との関連

第三者評価は今年度受審しなかった。事業の見える化のための準備も出来ていなかったため、来年度は早急に進めて受審できるようにしていきたい。虐待等に関しては、事故・ヒヤリハットの検討やご利用者に関する支援方針を全体で共有する事で風通しの良い施設を目指し、虐待の根絶に努めた。

### B 利用者と職員の状況

#### 1 利用実績（2023年3月31日現在）

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1日平均	利用率	
20名	20名	±0	255	4,578	17.9	89.8%	
区分3		区分4		区分5		区分6	合計
1		2		8		9	20

#### 2 職員状況（2023年3月31日現在）

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	調理員	事務員	合計
実人数	1	1	11	1	1	1	16
常勤換算人数	0.1	0.5	7.5	0.1	1.0	1.0	10.2
増減	0	0	-0.6	0	0	0	-1.1

#### 3 残業、有給休暇取得状況

年間総残業時間は375時間45分で昨年度よりも96時間多かった。一人当たりの月平均は2.2時間だが、個々の残業時間数にばらつきがあり、最も多い職員は月平均6.6時間となっている。業務の割り振りを平均化する必要があると思われる。有給取得は84%ではあるが、個人差が多く最も低くて26%となった。

#### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

通所（職員）会議、各ケース会議、ソフト（常勤）職員会議を毎月実施し、ご利用者の支援の方向性や環境整備に関する検討等を行った。外部委員会は法人関連の虐待防止、防災、苦情、事故に関する委員会に出席した。また、島田市の自立支援協議会への参加も積極的に行った。

### C 利用者の喜びのために工夫したこと

健康維持を目的として、晴天時は基本的に散歩に出かけている。雨天時はドライブやカラオケをして楽しんでいった。研修で勉強した知識を活かしスノーズレンを取り入れた。その他の行事としてクッキング、七夕の会、秋祭り、クリスマス会、節分、ミニエンジョイを実施した。通常活動は散歩、作業、リハビリ、プール（夏季限定）を実施した。

### D 職員の喜びや成長のために実践したこと

#### 1 同じ目標を認識するためのプログラムについて

毎月重点目標を掲げ、目標に対する意識付けを行う事ができた。また、会議時にサービス提供指針やスタッフの服務心得を読み合わせる事で、福祉職員としての意識向上に努める事ができた。



## 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して

施設長面談を年2回実施する。年1回職員研修を実施し、チームワーク力の強化に努めた。また、会議で1人1発言を目標にファシリテーターが指名し発言を促すことが出来た。また、福利厚生を利用して、年末の食事会を実施した。

## 3 研修報告

施設内研修として、手指消毒研修、KYT（危険予知トレーニング）研修、嘔吐対応研修、身体拘束研修、野中式事例検討会を実施した。施設外研修は今年度の実施できなかった。法人内研修としては、中堅職員研修、事例検討会、フレッシュマン研修に参加した。

## E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

島田市のニコニコクリーン作戦への参加、「しまだっ子」と協力して、クリスマスでのお菓子の配布を行った。また、第3句民生児童委員による花植え、草取りが行われた。

## F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

毎月1回保護者会を行い、その際に野ばらの様子等について保護者と話し合いを行った。9月には理事長と対談を実施し、保護者の思いや法人としての動きについて相互理解を得る事ができた。

## G 苦情とその対応に関する報告

今年度は0件であり、今後も苦情等が出ない様な風通しの良い施設を目指して行く。

## H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

年間通して事故48件（転倒、盗食、他害（怪我あり）、無断外出）、ヒヤリハット27件（転倒、盗食、他害（怪我なし））、身体拘束257件（車いす2点ベルト）となった。転倒による事故報告は同様のケースが重なった事もあり、職員の周知徹底が出来ていない結果となった。会議では3か月前の報告書に関して再発があったがどうかを検討する機会を設けた。

## I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

火災や地震想定避難訓練を毎月1回実施した。また、3施設のBCPのすり合わせで垂穂寮の防災委員を中心として統一を図るように努めた。

## J 環境整備に関する報告

今年度は特に大きな環境整備は無かった。

## K 収支状況、並びに、借入金返済報告

### 1 収支状況（事業活動）

科目	2023年度	2022年度	増減
サービス活動収益計	61,010,811	50,028,477	10,982,334
サービス活動費用計	46,435,099	50,111,227	△3,676,128
経常増減差額	14,821,490	△81,492	14,902,982
特別増減差額	△7,590,000	0	△7,590,000
当期活動増減差額	7,231,490	△81,492	7,312,982

※サービス活動収益の内、寄付金収益（0円）

### 2 借入金償還状況 なし

## L 主務官庁との関連した報告

特になし

## M 実習生やボランティアに関する報告

ボランティア 鈴木久美子様（新聞紙のゴミ箱寄付） 島田看護学校生1名  
実習生 東京通信大学相談援助実習生

## N その他

コロナが5類になり、バス旅行を再開した。

## 2023（令和5）年度事業報告

生活介護  
ケアセンターかたくりの花

### A 2023 年度の目標と実践に関する振り返り

#### 1 目標について

かたくりの花支援計画の3本柱（自立の促進・健康維持・生活の質向上）に沿って意思決定を目指した支援提供を実施した。利用者会議を開き他者の意見にも耳を傾けた。

#### 2 事業報告

(1) 利用者会議の場面を多く提供し、発信する小さな思いも受けとめ意思を尊重する。言葉で伝えることが出来ないご利用者の思いを受け止めるためには、手足の動きや表情から気持ちを観察し実施した。小さな目の動きを見逃さず、言葉に表すとまたその言葉にサインを出し何度も繰り返しの作業になるが、伝わった時のご利用者の顔は最高の表情へと変わり満足度がアップしている。

(2) 他者の意見にも耳を傾けチームで共有し、気持ちの折り合いがつく場面を提供。音楽活動等自分がやりたい事を確認し対応しているが、チームで話し合い一つの事を決め進めることで他者の意見を聴くことが出来た。チームで決めたことが達成出来た時の充実度はとても大きく自信になり、他の活動での意欲へと繋がった。

#### 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

ご利用者の気持ちを引き出す意思決定や、ご家族には引き渡し時に「気になる事はありませんか？」と苦情になる前の声掛け、そして支援に関わる職員には一日の中で困ったこと等の話を聴き気持ちを切り替える時間を設けることで全体のコミュニケーションを図った。ご利用者とご家族そして職員を大切な人としての対応を実施した。

#### 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

##### (1) 新人職員の育成のため施設内研修

全体職員会議の中研修を計画したが、一番参加して欲しい職員の欠席が多かった為会議や研修時間を検討する。会議報告については欠席者に後日説明実施した。サポカレ研修は分かりやすく短時間で受講できる為21研修に合計113名の参加。

##### (2) 同性介護（介助）

職員の協力のもと職員配置をその都度変更し対応可能な限り実施した。対応出来ない時は「〇〇が対応します。いいですか」と声掛け実施した。

### B 利用者と職員の状況報告

#### 1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	20	0	254	4337	17.07	85.37
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	0	3	11	6

※特記事項を記入 コロナ感染と併用により利用日数減のご利用者2名の為利用率が減。

#### 2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	事務員	その他	合計
実人数	1	1	10 (内1兼務)	1	1	0	12
常勤換算	0.1	0.9	7.6	0.6	0.4	0	9.6

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	327	最高残業	56.5	有休義務	100	有給取得	74%
-------	-----	------	------	------	-----	------	-----

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	ケース会議	13	毎月	全体職員会議	約10名
3/28	法人防災委員会	1	5/24. 11/21	ヒヤリ・事故防止委員会	1
6/22. 9/13. 9/28 12/21. 2/15	くらし部会	1	7/6. 10/22. 1/18. 3/8	島田市重心部会	1
12/9.	志太榛原重心部会	1	2/21	法人虐待防止委員会	1
4/26. 10/25	苦情解決委員会	1	4/26. 10/25	法人苦情解決委員	1

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 8回/年のクッキングでどんな材料で何を作るのかを利用者会議を開き決めた。完成したデザートに面白おかしいネーミンを付け、楽しみながら意思決定へと繋げた。
- 初めて笑いヨガを1月2月3月と連続で取り入れた。ご利用者も職員も歌い踊りお腹を抱えて大笑い。笑うことが運動となり情緒面安定に繋げることが出来た。
- コロナも少し落ち着き今年は野外での体験を重視した。農園さんのご好意によりいちご狩り、芋拾い、キンカン狩り、コスモス摘みを実施した。イチョウ並木散策で今まで見た事の無い黄褐色に大感激し、季節を感じる体験を提供出来た。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
朝 全体会議	理念の継承	全員	朝の打ち合わせ時にサービス提供指針を唱和。 会議時には服務心得の読み合わせ。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
  - (1) 職員歓送迎会を開きおしゃべりな場所と美味しい食事で職員親睦を図り、誕生日には朝のミーティング時に皆でお祝いの言葉と拍手を送った。どの職員も誕生日は最高の笑顔で勤務に励んでいた。
  - (2) 勤務終了時には管理者から「お疲れさま。今日もありがとね。」の一声で、気持ちを切り替えて帰宅や出勤が出来るように労いの言葉を実施した。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内 研修	5/10	虐待事案に正しく	8	6/9	リスクマネジメント	12
	6/12	虐待はなぜ起こる	1	8/8	傾聴のスキル①・②	6
	6/13	身体拘束	2	7/11	質問スキル①	12
	4/12	サポカレ感染症対応	8	8/14	てんかん発作	1
	2/13	感染症個人対応	7	9/8	代表的な疾病	3
	7/10	コーチング	12	7/12	意思決定支援	1
	11/24 12/14 1/20	スヌーズレン研修 通所BCP（風水） リーダーシップ	11 3 1	3/23	風通しの良い職場 チームで働く為の発信 力と傾聴力	10 10
法人研 修	4/15	新年度研修	11	6/13	簿記入門講座	1
	6/16	1・2等級職員研修	1	8/3	交通安全講習会	1
	9/7	事例検討会	1	9/22	小山先生人事評価研	1
	10/17	フレッシュマン研修	1	12/8	法人防災研修	1
施設外 研修	8/9. 23	感染症ケア実践者向研	2	10/20	重心対応支援従事者	1
	10/23	感染症担当者向け研修	1	11/21	福祉施設職員防災研修	1
	12/9	多職種連携研修	1	1/21	自閉症研究会	1
	1/31	虐待防止講演会	1	2/1. 2	甲種防災管理新規講	1

**E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告**

日付	内 容	参加者
2回/月	散歩コースのゴミ拾い	職員、利用者全員対象
2回/月	地域のアルミ缶回収と収集所整理整頓	職員 4～5名、利用者 5～7名

**F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告**

日付	内 容	参加者
3回/年	保護者会	保護者、職員
毎月	かたくりの花お便り「風さゆる」を配布	利用者、保護者、職員
12/8	大掃除	保護者 12名、職員 5名

**G 苦情について対策**

苦情なし（毎日の登所や送迎等の引き渡し時に何か気になる事や困っている事をお伺いする声掛けを実施することで苦情になる前にお話を聴くことができる。）

**H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告**

事故	1	ヒヤリ	37	虐待	0	身体拘束	1302
----	---	-----	----	----	---	------	------

事故：送迎終了後本部訪問時追突車事故

ヒヤリ：ふらつき・転倒・むせる・車椅子ストッパー忘れ等

身体拘束：車いすベルト装着（同意書に基づき）1271件 橈骨神経麻痺治療腕固定（Dr指示）30件 行動制限（不安定になり他害あり：同意書に基づき）1件

**I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告**

防災（BCP・災害・感染症）、マニュアル等改訂中

施設防災訓練（火災・地震）毎月実施。皆でホール内の危険箇所確認し防災頭巾の顎ゴムをしっかりと締めることを学んだ。そして職員の誘導に耳を傾け皆が真剣に取り組んだ。

11/24 保護者への引き渡し訓練を実施。法人防災訓練も含め総合防災訓練を2回実施。

**J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など） なし****K 収支状況、並びに、借入金返済報告**

## 1 収支報告（事業活動）

科目	2023年度決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計	53,838,569	57,299,320	△3,460,751
サービス活動費用計	43,847,979	47,278,816	△3,430,837
経常増減差額	9,994,208	10,022,722	△28,514
特別増減差額	△2,999,999	△2,929,621	△70,378
当期活動増減差額	6,994,209	7,093,101	△98,892

## 2 借入金償還報告

なし

**L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など） なし****M 実習生やボランティアに関する報告**

2回/年：岩本造園さん（2名）庭木の手入れと草刈

1回/年：金谷手打ちそばの会さん（3名）手打ちそばの実演

2回/年：ピエロ・獅子舞の訪問（2名）

2回/年：喫茶アルムさんより行事（夏祭り・クリスマス会）時コーヒー提供

5/30. 11/30：個別外出にてボランティア1名参加

**N その他**

2006年4月1日開所

**A 2023 年度の目標と実践に関する振り返り**

## 1 目標について

「利用者が安心、安全に働き、希望を持てる事業所へ」昨年度、市民から職員の接遇、利用者への関わり方等で苦情の投書があったことから、今年度は職員が一致団結し事業所を利用者も職員も働きやすく希望が持てる事業所へと進めてきた。コミュニケーションが取れるように環境設備の変更、業務の見直しやマニュアル作りを行い、今年度は苦情等はなかったです。今後も円滑に事業が進められるように、今以上に安心、安全に働き、希望を持てる事業所になるようにしていきたい。

## 2 事業報告

- (1) 職員の育成 昨年度職員の処遇や接し方に関して苦情があったことから、今年度は福祉事業所並びに就労支援の事業所の職員としてふさわしい接遇、関わり方を身に付けられるように、身だしなみをはじめ、あいさつなど一般的なことから、支援に関してもサポートカレッジを中心に学習会を職員会議の中で実施しました。
- (2) 一般就労に必要な知識の習得や社会経験を増やすことを目的とした勉強会や講習会の機会は多く持てなかったが、今年度2名の方が一般就労することができた。1名は新しく法人内のパート就業規則で明記された、利用者から職員への身分変更で、当事業所で職業指導員として採用。1名は圏域の障害者就業・生活支援センターからの情報から地域の放課後児童クラブの補助スタッフとして一般就労することができた。
- (3) 今年度は当事業所のプレハブ設置や環境課の計画のストックヤード増設工事など委託先である島田市環境課と連携を取って事業を展開する機会があり、情報の共有を密にし、連携を取りながら事業を進めることができました。今後も今以上にお互いに情報を共有、相談、連携を取りながら事業を進めていきたい。

## 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

牧ノ原やまばと学園の「サービス提供指針」に基づいた、利用者ひとりひとりをかけがえのない存在として重んじ、常に利用者の立場に立ったサービスを提供するよう努める。

## 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

- (1) 人権尊重は、同性介助・虐待防止への取組について当事業所は自立度が高い利用者であり、同性介助や身体的な虐待や拘束に関しては当てはまらない部分も多い。しかし、A型の利用者として雇用契約を交わす同じ法人何の職員として差別や人権尊重を無視するような関りにならないように取り組みました。今年度は職員の接遇、利用者への関わり方等で苦情がなかったです。
- (2) 職員育成について、事業所の職員だけでなく、ご利用者も一緒にステップアップできるように面談やアンケートを実施。専門的な学習は職員中心に一般的な常識などは利用者も一緒に学べるような機会を設けました。また身近に目標ができるように、利用者から職員への身分変更の制度を新しく就業規則に明記していただき、日々の業務なるようにしました。
- (3) 地域とのつながりについて、資源類中間処理業務（リサイクル事業）は環境や地域社会の中で貢献度がある事業です。ご利用者が誇りと自信をもって仕事に取り組めるように新しく掲示板を設置、事業所側から情報を発信し地域に理解してもらえるように心がけました。

## B 利用者と職員の状況報告

### 1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
15	12	-2	247	2796	11.3	75.5
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
9	0	2	1	0	0	0

### 2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	1	2	1	1	7
常勤換算	0.1	0.9	0.8	1.4	0.2	0.2	3.6
計画との差	0	0	0	-1.1	0	0	-1.1

・10月に利用者1名が職員へ身分変更を行い、職位業指導員として採用される。

### 3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	195.5	最高残業時間	2	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	77.6
-------	-------	--------	---	---------	-----	---------	------

### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	全員	6・2月	虐待防止会議	全員
毎月	作業就労部会	澤渡	8月	交通安全講習会	木野
毎月	施設管理者会	澤渡	随時	事務連絡会	曾根
5・11月	防災委員会	木野	随時	市しごと部会	澤渡
4・10月	苦情解決委員会	澤渡	随時	オールスタッフミーティング	全員
5・11月	事故防止委員会	澤渡			

## C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 1 就労継続支援A型事業所として、雇用契約に基づく就労の機会を提供し、一般就労に必要な知識・能力の向上のために必要な訓練を実施した。2月には圏域のしごと体験輝きウィークに参加7名の利用者が一般企業に体験実習に行ってきた、
- 2 作業のやり方、作業テントハウス内（利用者の休憩場所も含む）を一部整理整頓し、使いやすいようにした。
- 3 健康で仕事が続けていけるように島田市健康づくり課による11/1ブラッシング指導1/24健康指導喫煙、飲酒についての講座3/6食生活についての講座を実施。コロナワクチン6.7回目を実施。夏季の時期は繁忙期でもあり熱中症対策も考え、PMの休憩時にはアイス等冷たいものなどを提供した。
- 4 感染症対策を考えながら業務遂行に支障のない範囲で利用者の励みとなるような季節の小行事を提供した。

## D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	支援の定着	全員	サービス提供指針を読み合わせた
随時	支援の学習	全員	サポートカレッジの活用

4/15 法人新年度研修に全職員が参加。事業所の今後などについて職員で意見を出し合い実りある研修ができた。職員会議を1回/月から2回/月に変更し、サービス指針の定着、事業所内研修の実施が定着できるように心がける。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

事務室内のレイアウトを変更しパート職員の机を設置。職員がチームワーク、コミュニケーションをとり日常的に『報告、連絡、相談』を行いやすくなるように、風通しの良いチームを形成するようこころがけた。

### 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
法人研修	4/15	新年度研修	3	12/2	防災研修	1
	6/16	1.2級職員研修	1	1/19	主任等研修	1
	9/8	事例検討研修	1			
施設内研修	随時	サポートカレッジ	全員			
施設外研修	4/5～8	ショベルローダー技能研修	1	12/16～22	ショベルローダー技能研修	1
	7/26	サビ管ミーティング	1	1/10～12	ホークリフト技能研修	1
	10/17	高次脳障害について	1	2/7	虐待・権利擁護研修	1
	11/21	高次脳障害事例検討	1	2/29	しごと部会スキルアップ研修	1
	11/29	サビ管ミーティング	1	随時	輝きセミナー	4

### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
12/5	ニコニコクリーン大作戦	利用者・職員全員

### F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月	カサブランカ便りを発行	

### G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

日付	誰から	内容	対応者

昨年度は市民から職員の接遇、利用者への関わり方等で苦情の投書が3件あったが今年度はそのような苦情はなかった。職員が入れ替わったことや昨年度の苦情の際に職員のコミュニケーション不足が指摘され、職員室にパート作業員の机を設置するなどコミュニケーションをとれるようにした効果が見られた。

### H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	3	ヒヤリ	2	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：利用者の鍵が紛失、カッターで指を切創、出勤時車横転（単独事故）

ヒヤリ：作業ミスネット入れ忘れ、靴にガラスの破片混入

### I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- 1 「地震・風水害対応マニュアル」「災害時事業継続計画」「消防防災計画」に基づき対応し、毎月の防災訓練年1回の総合防災訓練及び備蓄品、食品及び保存水の点検を実施した。
- 2 通勤手段として自転車、自動車通勤の方がいるため、日頃から道路交通法を守り、安全に通勤する意識付けを行った。
- 3 感染症防止対策は、手洗い、マスク着用の対策を継続、入り口に検温機を設置し、利用者、職員とも出勤時の検温、消毒、来所者に対しても立ち入り時に検温、消毒の実施を継続しました。日々、施設内のテーブルの消毒、換気の対策も継続的に実施した。今年度も事業所内での感染（クラスター）を出すことはなかった。

### J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

- 1 今年度、委託先である島田市環境課に相談、承諾をいただき、事務棟のレイアウト変更に伴い7月敷地内に新しくプレハブ設置（レンタル）する。相談室兼感染時のゾー

ニングスペースとしても活用予定。

- 2 委託先の島田市環境課の計画によりビン選別作業用ストックヤード増設工事が12月中旬～3月中旬まで行われる。来年度から陶磁器、ビン屑の選別作業を実施する予定であったが、作業実施は延期となる。

## K 収支状況、並びに、借入金返済報告

### 1 収支報告（事業活動）

科目	2023 年度決算	2022 年度決算	増減
サービス活動収益計	44,933,074	43,294,525	1,638,549
（内、就労支援事業収益）	(24,458,500)	(22,935,000)	(1,523,500)
サービス活動費用計	41,281,397	38,055,208	-3,226,189
（内、就労支援事業費用）	(24,458,500)	(22,935,000)	(-1,523,500)
経常増減差額	3,682,534	5,320,740	1,638,206
特別増減差額	-2,000,000	-1,079,999	920,001
当期活動増減差額	1,682,534	4,240,741	2,558,207

## L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

特になし

## M 実習生やボランティアに関する報告

- 1 利用希望者4名の方の実習は随時実施した。
- 2 一般の方で福祉や環境に興味がある方の見学を4組受け入れた。今後もボランティアや見学の希望があれば積極的に受け入れていきたい。

## N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- 1 今年度、17年目
- 2 利用者1名が11/17にカサブランカでの作業終了後の帰宅中市内の交差点で、ひき逃げ交通事故を起こす。事故後自ら警察署に出頭し逮捕されるという事件があった。約2か月間の拘留期間後、1/26静岡地方裁判所にて裁判、2/5判決、懲役1年6ヶ月、執行猶予3年の判決が下る。本人は拘留期間中から事業所、他の利用者に迷惑をかけたことや罪を犯したことから合わせる顔が無いとカサブランカを辞めることを話していたが、関係機関とのケア会議、3/18の法人懲罰委員会を経て3/20カサブランカに復帰となる。



## 2023（令和5）年度事業報告

就労継続支援B型事業所  
ワークセンターコスモス

### A 2023年度の目標と実践に関する振り返り

#### 1 目標について

個々の障がい特性に応じた環境設定を行ったことで、落ち着いて作業に向き合えた。特別支援学校の実習生受入れにより、2024年4月からの新規利用に繋げる事ができた。

#### 2 事業報告

健康面から他施設に移行された方1名、体力面から3/週の利用日を2/週に変更された方が1名いた。その為、契約者数、利用率が減少した。  
定期的なSNSの活用とともに、近隣の放課後デイサービスとの関わりの中で、未来の利用者、保護者へアピールすることができた。

#### 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

職員会議でのサービス提供指針の読み合わせにより、理念に基づいたサービスの提供を行えた。

#### 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

##### (1) 職員育成（レベルアップのための研修）

個々のレベルアップに繋がる計画的な研修が行えなかった。

##### (2) 条件付き同性介助

人事異動で男性職員が不在になった。その為、緊急時には本人の同意を得て女性職員が対応をした。

### B 利用者と職員の状況報告

#### 1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	16	-1	253	3595	14.3	71.0
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
6	0	2	2	4	2	0

8月、体調面から高齢者施設に入所された為契約終了。契約者数が17名から16名に。

#### 2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	3	4	0		9
常勤換算	0.5	1.0	1.65	2.075	0		5.225
計画との差			△1	0.2	△0.2		△1.0

5/1付、施設長がWCあさがおに異動。生活支援員が施設長に変更

12/31付、事務員（職業指導員兼務）1名が退職

#### 3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	57.5	最高残業時間	27.5	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	88.2
-------	------	--------	------	---------	-----	---------	------

#### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	全員	隔月	島田市しごと部会	1
毎月	作業就労部会	1	隔月	法人防災委員会	1
毎月	施設管理者会	1	年2回	苦情解決委員会	1
隔月	法人防災委員会	1	年2回	事故防止委員会	1
隔月	編集委員会	1	隔月	事務連絡会	1

**C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）**

春・秋（年2回）：健康診断 年1回：ブラッシング指導  
 毎月：誕生日カードの掲示 体重・爪検査、血圧測定  
 4月：勤続表彰 5月：ヨガ教室 7月：七夕 8月：縁日 9月：園芸教室  
 10月：ハロウィンイベント 11月：バス研修旅行 12月：クリスマス会 2月：節分

**D 職員の喜びや成長のために実践したこと**

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	理念の継承	全員	職員会議でサービス提供指針を読み合わせた
毎月	ケース会議	全員	職員会議で、利用者支援についての検討・共有を行った

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

職員会議の際、業務と関係ないテーマで話す時間を設け、スタッフ間のコミュニケーション向上を図った。

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	毎月	身体拘束について	全員	8/11	感染症講座	15
	8月	サポカレ①虐待防止 障害者虐待はなぜ起きるのか	8	3月	サポカレ②虐待防止 障害者虐待防止法の理解	8
	9月	サポカレ①感染症 事例から学ぶ新型コロナウイルス対応	8	1月	サポカレ②感染症 知的・発達障害者の感染対策の現状	8
	10月					
	2月 3月	サポカレ③感染症 感染症が起こった際の初動パッケージ	8	12月 1月	サポカレ 知的障がいと認知症の違い	5
法人研修	4/15	新年度研修	3			
	12/8	防災研修	1			
施設外研修	10/25	介護現場でのターミナル	1			

**E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告**

日付	内容	参加者
年3回	島田第2地区民児協交流会	委員4名、利用者全員
7月	近隣の放課後等デイサービスとの交流会	利用者、保護者
12月	島田高等学校交流会（クリスマス）	島高関係者44名、利用者、職員
12月	にこにこしまだクリーン大作戦	職員1名、利用者3名

**F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告**

日付	内容	参加者
4月	保護者会	職員、保護者
5月	保護者会	職員、保護者
毎月	コスモス便りの配布	保護者・グループホーム

**G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）**

苦情なし

## H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	5	ヒヤリ	3	虐待	0	身体拘束	7
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：転倒、誤薬、利用者間トラブル

ヒヤリ：他害、利用者間トラブル

身体拘束：突発行動の際、複数職員で両腕を抑えた（同意書有）

## I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

毎月火災と地震避難訓練を交互に実施。

4月・10月、総合防災訓練（消防署への事前申請）。年1回、保護者への引き渡し訓練も実施。

## J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

- ・床、トイレ清掃（ワックス掛け）
- ・防虫防鼠施工
- ・事務所ノートPC3台交換・コピー機購入

## K 収支状況、並びに、借入金返済報告

### 1 収支報告（事業活動）

科目	2023年度決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計	30,455,185	33,520,225	△3,065,040
（内、就労支援事業収益）	2,115,890	2,281,855	△165,965
サービス活動費用計	21,807,001	26,030,170	△4,223,169
（内、就労支援事業費用）	2,116,867	2,284,423	△167,556
経常増減差額	8,691,937	7,549,573	1,142,364
特別増減差額	△3,027,945	△2,500,000	△527,945
当期活動増減差額	5,663,992	5,049,573	614,419

### 2 借入金償還報告

なし

## L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

なし

## M 実習生やボランティアに関する報告

- ・毎週木曜日午前 作業ボランティア 1名
- ・島田市立看護専門学校生 15名
- ・清流館高校生 2名
- ・常葉大学保育学部学生 1名
- ・藤枝特別支援学校生 1名（3年生 2回）

## N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

創立43年（牧ノ原やまばと学園運営 16年）

## 2023（令和5）年度事業報告

就労継続支援B型  
ワークセンターなのはな

### A 2023年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の目標「仲間と共に楽しく働ける環境を作ります」  
不安定な利用者もおり緊張感のある環境になったこともあったが、エリア移動や支援方法の工夫等、安全で楽しく過ごせるよう環境改善に努めた。
- 2 事業報告
  - (1) 利用者の情報共有・支援の統一を図り、質の高いサービス提供を目指す。  
職員会議内での情報共有の場を充実させたこと、非常勤職員のサポカレ研修の成果もあり、以前よりも高められた。
  - (2) 地域貢献、共生社会について職員の意識を高め、地域との関係の構築に努める。  
法人の地域貢献事業に参加し、課題について他団体と情報共有することができた。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告  
職員会議時にサービス提供指針の読み合わせをし、理念に基づいたサービス提供が行えた。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
  - (1) 半年に1回の虐待・身体拘束の研修や検討により、支援方法の改善、各々の不安を取り除く機会となり、風通しの良い環境作りに繋がった。
  - (2) サポカレ研修受講により、非常勤職員の意識向上、意欲の増進へと繋がられた。

### B 利用者と職員の状況報告

#### 1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
30	26	-3	250	6504	26.1	86.7
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
10	0	5	6	5	0	0

※3名生活介護事業所へ移行により退所。利用者減少

#### 2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	3	8	1		12
常勤換算	0.5	0.5	2.1	5.1	0.2		8.4
計画との差			-0.1	0.5			0.4

#### 3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	12	最高残業時間	9	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	49.6
-------	----	--------	---	---------	-----	---------	------

#### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	12	隔月	編集委員会	1
9/4	法人防災委員会	1	年5回	研修委員会	1
隔月	しごと部会	1	5/24	事故防止委員会	1
隔月	事務連絡会	1	4/26 10/25	苦情解決委員会	1

**C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）**

- (1) 個別支援計画に基づきグループごとの活動を充実させ、利用者の喜び、働く意欲を感じられる活動となった。
- (2) 多種の作業を通し、達成感や能力の向上に繋がられた。

**D 職員の喜びや成長のために実践したこと**

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内 容
隔月	理念の継承	全員	職員会議でサービス提供指針の読み合わせを行った
毎月	ケース会議	全員	職員会議にて、利用者支援についての検討・共有を行った

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。  
職員会議の際に、ティータイムや食事会など設け、不安を分かち合い、意見や提案を自由に発言できる環境、風通しの良い環境作りの機会となった。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	2/17	サポカレ 身体拘束・虐待	11	10.11.12. 3月	サポカレ障害特性（知的障害・ダウン症・発達障害・てんかん）	9
	1.2月	サポカレ障害特性 （精神・統合失調）	9	9.3月	サポカレ基礎 （支援者のマナー・記録の書き方）	8
	7.11月	感染症研修	11			
法人研修	6/16	1.2等級職員研修	1	9/29	新人オリエンテーション	2
施設外研修	11/21	サビ菅更新研修	1	8/18	感染症講座（中級）	1
	9/29	予算管理講座	1	9/25	セルフリーダーシップ研修	1
	3/11	経理決算講座	1			

**E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告**

日付	内 容	参加者
4月	市内一斉川ざらい協力	職員5名
年6回	横井町クリーン作戦	利用者24名、職員9名
	法人地域貢献事業参加	利用者8名、職員2名
7.12月	民生委員交流会	利用者26名、職員8名

**F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告**

日付	内 容	参加者
4/21	保護者連絡会	職員、保護者
11/21	行事招待	利用者・保護者・職員

**G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）**

苦情なし

**H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告**

事故	6	ヒヤリ	5	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：転倒、他害

ヒヤリ：転倒回避

**I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告**

防災訓練（災害・感染症）、マニュアル等の整備し、毎月の施設防災訓練実施。  
内総合訓練2回実施、課題についての検討を行った。

**J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）**

3/2 館内定期清掃を行い、老朽化の対策をした。

**K 収支状況、並びに、借入金返済報告**

## 1 収支報告（事業活動）

科目	2024年度決算	2023年度決算	増減
サービス活動収益計	50,520,949	52,042,523	1,521,574
（内、就労支援事業収益）	5,511,375	5,517,475	△6,100
サービス活動費用計	43,623,143	41,610,779	2,012,364
（内、就労支援事業費用）	5,511,375	5,517,475	△6,100
経常増減差額	6,624,357	10,168,568	△3,544,211
特別増減差額	△1,934,462	△2,500,000	565,538
当期活動増減差額	4,689,895	7,668,568	△2,555,653

## 2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2017/5/1	0.5	25年	静岡銀行	78,000,000	21,580,000	56,420,000

**L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）**

なし

**M 実習生やボランティアに関する報告**

藤枝特別支援学校生 1名（2年生2回）

島田看護専門学校生 13名

清流館高校生 7名

島田第一中学校福祉体験 4名

恵泉女学院 5名

**N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）**

創立24年 法人傘下（2009年より）14年

## 2023（令和5）年度事業報告

就労継続支援B型事業所  
ワークセンターあさがお

### A 2023年度の目標と実践に関する振り返り

#### 1 目標について

「職員にも利用者にも働きやすい環境作り」

職員が意見を出しやすい雰囲気努め、意見を汲み上げたことにより作業上の問題点を改善でき、職員一人一人がより良い方法を模索するようになった。このことにより利用者の作業性向上にも繋がった。

#### 2 事業報告

##### (1) お互いが助け合い、高め合える関係性とチーム作り

年度初め直後の施設長交代、パート職員2名の退職はあったが職員がお互いに意見交換しやすい雰囲気を作れたことでチームワークは向上した。

##### (2) 各種マニュアルの整備と必要に応じた作成

各種マニュアルについては整備途上。より現実に合ったものへの変更、不足しているものを作成中。

#### 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

##### (1) 島田市自立支援協議会あしごと部会に参加し情報収集に努めた。

##### (2) 利用者の声に耳を傾け、本人の気持ちを尊重したうえで

良い方向に気持ちが向く助言を心掛けた。わずかだが利用率が向上した。

#### 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

##### (1) 職員の理念の理解と浸透

職員会議の際、サービス提供指針の輪読を行った。入所施設が対象の部分についても、なぜこのような支援をするのか、「理念」や「わたしたちの願い」を引用し理解を求めた。

##### (2) 地域貢献とのつながりについて

6月から週末に開催の「しまトレ」に替わり、毎月第2火曜日午後奇数月は「体操教室」、偶数月は「笑いヨガ」を実施。

### B 利用者と職員の状況報告

#### 1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	21	△1	251	4802	19.2	96

※4月末で1名が高齢者サービスへ移行。5月から契約者数21名となった。

#### 2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	1	9	1		13
常勤換算	0.5	0.5	1	4.89	0.25		7.14
計画との差	0	0	0	1.94	△0.25	△0.75	0.94

※常勤職員が4名（正職3、準職1）になり、「その他」の職員を「職業指導員」に。

※パート職員2名退職（6月末日と12月末日）。

#### 3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	253.75	最高残業時間	3.0	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	84.1
-------	--------	--------	-----	---------	-----	---------	------

#### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	11	年2回	苦情解決委員会	1
奇数月	自立支援協議会しごと部会	1	年2回	事故防止委員会	1
毎月	施設管理者会	1	毎月	作業就労部会	1
年2回	防災委員会	1			

### C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- (1) 毎月第2火曜日に奇数月は体操教室、偶数月は笑いヨガを行った。  
(2) 行事 7月:七夕 8月:デザート作り 9月:匂い袋と月見バーガー作り  
10月:ハロウィン 11月:日帰り旅行 12月:年賀状作りと親睦会食  
3月:年度末慰労お楽しみ会

### D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	職員会議	全員	サービス提供指針の読み合わせ

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。  
・6月に懇親会を行った。年明けにも予定していたが感染症の流行等あり中止した。

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	10/25	ケース検討	12	10/25	サポカレ(てんかん・虐待防止)	11
法人研修	4/15	新年度研修	9	6/30	主任等研修	1
	5/19	赤十字救急法講習	3	8/22	人事評価の進め方	1
	6/18	1.2等級職員研修	1	9/8	事例検討会	1
施設外研修	7/11. 12. 13	令和5年度就業支援基礎研修	1	12/15	圏域ヤングキャリアスタッフミーティング	2
	10/17. 18	サビ管基礎研修	1	2/6	こころ実践研修発表会	1
	11/7	サビ管更新研修	1	3/13	虐待防止研修	1

- ・パート職員も含めて、全員が何らかの研修に参加することができた。
- ・ケース検討を相談員、スーパーバイザーを招き行った。職員の気づきも多く好評だった。

### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
6月～第2火曜日 14時	奇数月:体操教室 偶数月:笑いヨガ	利用者、職員、地域住民
7・2月	初倉地区民生児童委員交流会	委員、利用者、職員

### F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
4.6.2 月	保護者連絡会	保護者、正職員
毎月	毎月の予定表「あさがおカレンダー」配布	

### G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

- ・1件 利用者が途中帰宅した際、保護者と連絡がつかず、状況説明が遅れた。

### H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	3	ヒヤリ	2	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

- ・事故3件:転倒1件、無断帰宅1件、紙で手を切る1件



- ・ヒヤリ 2 件：台車に乗ろうとする、椅子の座面を上げてしまう

#### I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- ・防災訓練を毎月実施した。地震、火災、通報、不審者侵入等想定を変えて実施。
- ・法人全体防災訓練への参加。

#### J 環境整備に関する報告（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

- ・9/11 エアコン 9 台 点検・清掃

#### K 収支状況、並びに、借入金返済報告

##### 1 収支報告（事業活動）

科目	2023 年度決算	2022 年度決算	増減
サービス活動収益計	43,682,696	45,150,262	△1,467,566
（内、就労支援事業収益）	3,875,270	4,577,935	△702,665
サービス活動費用計	35,533,389	32,540,185	2,993,204
（内、就労支援事業費用）	3,875,645	4,578,705	△703,060
経常増減差額	8,180,788	12,684,232	△4,513,444
特別増減差額	△3,446,657	△4,500,000	1,053,343
当期活動増減差額	4,734,131	8,194,232	△3,460,101

##### 2 借入金償還報告

なし

#### L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

令和 6 年 2 月 29 日 障害福祉サービス事業所指定更新  
 （指定更新年月日 令和 6 年 4 月 1 日 / 指定の有効期間 令和 12 年 3 月 31 日まで）

#### M 実習生やボランティアに関する報告

ボランティア：・0 様 火曜日午前 ・K 様 火、木曜日午後 ・0 様 金曜日午前

実習生：清流館高校福祉科 1 年 7/7.10 2 名 7/13.14 2 名  
 初倉中学校 2 年支援級 4 名 職場体験実習 9/11～13

見学者：6/5 駿遠学園利用者（吉田特支生徒）・職員 / 7/12 浜松学院大学短期大学 2 名  
 7/26 清流館高校福祉科 3 年生 1 名 / 浜松未来総合専門学校 2 名  
 7/29 0 様（作業体験もされた） / 8/4 藤枝特別支援学校高等部職員 4 名  
 8/7 藤枝特別支援学校高等部 2 年父子 / 8/9 常葉大学生 2 名  
 9/14・27 吉田特別支援学校高等部 2 年生 本人と保護者（各日 1 組）  
 10/5 藤枝特別支援学校 PTA 4 名見学  
 12/5（火）吉田特別支援学校高等部 1 年生・教師 計 15 名

訪 問：10/27 元職員 K 氏 利用者にはロウインのお菓子の差し入れ。

#### N その他

創立 12 年（2012 年 4 月）

## 2023（令和5）年度事業報告

就労継続支援B型事業所  
ワークセンター希望の家

### A 2023年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について  
「健康で、楽しく、仲良く、仕事をしよう」という目標に対して活動した。ご利用者2名増、歓迎会を開き仲間として迎える意識づけを行った。二十歳を迎えたご利用者へは職員・ご利用者全員からお祝いの言葉を送り共に成人を祝える喜びを共有した。ポッチャ大会等を開催し、チームワーク強化を促した。
- 2 事業報告  
(1) 業務マニュアルを作成、統一した支援や職員の共通理解を図る。  
今年度就職した職員にも支援内容がわかるよう個別支援計画一覧表を作成。統一した支援の提供につなげるため活用した。職員・ご利用者の動線や視野を確保するため作業場のレイアウトを変更、支援しやすい環境となった。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告  
牧ノ原やまばと学園「サービス提供指針」に基づいてサービスの提供を行った。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告  
(1) 職員確保と育成  
4月事務員1名採用、事務マニュアルを作成し教育と引き継ぎを行った。計画的な研修に加え、受講者から職員への伝達研修を実施（静岡県障害者虐待防止・権利擁護研修）。受講者だけでなく職員へ研修を共有することで、全体的な職員育成へつなげた。

### B 利用者と職員の状況報告

#### 1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	19	2	249	4094	16.4	82.2

※コロナウイルス感染拡大のため、3/4～3/6、3日間施設休業

#### 2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	4	3	1		10
常勤換算	0.125	0.5	2.75	2.2	0.37		5.945
計画との差	0	0	0.25	0	0		0.25

\*1/16 生活支援員1名 3/31 職業指導員1名退職、4/1 事務員1名 12/4 生活支援員1名就職

#### 3 残業、有給休暇取得に関する計画

総残業時間	1.5	最高残業時間	0	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	87
-------	-----	--------	---	---------	-----	---------	----

#### 4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	6	年2回	法人防災委員会	1
〃	施設管理者会	1	年2回	事故防止委員会	1
〃	作業就労部会	1	年2回	虐待防止委員会	1
隔月	事務連絡会	2	年2回	苦情解決委員会	1
7月	学校説明会	1	適宜	感染症対策委員会	5
11月	自立支援推進会議	1	適宜	身体拘束検討委員会	5

### C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 1 生産活動については、企業からの下請け作業に取り組む機会を提供し、任された仕事に対して責任を持って果たせるよう、指導訓練を行い、必要に応じて個別指導した。

- 2 就労支援については、自立支援協議会主催の「輝きウィーク」を利用し、1名職場体験に参加。
- 3 相談及び援助については、年2回モニタリングを行い、また必要に応じて個々に面談を行い、サービス管理責任者が作成した個別支援計画に基づき、計画相談員や市福祉課等と協力して支援を行った。
- 4 健康管理については、年2回の健康診断、歯磨き教室（歯科医、歯科衛生士を招く）、予防接種、毎月の体重血圧測定、日常生活衛生面の支援を行った。  
利用者の社会性の向上やチームワーク形成、所属意識の形成に必要な行事を行った。  
4月6月9月11月：ボッチャ大会 5月：家族に感謝の日 8月：夏祭り  
10月：ハロウィン 12月：クリスマス会 2月：バレンタイン 3月：買い物訓練

#### D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	理念の継承	全員	職員会議内で理念と6つの願いを唱和
毎月	ケース検討	全員	職員会議内で利用者支援について共有、検討を実施
随時	理事長の言葉	全員	理事長の言葉を自由回覧

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った  
ボッチャ大会に職員もチームの一員として参加。土曜開所日（ご利用者半日利用）を利用し、出勤職員と昼食会を行った。12月にはふれあいと合同で喫茶ほとりにて忘年会を開催。元職員の田平さんと交流し、日常の忙しさから離れ楽しいひと時を過ごした。

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	毎月	会議での研修報告	全員	10/26	感染症対策	8
	5/25	サポカレ自閉症特性	8	12/26	防災研修	9
	6/28	サポカレ虐待防止	8	12/26	車椅子の使い方	9
	8/24	サポカレ合理的配慮	8	1/24	サポカレケース記録	1
	9/25	サポカレケース記録	8	2/27	虐待防止・権利擁護	8
法人研修	4/15	法人全体研修	2	9/29	新人オリエンテーション	1
	6/16	1.2 等級職員研修	1	10/5	介護育児休業研修	1
	9/8	事例検討研修	1	12/8	法人防災研修	1
施設外研修	6/13	会計入門研修	1	11/29	就労支援の管理者	1
	7/13	会計基礎研修	1	2/2	県虐待防止権利擁護	1
	10/2	感染症対策研修	1	3/5	会計決算研修	1

#### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連する報告

日付	内容	参加者
6/3	金谷地区社協総会出席	職員1名
9/23	金谷地区社協絆フェスタ maru	職員2名
12/5	にこにこしまだクリーン大作戦（清掃）	職員1名、利用者3名
毎月	地域清掃（草取り）	職員、利用者

#### F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
毎月	希望の家お便り配布	

#### G 苦情について対策

苦情なし。

#### H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の報告

事故	4	ヒヤリ	2	虐待	0	身体拘束	1
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：トラブル3件 施設外飛び出し1件

ヒヤリ：トラブル1件 転倒1件

身体拘束：ご利用者Aさん1件 健康診断採血時9/28（同意書有）

#### I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

毎月火災・地震避難訓練を実施した。年2回消防署へ事前申請し、全体総合訓練を行った。  
11月法人全体防災訓練の際引き渡し訓練も併せて実施。避難場所を隣接する金谷地域交流センターに想定した訓練も行った（事前に許可申請）。  
3/29大雨により国道473号線（居林～福用）路肩崩落のため通行止め。

#### J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

浄化槽点検、消防設備点検、草刈り等の環境整備

8/10 赤い羽根共同募金助成金を頂き、公用車フリード更新

#### K 収支、並びに、借入金返済報告

##### 1 収支報告（事業活動）

科目	2023年度決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計	32,900,487	33,357,590	△457,103
（内、就労支援事業収益計）	2,621,807	2,966,763	△344,956
サービス活動費用計	29,291,664	30,629,923	△1,338,259
（内、就労支援事業費用計）	2,624,060	2,968,547	△344,487
経常増減差額	3,650,075	2,728,649	921,426
特別増減差額	△3,224,202	△2,506,822	△717,380
当期活動増減差額	425,873	221,827	204,046

##### 2 借入金償還計画

なし

#### L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

4月：変更届・体制届提出

3月：コロナ感染症クラスター報告

#### M 実習生やボランティアに関する報告

実習生：職場体験1名（高校3年生）

ボランティア：年間を通して2名の方がボランティア参加して下さいました。

#### N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

創立41年（県単独事業27年、牧ノ原やまばと学園運営14年）

令和4年度赤い羽根共同募金福祉施設機器整備事業送迎用車両整備事業（買替）助成

助成金額 1,275,000円

## 2023（令和5）年度事業報告

就労継続支援B型事業所  
ワークセンターふれあい

### A 2023年度の目標と実践に関する振り返り

#### 1 目標について

「地域とともに歩んでいく」という目標に対して活動した。特に災害時の地域との協力体制は最重要課題と捉える。今年度は島田市危機管理課主催の川根地区向けのハザードマップ説明会に出席、施設のある両現地区は災害時孤立状態になること、ご利用者を含め要介助者の対象となる方が多いことを発信した。地域に感謝の日も継続。

#### 2 事業報告

(1) 業務マニュアル作成、統一した支援や職員の共通理解を図る。

5月に送迎担当者1名退職、職員の補充なしで対応するため業務の洗い出し、分担やスケジュールの見直し実施。効率化を図り職員の負担にならない分担をした。それにより残業時間等にも大きな変化なく業務遂行ができた。

#### 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

牧ノ原やまばと学園「サービス提供指針」に基づいてサービスの提供を行った。

#### 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

(1) 職員確保と育成

職員会議内で支援方法の検討・確認を行い、統一した支援に努めた。ケース記録方法の研修実施・書き方のポイントマニュアル作成・振り返りを実施し、より明確に必要な情報を記録できるよう学んだ。さらに個別支援計画一覧表を作成、統一した支援の提供に活用した。

### B 利用者と職員の状況報告

#### 1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	13	-1	252	2858	11.3	56.7

#### 2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	1	2	1		6
常勤換算	0.1	0.5	1	1.625	0.1		3.35
計画との差					0		0

\*5/31 職業指導員1名退職

#### 3 残業、有給休暇取得に関する計画

総残業時間	12	最高残業時間	3.5	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	71

#### 4 職員会議、委員会、外部委員会の開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	6	年2回	法人防災委員会	1
〃	施設管理者会	1	年2回	事故防止委員会	1
〃	作業就労部会	1	年2回	虐待防止委員会	1
隔月	研修委員会	1	年2回	苦情解決委員会	1
隔月	しごと部会	1	適宜	感染症対策委員会	5
年3回	川根本町自立支援推進会議	1	適宜	身体拘束検討委員会	5

### C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 生産活動については、企業からの下請け作業に取り組む機会を提供し、任された仕事に対して責任を持って果たせるよう、指導訓練を行い、必要に応じて個別指導した
- 就労支援については、自立支援協議会主催の「輝きウィーク」を利用し、1名職場体験

- に参加。
- 3 相談及び援助については、年2回モニタリングを行い、また必要に応じて個々に面談を行い、サービス管理責任者が作成した個別支援計画に基づき、計画相談員や市福祉課等と協力して支援を行った。
  - 4 健康管理については、年2回の健康診断、歯磨き教室（歯科医、歯科衛生士を招く）、予防接種、毎月の体重血圧測定、日常生活衛生面の支援を行った。
  - 5 利用者の社会性の向上やチームワーク形成、所属意識の形成に必要な行事を行った。  
5月：家族に感謝の日 6月3日：交通安全教室 7月：歯科検診 8月：七夕  
9月2日：歯磨き指導 10月：ハロウィンイベント 12月：クリスマス会  
1月：新年会 2月：バレンタイン 3月：地域に感謝の日

#### D 職員の喜びや成長のために実現したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	理念の継承	全員	職員会議内で理念と6つの願いを唱和
毎月	ケース検討	全員	職員会議内で利用者支援について共有、検討を実施
随時	理事長の言葉	全員	理事長の言葉を自由回覧

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った  
作業場のレイアウトを支援・作業の視点から話し合い、お互いの意見を受容し合意形成をした。新規作業導入により、工程が定まらず職員に疲労感が見られた。職員会議時にお菓子を食べて労をねぎらい、雰囲気をはらげてから作業工程についての検討を行った。

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	毎月	会議での研修報告	全員	9/25	サボカレケース記録	5
	5/22	サボカレ自閉症特性	6	10/23	感染症対策	5
	6/26	サボカレ虐待防止	5	12/25	防災研修	5
	7/20	事例検討	1	12/25	嘔吐物処理	5
	8/25	サボカレ合理的配慮	4	2/26	虐待防止・権利擁護	5
法人研修	4/15	法人全体研修	2	10/5	介護育児休業研修	1
	8/3	安全運転講習会	1	12/8	法人防災研修	1
	9/8	事例検討研修	1	1/19	主任等研修	
施設外研修	6/22	防災研修	4	11/29	就労支援の管理者	1
	9/13	しごと部会研修	1	2/2	県虐待防止権利擁護	1
	10/2	感染症対策研修	1	2/29	スキルアップ研修	1
	10/4	自閉症支援者要請研修	1			

#### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した報告

日付	内容	参加者
110/13	GH とくやま祭りへ参加	職員5名、利用者11名
12/5	ここにココリオン大作戦 地域清掃	職員1名、利用者5名
3/21	地域に感謝の日	職員1名、利用者12名

#### F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
毎月	ふれあいお便り配布	
年4回	保護者会	職員2名、保護者10名

#### G 苦情について対策

苦情なし。

**H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の報告**

事故	2	ヒヤリ	2	虐待	0	身体拘束	1
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：服薬関係 1 件 転倒事故 1 件

ヒヤリ：服薬関係 2 件

身体拘束：ご利用者 A さん 1 件 パニック 2/21 (同意書有)

**I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告**

毎月火災・地震避難訓練を実施した。年 2 回消防署へ事前申請し、全体総合訓練を行った。  
5/16 川根地区ハザードマップ説明会に出席。6/22 島田市危機管理課を招き防災研修を実施、危険個所の確認や避難経路・防災対策を相談した。12/3 地域防災の日に参加、避難所の備品や体制、消火器材(可搬ポンプ)の使用方法の確認をした。家山地区自治会長様にも災害対応について連携を取りたいことをお伝えした。

3/29 大雨により国道 473 号線(居林～福用)路肩崩落のため通行止め。伊久美二股地区、土砂崩れのため一時通行止め、現在は解除。

**J 環境整備に関する報告 (施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など)**

浄化槽点検、消防設備点検、草刈り等の環境整備

2/20～作業棟屋根外壁塗装工事

**K 収支、並びに、借入金返済報告**

## 1 収支報告(事業活動)

科目	2023 年度決算	2022 年度決算	増減
サービス活動収益計	23,336,037	25,315,957	△1,979,920
(内、就労支援事業収益計)	2,203,856	2,337,310	△133,454
サービス活動費用計	23,516,559	24,112,137	△595,578
(内、就労支援事業費用計)	2,205,367	2,338,112	△132,745
経常増減差額	△179,920	1,204,429	△1,384,349
特別増減差額	224,200	△1,000,000	1,224,200
当期活動増減差額	44,280	204,429	△160,149

## 2 借入金償還計画

なし

**L 主務官庁に関連した報告(実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など)**

4 月：変更届・体制届提出

**M 実習生やボランティアに関する報告**

ボランティア：年間を通して 10 名の方がボランティア参加(草刈り・アルミ缶回収)

**N その他**

創立 30 年 (県単独事業 18 年、牧ノ原やまばと学園運営 13 年)

**A 2023年度の目標と実践に関する振り返り**

## 1 事業所の目標について

「工賃アップを目指す」

- (1) イベント等へ積極的に参加し、売上向上を目指す
- (2) 受託作業は、個々の能力を活かしつつ生産性を上げられるように努める

## 2 事業報告

- (1) 2023年5月、新型コロナウイルスが5類に移行し、人々の動きも「アフターコロナ」へと徐々に変化。WoC やまばとに於いても、9月頃から様々なイベントへの出店が決まり、自主製品の売上は前年度より10%上昇した。一方で、パンの原材料費、光熱費の値上がりが見られ、令和6年3月より菓子パン、食パン、バターロールに対し25%の値上げを実施した。また、2月より東名下り線サービスエリアに於いて、焼き菓子の卸販売を開始した。
- (2) 下請け拡大のために、新規にシール貼の作業を受託し利用者に提供。仕事の領域を広げた利用者も見られ、個々の能力を活かしつつ生産性を上げられるように努めた。
- (3) 昨年度に引き続き、自主製品の作業工程の標準化を検討。作業マニュアル（自主・受託）は写真を入れて一部作成したが、全ての完成は出来なかった。引き続き次年度に継続する。

## 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

職員会議時に読み合わせを行い、個々の利用者との関わりを振り返る事で、理念に基づいた質の高いサービスが提供できるよう意識が高まった。

## 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

- (1) 権利擁護や意思決定支援、自閉症、利用者の特性、反応と対応について学び、計画・カンファレンスを行い、良質な対応ができるよう意識が深まった。
- (2) 「地域とのつながり」  
自主製品の販売は利用者と共に、牧之原市、圏域のイベントへ積極的に参加。利用者が関わったパンを、地域の方に販売することで地域住民と交流をより深めることができた。
- (3) 月1回の坂部サロンの送迎を継続して取り組み、地域の方々と交流を図ることができた。

**B 利用者と職員の状況報告**

## 1 利用実績

定員	昨年度の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	一日平均	利用率
20	19	90%	20	247日	16.9人	84.4%
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
9	1	2	2		5	0

※新型コロナウイルス感染クラスター発生（利用者10名・職員3名）

3月25日から3月29日まで閉所

## 2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	3	1	0	8
常勤換算	1	1	2	2.75	1	0	7.75
計画との差	0	0	-1	-0.25	0	0	-1.25



### 3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	237	最高残業時間	101	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	82
-------	-----	--------	-----	---------	-----	---------	----

### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	全員	年2回	苦情解決委員会	1
毎月	管理者会議	1	5/24 11/21	事故防止委員会	1
年2回	法人防災委員会	1	隔月	事務連絡会	1
6回/年	牧之原市自立支援ネットワーク	1	毎月	作業就労部会	1

### C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- (1) 個別支援計画及び、保護者との最新の情報を連絡帳から得て、サービス管理責任者、支援員、市福祉課と協力しながら支援した。仕事に対する喜びや自信をつける為に、マンネリ化した仕事だけではなく、新しい仕事にも挑戦して行ける様に提供した。
- (2) 5月：ハイキング、12月：日帰り旅行（買い物訓練）、12月：納会

### D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
会議時	理念の継承	全員	会議でサービス提供指針等の読み合わせ
会議時	ケース会議	全員	職員会議時ケースカンファレンス、サービス管理責任者より講義

- 2 チームワークの醸成のため下記の事を行った。
  - ・お互いを知り意見や提案が自由にできるよう、職員会議時のコーヒープレイク、1月に懇親会を実施。互いに分かり合う良い機会となった。

### 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	7/14	サポカレ 感染予防	全員	11/11	感染症研修	全員
	12/27	サポカレ：障害者支援の基礎	全員	3/29	コロナ感染予防	5人
法人研修	4/15	新年度研修	全員			
施設外研修	7/11～13	就労支援基礎研修	1名			
施設外研修	7/27・28	静岡市消防局防火管理者	1名			

### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した報告

日付	内容	参加者
6/10・7/5・9/21・10/19・12/25	ドリームまきのほら パン販売	職員2名、利用者2名
9/23 3/20	泰善寺 パン販売	職員2名、利用者2名
11/25	特別支援学校もえぎ祭り 焼き菓子販売	職員2名、利用者2名
2/17・18	坂部地区さくらまつり パン販売	職員2名、利用者2名

### F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
5/20	保護者会 重要事項説明等	職員、保護者
9/18	保護者会 重要事項の一部改訂の説明	職員、保護者
2/23	保護者会	職員、保護者
毎月	毎月の予定表「やまばと便り」発行	

- G 苦情について対策**（前年度を振り返って考えること）件数：1件 言葉掛け不足  
 コロナ禍につき、声を掛けずに自主製品の置き配をした。（生活介護ケアセンター）  
 玄関先に置くことは決まっていたが、ひと言「持参したパンを玄関に置きました」と声を掛ける配慮が必要だった。

**H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告**

事故	7	ヒヤリ	2	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

※事 故：送迎車乗車時の利用者の乗車未確認

ヒヤリ：メモをトイレに置き忘れ

**I 防災関連：防災訓練計画／課題の克服などの報告**

基本的な防災訓練を実施した。毎月の防災訓練においては同じ訓練により基本を体で覚える、ヘルメット等の基本的着用の実施を行った。携帯電話による地震警戒アラート等により訓練を実施した。

**J 環境整備に関する報告**（100万円以上の修繕や改装など）

毎月：害虫駆除（パン工場）、2回/年：消防設備点検、空調機点検2回/年  
 2回/年：ワックス清掃、1回/年：浄化槽点検

**K 収支、並びに、借入金返済報告**

収支報告（事業活動）

科目	2023年度決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計	44,391,459	45,894,462	△1,503,003
（内、就労支援事業収益）	8,150,837	7,539,278	611,559
サービス活動費用計	45,622,327	41,543,624	4,078,703
（内、就労支援事業費用）	8,272,338	7,540,931	731,407
経常増減差額	△1,194,398	4,357,681	△5,552,079
特別増減差額	△2,000,000	△3,500,001	1,500,001
当期活動増減差額	△3,194,398	857,680	△4,052,078

2 借入金償還報告

なし

**L 主務官庁に関連した報告**（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

なし

**M 実習生やボランティアに関する報告**

5日間実習

吉田特別支援学校 高校1年生 1名 1月29日～2月2日

吉田特別支援学校 高校1年生 1名 2月2日～2月9日

ボランティア

三浦様（吉田町在住） 作業場作業の手伝い等

**N その他**（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

創立47年（開所 1977年 10月1日）

## 2023（令和5）年度事業報告

就労継続支援 B 型事業所  
ワークセンターさくら

### A 2023 年度の目標と実践に関する振り返り

#### 1 目標について

『快適な職場で気持ちよく働こう』

受託量が多く、環境整備は進まなかったが、ご利用者同士、職員同士、ご利用者と職員間のコミュニケーションは円滑に図れ、風通しの良い職場となった。

#### 2 事業報告

##### (1) 一人一人の作業の幅を広げ、能力の向上を図る。

初心者にも分かり易く作業ができるように写真を多く入れたマニュアルを作成、作業治具も増やし、多くのご利用者に取り組めるようにした。

新しい作業への挑戦の機会を増やした結果、各々の作業の幅が増え、能力の向上が見られた。平均工賃は、昨年度比 2,000 円アップし、16,498 円となった。

##### (2) 作業環境を整える。

受託量が多く、計画的に進めることは出来なかったが、寄付でいただいた掃除機の利用が順調に進み、以前より作業室床の清潔が保てるようになった。

資材・材料・製品の定位置保管については課題が残った。

#### 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

##### (1) ご利用者が自信や喜びを持ち、自分らしい生活を送る。

サービス提供指針に基づく支援の実践について、ケース会等で振り返りを行った。

##### (2) 働くことを通して能力を引出し、自立した日常生活を営むことができるよう支援。

ご利用者一人一人の強みに着目し、それに応じた作業の提供を図った。

作業能力が向上し、日常生活での自信につながっている。

#### 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

##### (1) 職員育成について

職員一人一人の目標に向けて、法人が主催した様々な研修や外部研修へ参加した。短時間パート職員は計画的にサポーターズカレッジ視聴の機会を持ち、スキルアップを図った。

##### (2) 地域とのつながりを大切にする。

コロナ感染状況を見ながら、夏まつり・クリスマス会に保護者を招待した。

### B 利用者と職員の状況報告

#### 1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	17	-3	249	3818	15.3	76.7

#### 2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	3	1		8
常勤換算	0.2	1.0	1.8	2.4	0.5		5.9
計画との差	0	0	0	0	0		0

#### 3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	9	最高残業時間	3	有給休暇義務取得率	100	有給休暇取得率	100
-------	---	--------	---	-----------	-----	---------	-----

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	施設管理者会	1	年2回	苦情解決委員会	1
〃	作業就労部会	1	年2回	事故報告委員会	1
〃	(あ) 全体会議	4	〃	防災委員会	1
〃	(あ) 防災会議	1	7/20	吉田特別支援学校説明会	1
〃	(あ) 感染症委員会	1	7/25	吉田町運営委員会	1
月2回	経営会議	1	10/17	吉田町就労B型連絡会	1
月2回	事務連絡会	1	年3回	吉田町福祉推進委員会	1

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

6/28 昼休みの過ごし方体験（トランプ・カード・パズル・CD・塗り絵 等） 7/7 七夕飾り

8/10 あつまリーナ夏まつり 10/22 吉田町ふれあい広場 11/22 笑いヨガ

12/13 あつまリーナクリスマス会 1/4 新年会「ランチビュッフェ」 3/13 ボーリング大会

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	ケース会	6	利用者個別支援計画の検討、情報共有
毎月	職員会議	6	管理者会報告、利用者及び作業状況確認他

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

「あつまリーナ館内職員の誕生日を共に祝った」

メッセージボードにお祝いの言葉を掲示し、ちよっぴりプレゼントを贈呈した。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内	6～3月	サポーターズカレッジ 「新人職員のための基礎知識」（パート職員）各5回				3
法人	4/20	新年度研修	4	10/5	育児介護休業制度労務研修	2
	8/22	評価研修	1	12/8	防災BCP研修	2
外部	5/31	ファシリテーション(県社協)	1	11/28	サビ管更新研修	1
	6/28	精神保健福祉業務基礎(県)	1	11/29	圏域サビ管ミーティング	1
	8/23	精神保健福祉業務実践(県)	1	1/19	精神疾患の理解(県)	1
	9/1	感染症講座中級(県)	1	2/14	虐待防止・権利擁護(県)	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

なし

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
毎月	次月の行事予定配布	各家庭
5月	保護者会	職員3、保護者12
12月	あつまリーナクリスマス会招待	保護者、利用者、職員

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	5	ヒヤリ	10	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	----	----	---	------	---

事故：利用者間のトラブル（掴み、叩く、蹴る）

ヒヤリ：情緒不安定のご利用者による他害未遂（蹴ろうとする）

## I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

「あつまりーナ消防計画」及び「地震津波対応マニュアル」に則り、毎月防災訓練を実施した。地震・洪水・津波を想定した訓練では、第一避難所である「はあとふる」2階への避難訓練を行った。各種災害の最新ハザードマップ及び避難確保計画を備え、避難経路の確認を行った。法人訓練では、月1回の携帯電話への安否コールの実施、年1回の法人全体訓練を行った。感染症対策として、感染症委員は県の研修を受講し、感染症マニュアルの再評価を行った。職員研修として「嘔吐処理訓練」を行い、対策用品の再点検と補充を行った。急な心疾患症状に対応するため「AED」を館内に設置した。

## J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

浄化槽点検（年4回）、植木剪定・草刈り（年3回）、害虫駆除（毎月）、消防設備点検（年2回）館内清掃（年2回）、冷暖房装置点検（年2回）、自動ドア点検（年2回）

## K 収支状況、並びに、借入金返済報告

### 1 収支報告（事業活動）

科目	2023年度決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計	35,789,074	38,384,490	△2,595,416
（内、就労支援事業収益）	3,423,740	3,462,960	△39,220
サービス活動費用計	34,045,488	35,113,209	△1,067,721
（内、就労支援事業費用）	3,423,740	3,479,140	△55,400
経常増減差額	1,760,769	3,305,696	△1,544,927
特別増減差額	0	△2,000,000	2,000,000
当期活動増減差額	1,760,769	1,305,695	455,074

※サービス活動収益の内、寄付金収益（399,830）

### 2 借入金償還報告

なし

## L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

### ・吉田町関係

4/1、2023年度 管理に関する年度協定を締結。

7/24、運営委員会にて2022年度事業報告及び2023年度事業計画・予算を説明した。

3/8、備品調査

## M 実習生やボランティアに関する報告

### <実習・体験>

7/7～12（4日間）清流館高校1年生4名、介護実習

7/3～14（10日間）吉田特別支援学校高等部2年生1名 実習

10/23～11/2（9日間）吉田特別支援学校高等部2年生1名 実習

9/13 牧之原市ジョブシャドウイング事業 相良高校2年生2名 体験

9/20～9/22（3日間）吉田町立吉田中学校2年生2名 職場体験

### <見学>

7/24・25 吉田特別支援学校高等部2年生親子見学5名

8/8・16・18・24 吉田特別支援学校中学部・高等部 親子見学 延べ10名

8/28 吉田特別支援学校中学部先生2名

## N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

4/28 業務監査（災害予想無し（山崩れ）のハザードマップも整備するように）

5/10 会計監査（現金で収納した現金が規程通り金融機関に入金されていない事例あり）

指摘事項については早急に対応を行った。

※ 創立33年（県単独事業28年、牧ノ原やまばと学園15年）

## 2023（令和5）年度事業報告

生活介護事業所  
ケアセンターマーガレット

### A 2023 年度の目標と実践に関する振り返り

#### 1 目標について

『本当の気持ちに寄り添います。地域の中で安心して暮らそう』  
ご利用者の「本当の気持ち」を引き出す支援を支援者全員で検討した。地域の方との交流を深める為に、ボランティアの受け入れを積極的に実施した。

#### 2 事業報告

##### (1) 支援プログラムの充実を図る。

支援プログラムの見直しを行い、ご利用者の「やりたい事」を積極的に取り入れ、買い物体験やレクダンス等、新たな活動を開始した。

##### (2) 活動環境と所有品の整理。

年間で環境整備のスケジュールを作成したが、実施に繋げる事が出来なかった。反面、日頃より整理整頓に努め、活動しやすい環境作りに努める事が出来た。

#### 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

##### (1) ご利用者を大切にする。

毎月のケース会議を通し、支援の見直しを実施。日頃から積極的にご利用者と関わり、ご利用者自身が自らの想いを発信しやすい関係作りに努めた。

##### (2) 職員を大切にする。

職員一人ひとりの意見を受け入れる姿勢を持つ事で、意見を述べやすい関係作りに心掛けた。

#### 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

##### 職員育成について

職員一人一人の目標に向けて研修に参加しスキルアップを図った。

### B 利用者と職員の状況報告

#### 1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	20	0	248	4285	17.2	86.4
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	3	9	4	4

※コロナ感染により利用率減少。

#### 2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	事務員	看護師	その他	合計
実人数	1	1	9	1	1	0	13
常勤換算	0.5	1.0	5.9	0.5	0.1	0	8.0
計画との差							

※施設長：生活支援員兼務、パ1名退職

#### 3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	0.5	最高残業時間	0.5	有給休暇義務取得率	100	有給休暇取得率	100
-------	-----	--------	-----	-----------	-----	---------	-----

#### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種 類	参加数	内 容
毎 月	あ)全体会議	2	事故・ヒヤリ・虐待・苦情、利用者状況
毎 月	あ)防災委員会	1	防災訓練の振り返り、次回訓練の計画等
毎 月	あ)感染症委員会	1	感染対策の動向・対応・対策 研修報告
毎 月	職員会議	全員	行事計画、ケース会報告・ヒヤリ事故報告等
毎 月	ケース会議	全員	利用者ケース確認事項・検討事項
毎 月	生活ケア部会	1	利用者等・活動実績報告。検討・確認・共有
年 2 回	事務連絡会	1	会計・労務に関する情報共有
年 2 回	法人苦情解決委員会	1	各事業所の苦情に関する検討
年 2 回	法人事故防止委員会	1	各事業所の事故・ヒヤリに関する検討
年間計画	法人研修委員会	1	法人の研修に対する検討（特に新年度研修）
7/25	吉田町（あ）運営委員会	1	事業報告・事業計画及び予算説明

#### C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・月の定期的な活動として音楽・書道・クラブ・アート・誕生会・外出行事等。
- ・年中行事として、「あつまリーナ夏祭り」・「クリスマス会」「日帰り旅行」活動で得た喜びや楽しさ等を朝の会等で発表し皆で共有した。
- ・作業体験では、洗濯ピンチの並べ作業や組立仕事を行った。

#### D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎 月	サービス提供指針	全職員	職員会議にて第 1 章から読み合わせと理解

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) ケース会・職員会議では、互いの意見を尊重し、共感する姿勢を大切にした。
- (2) 職員の誕生日を共に祝う。メッセージボードの設置、プレゼントを贈った。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内	毎月	サポカレ研修	8	10月	のばら・花もも見学	5
法人	4/3	新人オリエンテーション	1	4/20	新年度研修	4
	1/19	主任等研修	1			

#### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

なし

#### F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎 月	行事予定 (次月の予定・報告・連絡)	各家庭配布
毎 月	マーガレットだより (活動状況の記事・写真入り)	各家庭配布
4 月	保護者会	職員・保護者
12/13	あつまリーナクリスマス会	利用者・職員・保護者

#### G 苦情とその対応に関する報告

苦情：1件 「送迎車両が法定速度をオーバーして運転をしている」  
 法人本部へ匿名のハガキが届いた。  
 地域住民や登下校中の小中学生が危険な目に合っているという内容であった。  
 全職員に安全運転の遵守を伝え、送迎ルートの確認と危険地帯のポイント確認を行った。  
 その後は各自法定速度をしっかりと守っている。

#### H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	19	ヒヤリ	13	虐待	0	身体拘束	253
----	----	-----	----	----	---	------	-----

- ※事 故：他害行為、転倒、施錠忘れ 等
- ※ヒヤリ：他害行為、転倒しそうになる、他者への関り、ベルト外れ 等
- ※身体拘束：同意書あり 拘りによる人や物への突進。手や体で止める (12)  
同意書あり 車椅子利用で座位が保てない。ベルト使用 (241)

## I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- ・「あつまりーナ消防計画」及び「地震津波対応マニュアル」に則り、毎月防災訓練を実施した。洪水・津波を想定した訓練では、第一避難所である「はあとふる」2階への避難訓練に加え、外出時「避難タワー」への訓練も実施した。各種災害の最新ハザードマップ及び避難確保計画の確認を行った。法人訓練では月1回の携帯電話への安否コールの実施、年1回の法人全体訓練を行った。感染症対策として、「感染症マニュアル」に則り、毎月感染症委員会を開催、県主催の研修に参加、職員への指導、マニュアルの再評価等を行った。職員研修として「嘔吐処理訓練」を行い、対策用品の再点検と補充を行った。急な心疾患症状に対応するため「AED」を館内に設置した。

## J 環境整備に関する報告 (100万円以上の修繕や改装など)

- 浄化槽点検 (年4回)、植木剪定・草刈り (年3回)、害虫駆除 (毎月)、消防設備点検 (年2回)、館内清掃 (年2回)、冷暖房装置点検 (年2回)、自動ドア点検 (年2回)

## K 収支状況、並びに、借入金返済報告

### 1 収支報告 (事業活動)

科目	2023年度決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計	44,238,585	44,978,340	△739,755
サービス活動費用計	38,709,226	36,885,784	1,823,442
経常増減差額	5,546,906	8,105,094	△2,558,188
特別増減差額	△3,000,000	△3,000,002	2
当期活動増減差額	2,546,906	5,105,092	△2,558,186

※サービス活動収益の内、寄付金収益10,000円)

### 2 借入金償還報告 なし

## L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告)

- ・吉田町関係
- 4/1、2023年度 管理に関する年度協定を締結。
- 7/24、運営委員会にて2022年度事業報告及び2023年度事業計画・予算を説明した。
- 3/8、備品調査

## M 実習生やボランティアに関する報告

### <実習・体験>

- 8/18～8/31 (10日間) 常葉大学保育実習 1名
- 10/13・16・19・20 (4日間) 清流館高校1年生4名 介護実習
- 9/20～22 (3日間) 吉田町立吉田中学校2年生2名 職場体験
- 1/30～2/1 (3日間) 吉田特別支援学校高等部1年生1名 実習

### <見学>

- 8/8・16・18・24 吉田特別支援学校中学部・高等部 親子見学 延べ10名
- 8/28 吉田特別支援学校中学部先生2名

## N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

- 4/28 業務監査 (災害予想無し (山崩れ) のハザードマップも整備するように)
- 5/10 会計監査 (現金で収納した現金が規程通り金融機関に入金されていない事例あり) 指摘事項については早急に対応を行った。

※ 創立18年 (町単独 地域活動支援センター5年・牧ノ原やまばと学園13年)



## 2023（令和5）年度事業報告

地域活動支援センター  
レタスクラブ

### A 2023年度の目標と実践に関する振り返り

#### 1 事業所の目標と事業計画

- (1) ご利用者が安心して利用できる環境を用意する。  
いつでも安心して利用できるように明るい挨拶を心掛けた。  
限られた空間内、コーナーや寝具等を工夫し静かになれる場所を作った。
- (2) 人との関わりを広げていくためにグループワーク等を通して学ぶ。  
毎日のプログラムは決めているが、過ごし方は様々である。  
仕事のストレスや自身の病気について言い合える場であり、自然なグループワークが形成されていた。
- (3) 関係機関と連携しながら進めて行く。  
ご利用者の体調や行動に対して、関係機関と連携をとりながら対応にあたった。  
(受診、金銭問題、ヘルパー利用等)

#### 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

- (1) ご利用者が主体的に生きていくために、人権を尊重し自発的な活動を支援する。  
サービス提供指針に基づく支援を実践した。

#### 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

- (1) 職員育成・チームワーク  
職員会議では互いの支援について良いところを認め合い、思いを共有した。  
法人研修、サポーターズカレッジの活用等、一人一人のスキルアップを図った。

### B 利用者と職員の状況報告

#### 1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
—	23	—	242	1217	5.0	—

#### 2 職員状況

	施設長	生活 支援員	事務員	その他	合計
実人数	1	2	1	0	4
常勤換算	0.1	0.9	0.1		1.1
計画との差	0	△0.4	0	0	△0.4

#### 3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	0	最高残業時間	0	有給休暇義務 取得率	100	有給休暇取得率	52.4
-------	---	--------	---	---------------	-----	---------	------

#### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	施設管理者会	1	月2回	経営会議	1
〃	作業就労部会	1	年2回	苦情解決委員会	1
〃	(あ) 全体会議	1	年2回	事故報告委員会	1
〃	(あ) 防災会議	1	年2回	防災委員会	1
〃	(あ) 感染症委員会	1	2/22	吉田町福祉推進委員会	1

**C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）**

毎月のプログラムは皆の意見を取り入れて作った。  
 季節の行事、ランチづくり、畑作業、卓球、脳トレ、今月の作品づくり、映画鑑賞  
 外出（喫茶店・静岡へ買い物）  
 あつまリーナ合同行事への参加（夏まつり・クリスマス会）

**D 職員の喜びや成長のために実践したこと**

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	職員会議	4	管理者会報告、利用者状況、次月の計画

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

「あつまリーナ館内職員の誕生日を共に祝った」  
 メッセージボードにお祝いの言葉を掲示し、ちょっぴりプレゼントを贈呈した。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
法人研修	4/20	新年度研修	1	6/17	新入職員研修	1
	10/14	防災研修	1	6~2	管理者研修（9回）	1
施設外研修	6/28、 8/23	精神保健業務（県）	1	1/9	精神疾患の理解	1
施設研修	年3回	サポカレ（利用者虐待）	3			

**E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告**

湯日川土手のゴミ拾い、吉田海岸清掃  
 7/27 コロナ渦においても継続して海岸清掃を行っていたことを評価され、国土交通省中部  
 地方整備局長より感謝状を授与された。

**F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告**

日付	内容	参加者
毎月	次月の行事予定配布	各家庭

**G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）**

なし

**H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告**

事故	0	ヒヤリ	0	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

**I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告**

「あつまリーナ消防計画」及び「地震津波対応マニュアル」に則り、毎月防災訓練を実施した。地震・洪水・津波を想定した訓練では、第一避難所である「はあとふる」2階への避難訓練を行った。

各種災害の最新ハザードマップ及び避難確保計画を備え、避難経路の確認を行った。  
 法人訓練では、月1回の携帯電話への安否コールの実施、年1回の法人全体訓練を行った。  
 感染症対策として、感染症委員は県の研修を受講し、感染症マニュアルの再評価を行った。  
 職員研修として「嘔吐処理訓練」を行い、対策用品の再点検と補充を行った。  
 急な心疾患症状に対応するため「AED」を館内に設置した。

**J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）**

浄化槽点検（年4回）、植木剪定・草刈り（年3回）、害虫駆除（毎月）、消防設備点検（年2回）館内清掃（年2回）、冷暖房装置点検（年2回）、自動ドア点検（年2回）

## K 収支状況、並びに、借入金返済報告

### 1 収支報告（事業活動）

科目	2023 年度決算	2022 年度決算	増減
サービス活動収益計	5,332,431	5,347,738	△15,307
サービス活動費用計	5,439,998	5,588,031	△148,033
経常増減差額	△83,562	△240,285	156,723
特別増減差額	0	0	0
当期活動増減差額	△83,562	△240,285	156,723

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 48,243 ）

### 2 借入金償還報告

なし

## L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

### ・吉田町関係

4/1、2023 年度 業務委託契約を締結。

7/24、運営委員会にて 2022 年度事業報告及び 2023 年度事業計画・予算を説明した。

3/8、備品調査

## M 実習生やボランティアに関する報告

井部博美さん（星いきいき財団）、殿村隆夫さん（元職員）

## N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

4/28 業務監査（災害予想無し（山崩れ）のハザードマップも整備するように）

5/10 会計監査（現金で収納した現金が規程通り金融機関に入金されていない事例あり）

指摘事項については早急に対応を行った。

創立 13 年 6 ヶ月

## 2023（令和5）年度事業報告

相談支援事業  
生活支援センターやまばと

### A 2023年度の目標と実践に関する振り返り

#### 1 2023年度事業計画に関する報告

- (1) OJT 機能を高める取り組みと事業展開を見据えた職員確保等への取り組みについて  
事業運営を安定的に継続するうえでの目先の職員確保はできた。また、OJT 機能を高める取り組みを含む業務の見直し、質の向上については取り組んできたが、業務負担感の軽減が実際に感じられないという職員意見が複数あり、何とか現状維持の状況、または、その成果は目に見えてあらわれているとは言えない。（達成率 60%）
- (2) 計画的な人材確保とゆとりある人材育成を含めた機能の強化について  
ここ数年、退職や配置転換など毎年のように大きな人事異動があったり、必要な資格取得が計画的にできていないこともあり、職員一人ひとりが「ゆとり」を感じるまでには至っていない。しかしながら、時間をどのように生み出すのかの意識は少しずつ高まっている。（達成率 48%）

#### 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

- (1) 行政と協働し、効率的効果的な協議会運営について検討し実施する。また、障害者福祉計画に反映できるニーズを把握するについて  
委託相談事業として、業務として自立協議会運営に積極的な関わりを持つことができています。また、委託相談業務報告等を通して、障害者福祉計画に反映するニーズ把握を行うことができた。（達成率 63%）
- (2) 相談支援専門員が疲弊しないよう業務の効率化、標準化を継続する。また、本人中心支援や意思決定支援に基づく、相談支援専門員の質の向上を目指すについて  
ICT の活用により情報共有による業務の効率化、標準化には一部取り組むことができた。また、二人体制 OJT などにより質の向上にも取り組むことができた。しかしながら、しかしながら、残業や標準化等の課題は残っているため、継続して取り組む必要がある。（達成率 54%）

#### 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

- (1) 人権尊重の意識を高く持ち、法人内事業所へ気付きを促す働きかけをする。  
法人内の入所、通所事業所 3 カ所と本人理解を一緒に考える機会を持つなど、「気づき」を促す働きかけやともに学び合う取り組みを行うことができた。今後は更に多くの事業所と関りを持っていきたい。（達成率 66%）
- (2) 「地域とつながる」に対して、相談支援の立場で発言し、取組に参加する。また、兼務職員体制を法人内地域への取り組みに活かすについて  
相談員が兼務する地域交流地域貢献事業を通して、地域で当法人の利用者様が活躍できる場作りに協力はできた。しかしながら、地域で暮らし続ける利用者の自立支援や地域ニーズ掘り起こしに関わるつながりはあまり出来ていなかったと感じている。また、兼務職員を通して、ご本人の意欲やご家族が親亡き後の暮らしを考えるキッカケを作ることができた。（達成率 54%）
- (3) 職員確保育成は、当事業所でも重点的な課題であるため、法人と連携して取り組むについて  
職員確保については、法人と積極的な連携（連動性）を感じられなかったが、相談しながら行うことができた。安定した事業所運営のためには資格等（社会福祉士、精神保健福祉士、相談支援専門員）の課題が大きいことから、引き続き連携していく

(達成率 54%)

## B 利用者と職員の状況報告

### 1 利用実績

#### ①特定相談支援事業実績(作成件数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計画	30	27	21	21	22	32	19	18	12	23	23	24	275
モタリング	38	74	69	81	71	76	72	84	83	71	82	72	903
計	98	101	90	102	93	108	91	102	98	94	105	96	1,178

\*前年度比-96件(計画-43件、モタリング-53件) 事業計画達成率96.2%

#### ②委託相談支援事業実績(支援件数)

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別会議	関係機関	その他	計
牧之原市	76	32	23	335	0	18	433	120	1,037
島田市	116	88	83	597	263	63	898	188	2,296
合計	192	120	106	932	263	81	1,331	308	3,333

\*前年度比-1,194件(牧之原市-1,110件、島田市-91件)

### 2 職員状況(年度末現在、増減は昨年度末比)

	施設長	主任 相談員	相談員			事務員	合計
			常勤 専従	非常勤 専従	常勤 兼務		
実人数	1	1	6	1	1	1	11
常勤 換算 人数	委託	0.2	0.85	1.8		0.4	3.25
	計画		0.15	3.2	0.6	0.1	4.05
	他			1.0			0.3
増減	+0.2	±0	-1.0	+0.6	+0.5	±0	+0.3

専門職：社会福祉士6名、精神保健福祉士2名

委託相談市町別人工内訳：牧之原市2人工、島田市1.25人工

新規採用：正規職員1名 9/1 清水(相談員(他))

### 3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	1298.5時間	最高残業時間	300.3時間	有給休暇取得率	56.2%
-------	----------	--------	---------	---------	-------

残業時間職員一人当たり平均 162.3時間/年、13.5時間/月

前年度比で総残業時間は436.6時間増(前年対比150.7%)、有給休暇取得率は14.8%増

残業については、一人当たりの平均で約36.5時間/年、約3時間/月増。年度当初職員

1名欠員など大きな人事異動があったことと、サービス残業減少への取組みが主な理由を考えている。

### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

#### (1) 外部会議

開催日	種類	参加者	内容
毎月	牧之原市協議会関係	担当	地域実状に応じた体制整備について協議 協議会・各部会の企画運営
毎月	島田市協議会関係	担当	地域実状に応じた体制整備について協議 協議会・各部会の企画運営
毎月	吉田町相談支援部会	担当	相談支援部会に参加。地域課題等を提起。

#### (2) 法人内会議

担当者を選任し以下の会議に出席した。経営会議、施設管理者会、苦情解決委員会、生活ケア会議、防災委員会、事故防止委員会 他

#### (3) 事業所内会議

センター定例会を毎週1回開催し、事務連絡、ヒヤリ・事故報告、ケース共有・検討等を行った。

### C 利用者の喜びのために工夫したこと

日々の地域相談に加えて、地域貢献交流事業に関わる事で、法人重点目標の「地域とつながる」を一部実施することができた。

また、本人中心支援・意思決定支援理解のための事例検討会を、他事業所の研修会と併せて開催することができた。

### D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
毎朝	理念の継承	全員	朝礼でやまぼと50年記念誌の読み合わせ
12月頃	自己評価	全員	法人評価表に合わせて実施
年4回	施設長面談	全員	個別目標等の確認、評価を実施

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

お互いストレングス視点で学び合いねぎらう時や交流会の機会をもった。

朝礼時にケース相談に時間を持つこと等、気軽に相談できる環境を継続している。

3 研修報告

(1) 外部研修

静岡県、静岡県精神保健福祉士協会、基幹型相談支援センター等主催の研修に延べ28名が参加した。また、外部団体研修の講師等として主任を2回派遣した。

(2) 法人内研修（事業所外）

法人全体研修、新人リエンテーション、事例検討会、社労士研修に延べ7名が参加した。

(3) 事業所内研修

毎週水曜開催の定例会内で定期的に事例検討や事例共有等を実施した。また、施設長面談に合わせてサポカレ（支援者のマナー、リーダーシップ等）視聴研修を実施した。

### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

1 地域に対する公益的取組

関連事業所と連携の上で、毎月1回（計10回）坂部ふれあいサロンの送迎支援を行った。また、榛原中学校の資源回収や地域（坂部小学校）の資源回収に協力できた。

2 地域との交流

地域の町内会（坂2班長会）定例会に出席し地域住民の方との関わりに努めた。また、ご近所に対して年始の挨拶周りを行った。

### F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

地域貢献交流事業に関わる事で、地域との交流の機会を得ることができた。

### G 苦情とその対応に関する報告

2件。4月：対応に時間がかかるなどにより担当変更希望、11日：短期入所先に関連した対応不足による解約希望

### H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

1 事故

- 0 件。事故分類に当てはまることは発生しなかった。
- 2 ヒヤリハット
  - 0 件。ヒヤリハット分類にあてはまることは発生しなかった。
- 3 虐待 なし

**I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告**

1 防災訓練

11/24 法人一斉防災訓練日に法人本部と合同で備蓄品の確認し、事業所内では安否確認リストに基づく訓練等を実施した。また、法人実施の毎月の安否コール訓練に参加した。

**J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕等）**

なし

**K 収支状況、並びに、借入金返済報告**

1 収支報告（事業活動）

科目	2022 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	41,584,150	41,502,575	△81,575
サービス活動費用計	43,818,812	50,816,267	6,997,455
サービス活動増減差額	△2,234,662	△9,313,692	△7,079,030
経常増減差額	△2,146,461	△224,077	1,922,384
当期活動増減差額	△2,146,460	△224,077	1,922,383

※サービス活動収益の内、寄付金収益（0円）

2 借入金償還報告 特になし

**L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）**

委託相談に関する事業計画書・報告書を牧之原市、島田市に提出している。

3/26 牧之原市による特定相談（計画相談）に関する実地指導が行われた。

**M 実習生やボランティアに関する報告**

1 実習生

5/18, 23 垂穂寮から東京通信大学の学生1名を受け入れた。

9/13 垂穂寮から静岡福祉大学社会福祉士実習生1名を受け入れた。

2 ボランティア

なし

**N その他**

委託相談事業に対する消費税の取り扱いが発生し、収支差額に大きな影響を与えた。

主任相談支援専門員研修修了者を、地域人材育成に関連した研修等に講師として派遣することができた。

アフターコロナを理由に事業所内のパーテーションを撤去したことにより、職員間のコミュニケーションがより円滑になった。

## 2023（令和5）年度 事業報告

介護老人福祉施設  
短期入所生活介護  
介護予防短期入居生活介護  
特別養護老人ホーム 聖ルカホーム  
聖ルカショートステイ

### A 2023年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の目標 「利用者・家族・職員に笑顔の花を咲かせたい」
  - ➡ 2023年度一年を通し、職員一人ひとりが事業所の目標を忘れず努力できたと感じています。コロナやインフルエンザの施設内感染がなかったことは感謝です。面会が再開され、ご利用者もご家族もとても安心して様子を職員も喜んでいきます。職員の笑顔を引き出すため、魅力ある職場づくりはまだまだのように感じています。しかし、多くの問題や課題に取り組む中で“チーム力”が上がったと感じます。それぞれの考えや思いを話し合い、前進できた一年でした。
- 2 事業計画
  - (1) 一人ひとりに寄り添う支援を実践する。そのために、ご利用者の身体的心理的状態を把握し、ご本人やご家族の思いを受け止め専門職として最善の生活の援助ができるようにする。 ➡ ケアプラン作成時、本人や家族の意向確認の話し合いの場を設け多職種で検討した。施設やユニットで行う行事だけではなく、本人の意向を実現させるための行事を計画した。家族への情報提供は、体調不良時などだけではなく日々の様子についても積極的に発信した。ユニットケア推進のための委員会を立ち上げた。
  - (2) ショートステイサービスの提供により、介護が必要な状況になっても安心して在宅で暮らし続けられるよう利用者や家族を支援する。 ➡ 年間稼働率 76.8%。新規ご利用者 45名との契約ができたが、体調変化や長期入居などが多く定着に繋がらなかった。利用中の活動を活発にし、楽しみを増やす取り組みをした。
  - (3) 研修会や日々の実践教育をおし職員の専門性が高められ、利用者一人ひとりに適切な支援ができるようにする。 ➡ 外部研修への参加、施設内研修を積極的に行った。研修に参加した職員は、職員会等で他の職員へ研修報告をした。
  - (4) 地域の方々や関係機関と連携することで、利用者サービスの向上を目指す。 ➡ 地元消防団との災害時協力について打ち合わせをした。施設内外を見学してもらい有事の際にスムーズに連携できるよう話し合いを行った。
  - (5) 法律や法令等の順守、各種マニュアルの整備などにより、根拠ある施設運営とより適切でわかりやすい利用者支援が出来る働きやすい職場となるようにする。 ➡ 静岡県並びに牧之原市開催の「介護保険事業所集団指導」を多くの職員で参加し必要事項について確認をした。介護マニュアルの見直しを開始。各委員会で法令等の確認。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
  - (1) 職員が法人理念を深く理解し実践できるよう、学びの機会を設ける。
    - ➡ 会議等で「わたしたちの願い」「サービス提供指針」の唱和を行った。法人開催の研修会に積極的に参加した。
  - (2) 一人ひとりがかげがえのない存在である事を認識し、尊厳ある対応ができるよう職員育成を行う。
    - ➡ 会議等で「わたしたちの願い」「サービス提供指針」の唱和を行った。「理事長からのメッセージ」について職員で考えた。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
  - (1) 職員が、仕事を通じ自己の成長や喜びを感じそれぞれの役割りを意欲を持って行える職場づくりを目指す。
    - ➡ 一人ひとりが目標を決め、月ごとに振り返りを行うことができた。学んだ事を、発表する場を設け認め合う事ができた。
  - (2) 地域貢献事業について計画実施していく。
    - ➡ 坂部サロン送迎を一年間とおし協力できた。社会福祉法人減免にも対応した。



## B 利用者と職員の状況報告

### 1 利用実績

(1) 長期入所 (定員 70 名)

2024 年 3 月 31 日現在

現員数	70 名	平均介護度	4.0
最年長	104 歳	介護 1	0 名
最年少	64 歳	介護 2	1 名
平均年齢	86.0 歳	介護 3	21 名
稼働率	97.7%	介護 4	22 名
入居者数	18	介護 5	26 名
退去者数	18	待機者数	29 名

(2) 短期入居者 (定員 10 名)

実利用者数	延利用者数	年間平均稼働率
489 名	2,812 名	76.8%

### 2 職員状況

役職・職務	実人員	常勤換算	備考
施設長	1 名	0.8	さふらん管理者兼務
事務長	1 名	0.4	高齢者事業部
副施設長	(2 名)	—	看護主任、事務主任兼務
相談員・ケアマネ	5 名	3.7	
介護員	47 名	41.8	育休 1 名、EPA 生 2 名
看護師	5 名	4.4	
管理栄養士	1 名	1.0	グレイス兼務
事務員	4 名	2.6	真菜、さふらん、オリーブ、ぶどうの木兼務
介護補助員	4 名	1.9	
宿直員	3 名	1.0	
清掃員	2 名	0.2	さふらん兼務
嘱託医師	1 名	0.1	
合計	74 名	57.9	

### 3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	5,291 時間 15 分	有給休暇取得率	66.3%
-------	---------------	---------	-------

### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催回数	種類	参加者	内容
12 回	経営会議	施設長・副施設長・主任・事務長	施設運営全般、職員教育、全体行事、課題解決等
7 回	ケア向上委員会	経営会議メンバー・エトリナー・相談員・栄養士	経営会議の決定事項の周知、ユニットの課題や現状報告・業務改善すべき事項・ユニットケアの推進・看取りケア等
2 回	事故防止検討委員会	同上	事故・ヒヤリの検討、啓発、研修
4 回	虐待防止検討委員会	同上	虐待防止に関する事、研修
4 回	身体的拘束適正化委員会	同上	身体拘束に関する事、研修
4 回	感染症等対策委員会	経営会議メンバー・代表職員・相談員・栄養士	感染症、喀痰吸引、口腔ケアに関する事

12回	職員会議	全職員	情報共有・研修等
12回	衛生委員会	産業医・衛生管理者・施設長・他	職員の安全衛生、健康管理、ストレスチェック等
毎月	ユニット会議	各ユニット職員・他職種代表者	ご利用者の処遇検討、業務改善、研修等
6回	事故防止検討会議	各部署代表者	事故・ヒヤリの検証
毎月	メンテナンス会議	各部署代表者	施設設備、備品、介護用品の整備
毎月	防災対策会議	各部署代表者	防災訓練等の計画・実施
5回	優先入所検討会	外部有識者・施設長・その他職員	入所申込者(待機者)の入居順位を検討し決定する

### C 利用者の喜びのために工夫したこと

行事	内容
敬老会	長寿を祝い健康を祈念し開催。鏡開きや花火を楽しむ
クリスマス会	ご家族も参加しクリスマスをお祝いした。ボランティアバンドによる生演奏や大抽選会を実施。
カフェ開催	季節のお菓子や、さつま芋のデザートなど。他の事業所のご利用者や職員もご招待。よい交流ができた。
展示会への参加	みんなで協力し作成した作品を展示会に出品
花火大会	夏の夜に手持ち花火や、打ち上げ花火を楽しんだ
フラワーアレンジコンテスト	ご利用者と職員が協力して作成しユニット対抗のコンテスト
外出	ばらの丘公園、河津桜の花見、ショッピング等へ出かけた
ご利用者の夢を叶える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅を見にいきたいとの希望を叶えた</li> <li>・毎日散歩に行きたい</li> <li>・宝くじを買いに行く</li> </ul>
ユニット調理(食事・デザート作り)	ちらし寿司、豚汁、お好み焼き、餃子、サンドイッチ、いちご大福、クリスマスケーキ、ホットケーキ 他
移動販売車での買い物	移動スーパーを依頼し買い物を楽しむ
ユニットでレクリエーション	風船バレー、タクティール、座談会 他
ガーデニング	季節の花をプランターや花壇に植えました

### D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
各会議	理念の継承	全 員	サービス提供指針の読み合わせ
各会議	職場の倫理	全 員	服務心得の読み合わせ
毎月	目標管理シート	全 員	施設目標、部署目標、個人目標の達成度を毎月振り返り次月に繋げる
毎月	部署毎のミーティング	全 員	部署毎の情報共有と課題解決
毎月	ケア勉強会	介護員	食事、排泄、入浴に学び、課題を見つけ取り組む
毎月	認知症勉強会	介護員	認知症について学び、
毎月	ユニットケア勉強会	介護員	ユニットケアの基本を学び施設課題に取り組む
毎月	看取りケア勉強会	介護員・看護師	看取りケアについて学び見直しをする

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- ① 職員会や各種会議では、役職や身分に関わらず誰もが発言できるように配慮する。小グループでの話し合いの機会を多く設けた。
- ② 施設内やユニット内での嬉しい出来事を共有した。
- ③ 会議の最後に、レクリエーションや協力して美化活動を行い職員同士の会話の機会をつくった。

### 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	4/4	介護保険法について	13	4/27	誰もが生き生きと喜びを持って働くために	33
	5/25	根拠あるケア	35	5/25	誤嚥と窒息	35
	6/22	接遇・マナー	27	6/22	食中毒について	27
	7/10	ユニットケア	12	7/27	事故防止	34
	7/27	リスク管理	34	8/24	感染症ゾーニング	37
	8/24	移乗介助	37	9/27	褥瘡予防と対策	32
	9/27	身体拘束・虐待防止	32	10/30	職員の健康と働き方	27
	11/30	ターミナルケア	41	12/7	感染症対策研修	12
	2/22	事故防止	30	1/29	正しい口腔ケア	33
	2/27	身体拘束廃止フォーラム	5	2/22	勉強会の取組み	30
	5/11他	就職時研修	21	3/28	ポジショニングと拘縮予防	32
	毎月	防災・BCPについて	全員	9回	基本的ケアについて	54
	6回	ターミナルケア	30	11回	認知症について	66
		※ その他、ユニット会議等にてオンライン研修を受講				
法人研修	4/1	新人刈エンターション	7	4/3～7	新卒者研修	3
	4/15	新年度研修	7	6/16	1.2等級研修	3
	6/30他	主任等研修	2	9/7	事例検討会	2
	10/6	新卒者フォローアップ研修	7	9/29	新人刈エンターション	2
	10/5	労務研修	4	1/19	主任等研修	5
	3/27	新卒者総仕上げ研修	8			
施設外研修	5/10	介護施設における安全対策担当者養成研修	1	6/7他	認知症実践リーダー研修	1
	5/25	認知症介護基礎研修	1	6/7	高齢者施設感染症対策	5
	7/16	移動移乗介助研修	2		喀痰吸引研修	2
	7/26他	認知症実践者研修	2		誤嚥事故防止	1
		パーセルインデックス評価研修	14		認知症世界の歩き方	5
	7/25	高齢期における精神疾患の理解	3	8/2	ACPについて	3
	10/19	ユニットケア	2	8/18	医療的ケア教員講習	3
	10/13	介護保険集団指導	6	9/7	BCP策定研修	1
	10/25	ターミナルケア	5	9/29	BCP研修	2
	10/5	労務研修	3		ユニットリーダー研修	2
	10/12	せん妄と認知症	5	11/9	感染対策研修	4
	12/14	看護職員研修	5	12/13	褥瘡研修	4
	2/10	認定介護福祉士研修	1	12/5他	デジタルテクノロジー基本研修	2
	12/12	施設ケアマネジメント研修	1	12/13	体重減少を食い止める食支援	2
	12/12	介護ロボットフォーラム	2	1/31	口腔ケア講座	1
	3/26	介護保険事業所集団指導	8	2/2他	次世代リーダー研修	2
	2/6	看護師のためのユニットケア	1	2/7	食に携わる人のためのユニットケア	1
	2/2～3	キリスト教社会事業同盟	1		身体拘束廃止フォーラム	5
	2/2	外国人介護員交流研修	1	3/18	BCP訓練セミナー	1
	毎週火	EPA生への研修	2	14回	EPA生への研修	2
	※ 研修参加者は会議等で報告を行い全職員で共有					

**E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告**

日付	内 容	参加者
	サロン送迎	職員 7 名
	社会福祉法人減免実施	—
9/3	地域との防災連携について話し合い	職員 5 名、消防団員 5 名
11/5	地域子供神輿が来ホーム。お囃子の披露を鑑賞	利用者、職員

**F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告**

日付	内 容	参加者
毎月 20 日	聖ルカだよりの発行	職員全員
10/20	ご家族アンケートの実施	相談員
不定期	ケアプラン作成のためのカンファレンス	ケアマネ、看護師、栄養士 他

**G 苦情とその対応に関する報告**

日付	誰から	内 容	対応者
8/16	利用者家族	1. 病院退院後の面会時、退院時と同じ服を着ていて汚れていた。2. 就寝時パジャマに着替えていない。3. 利用者本人への言葉がけがきつい。	相談員
1/15	ケアマネジャー	ショートステイ利用時、職員の対応を不愉快に感じた。前回の利用時にも同じような事があった。その後の利用は全てキャンセルとなった。	相談員

**H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）**

事故	185	ヒヤリ	76	虐待	0	身体拘束	0
----	-----	-----	----	----	---	------	---

行政報告 2 件（居室内での転倒骨折）

**I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告**

日付	項目	内 容	参加者
毎月	防災訓練	避難訓練、災害時食事提供訓練、消火訓練	職員全員対象
7/14	消防署立入 検査	防火管理者・訓練の事務手続き、避難経路、防災設備、消火器の使用期限等の確認を行った。	職員 2 名 消防署職員 2 名
9/3	地域消防団 との連携	聖ルカホームでの放水、防火水槽についての確認と坂部地区の災害危険箇所の確認を行った。	職員 5 名 消防団 4 名
7/21、 12/3	地域防災訓 練への参加	災害時被害状況報告訓練に参加	職員 2 名 坂部区
2/22	消防署立会 防災訓練	総合防災訓練の立会い、消火器使用方法の説明、避難経路等避難訓練に関する助言をいただいた。	職員 75 名 消防署職員 3 名

**J 環境整備に関する報告（100 万円以上の修繕や改装など）**

無線ネットワークの設置、リフト付きシャワーキャリーの設置

**K 収支状況、並びに、借入金返済報告**

1 収支報告（事業活動）

科目	2023 年度決算	2022 年度決算	増 減
サービス活動収益計	415,265,415	410,581,221	4,684,194
サービス活動費用計	427,028,379	423,063,935	3,964,444
経常増減差額	△14,178,004	△14,756,579	578,575
特別増減差額	4,346,397	3,444,104	902,293
当期活動増減差額	△9,831,607	△11,312,475	1,480,868

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 3,000 円 ）

## 2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2014. 10. 7	0.57545	10年	静岡銀行	95,000,000	27,810,300	67,189,700
2014. 10. 7	0.695	30年	島田掛川信用金庫	427,500,000	116,508,290	310,991,710

## L 主務官庁に関連した報告

なし

## M 実習生やボランティアに関する報告

- 1 実習 ①榛原中学校（職業体験） 4名 ②相良高校（ジョブシャドウイング） 3名
- 2 ボランティア
  - ① 日赤奉仕団（草取り・福祉用具清掃）5回（延べ66名）
  - ② JA女性部どんぐり（ウエス切り）10回（延べ30名）
  - ③ 里山の会（門松の寄付設置）
  - ④ 榛原高校野球部（もちつき）23名

## N その他

- ① 職員が、介護福祉士や認知症実践リーダー、ユニットリーダーなど様々な資格取得に努めた。資格が増える事で、介護報酬も増額し経営にプラスとなるが、何より日々のケアが向上することが大きな目標です。
- ② 新卒職員3名が配属され、一年かけて大きく成長できた。メンター制度を活用し育成に力を入れたことで、新人職員にとっては安心感が生まれ先輩職員にとっては成長の喜びとともに自己の成長のためにもなった。
- ③ 静岡県のICT導入支援事業の補助金を活用し、二つの環境整備を行った。一つは、浴槽にシャワーキャリーを取りつけご利用者が安心して入浴できるとともに職員の腰痛予防にもつながった。二つ目は、Wi-Fi環境を整備したことで今後の介護現場でのICT導入に向けた整備を行うことができた。
- ④ 外部の専門家による研修会が開催できた。産業医による「ワークライフバランス」地域開業医による「褥瘡予防」、訪問看護事業所所長による「ターミナルケア」、協力歯科医による「口腔衛生管理」について専門的な研修を受ける機会が与えられました。法人内の他事業所からも参加していただけた。
- ⑤ 余暇委員会を立ち上げ、行事やイベントを多く企画実施できた。ご家族や外部ボランティア、敷地内の他事業所の利用者様も一緒にイベントを楽しむことができよい交流の機会となった。

## 2023（令和5）年度 事業報告

地域密着型介護老人福祉施設  
入所者生活介護  
特別養護老人ホームグレイス

### A 2023年度の目標と実践に関する振り返り

#### 1 事業所の2023年度事業計画に関する報告（総括）

感染対策として状況を見ながら面会時の対応を随時変更するなどして、ご利用者とご家族の交流の場を設けた。施設の祭りや新年会等には地域ボランティアの参加が叶い久しぶりに賑やかなイベント開催となった。感染対応訓練は定期的を実施していたが2月には利用者4名・職員6名のコロナ陽性が確認され、感染対策の徹底が継続できていないと反省させられた。

人材不足と、事業所の計画・目標を伝える場面を多く持たず、職員が目標に向き合っ  
て協力し合える風土作り・相談しやすい職場作りは不十分な結果となった。

#### 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

職員会議で法人理念を示唆する資料に触れる機会を持ち、各会議において「サービス提供指針」等の読み合せを行って理念の浸透を図った。

#### 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

新人職員への研修、無資格介護職員の研修受講、中堅職員の資格取得（介護支援専門員・ユニットリーダー・喀痰吸引等）の推奨を行った。生活困窮者への食糧支援・地域サロンでの出張レクの実施で地域とのつながりを深めることが出来た。

### B 利用者と職員の状況報告

#### 1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
29	29	0 (退所9 入所9)	366	10489	28.3	98.8%
3月末		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
		1	0	9	11	8

#### 2 職員状況（3月末）

	施設長	相談員 (ケアマネ)	看護師	介護員	事務員	清掃員	合計
実人数	1	1	3	22	2	1	31
常勤換算	1.0	0.9	2.0	18.33	1.31	0.3	23.84
前年増減	+0.25	-1.1	-0.8	-1.48	-0.34	0	-3.47

#### 3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	2534 : 25	最高残業時間	343 : 30	有給休暇取得率	37.8%
-------	-----------	--------	----------	---------	-------

#### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
年2回	法)防災委員会	2	研修、事業所BCPの検討、本部BCPとの連携
年2回	法)苦情解決委員会	1	苦情解決経緯・対応等の検討、第3者委員
年2回	法)事故防止委員会	1	集計報告、事故の原因究明と再発防止策、評価
年2回	法)虐待防止委員会	1	事例報告、対策について検討、各施設の取組
月1回	恵の丘職員会議	全員	事業所・各部門の報告・課題検討、内部研修
月1回	経営運営会議	8	恵の丘3事業所全体の運営について検討
月1回	リーダー会議	5	各ユニットの報告・ケアの検討、リーダー研修
月1回	各ユニット会議	10	利用者のケース検討、業務改善、ケア情報共有
月1回	看護ミーティング	5	看護・医務・相談援助間の情報共有

月1回	防災メンテ会議	4	防災対応、防災訓練の計画・実施、施設整備
年4回	感染対策委員会	6-7	感染症及び食中毒まん延防止の為の対策検討
年4回	褥瘡予防・ケア連携委員会	6-7	褥瘡発生のリスクの評価、徐褥瘡発生予防の対策検討。吸引等医療的ケアの安全な実施の検討
年4回	安全対策委員会（リスク・虐待防止・身体拘束適正化）	6-7	介護事故発生の防止、再発防止の対策の検討 虐待等の発生防止・早期発見・再発防止の検討 身体拘束の適正化のための対策を検討
年6回	運営推進会議	11	施設の運営実績の報告、地域との連携等の検討
月1回	高齢者事業部会	10	各事業所報告 他
月1回	施設管理者会	30	各事業所報告 他

### C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・日課：毎夕、新設内や施設周辺の植物を眺め、職員との会話も楽しみながら散歩
- ・行事：今年度もご家族の参加は叶わなかったが、秋祭りや餅つき・新年会では地域の皆様・ボランティアの皆様の協力を得ながら職員による余興も加わり、賑やかに実施できた。
- ・ご利用者個々の願いに沿った企画を計画、実施した（他施設の妻に会いに行く、藤・河津桜花見ドライブ、お墓参り、室内ポーリング、他施設の祭りや運動会に参加、空港見学、かき氷、庭の野菜でカレー作り、ひまわり畑見学、自慢のおでんと新米おにぎりを皆に提供したい、能満寺で家族と過ごす、ユニット合同体操、足浴ハンドマッサージ、地域祭典見学、運動会、つくたての餅で磯部餅を食べたい、暑中見舞い・年賀状作成・書初め）
- その他各ユニット毎で誕生日会・歓迎会・食事・デザート作り・ゲーム・散歩等を実施  
恵の丘全体で七夕飾り・クリスマス飾りつけを行った。

### D 職員の喜びや成長のために実践したこと ※今までにない視点となる。意識した活動を

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
年12回	理念の継承	全員	法人の理念を示唆してくれる書物や動画を活用して法人の理念の学びを深めた。

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して下記のことを行った。

- ・併設事業所含め施設内全体で協力し、七夕ロード・クリスマスロード等で四季を表現
- ・各委員会の合同開催で情報の共有
- ・年末のお楽しみ会ではユニット職員の企画に事務職員等も参加し盛り上げ、良いチームワークで行事を行えた。
- ・毎月のユニット会議で職員同士、日頃の感謝を伝えあう時を持った。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内	4/21	親の老いを受け止める 新年度研修動画視聴 誰もが生き生きと喜びを持つ…	15	10/5	新人教育心構え	5
				10/19	虐待防止研修 緊急時対応の理解	19
	計3回	新人研修	4	11/16	倫理及び法令遵守、 睡眠とメンタルヘルス、インフルエンザとノロ、認知症、BCP 訓	14
	5/18	危機管理、災害時業務継続机上訓練	17	12/21	安全対策強化、吸引、口腔ケア、死を直前にしたケア、感染症、労務	17
	6/15	感染症及び食中毒 ハラスメント 認知症	17			
	7/12	災害時 BCP 訓練 停電時の対応	14	1/18	対人トラブルの心理学 感染症初動訓練	
	7/20	看取りケア、身体拘束の基礎、災害時 BCP 訓練	19	2/15	褥瘡（床擦れ防止用具）、 身体拘束廃止フォーラム	16
	8/3	チームで取り組むこと	5	3/21	口腔ケア、高齢者虐待防	

		の意味			止、死後のグリーフケア	
	8/17	感染症 BCP 訓練、身体拘束、緊急時対応	18	毎月	理学療法士によるポジショニング指導	1~2
	9/7	業務改善の仕組み作り	5			
	9/21	プライバシー保護、認知症、安全対策強化				
法人内	1/19	主任等研修	2	9/7	事例検討会	2
	10/14	防災研修	1	4/15	新年度研修	5
	年2回	新人オリエンテーション	4	6/16	1・2 等級職員研修	2
	9/24	労務：人事評価の進め方	1	10/31	職場の健康と働き方	
	9/27	褥瘡予防		1/29	口腔ケア	
外部	7/13-14	認知症高齢者の看護	1	7-12月	喀痰吸引実習	1
	6/1	保健福祉制度勉強会	1	11/27	アサーティブコミュニケーション	1
	7/5	若年性認知症者の講演	2	11月	福祉施設等職員防災研修	1
	8-11月	認知症介護実践者研修	1	11/29	ファシリテーション講座	1
	8/18	医療的ケア教員研修	1	11月	ターミナルケア	5
	8-9月	労働法セミナー	2	12/8・9	高齢者権利擁護推進	1
	9/16	褥瘡予防 ケアのコツ	1	11/5	ACP 普及の為の基礎研修	1
	9/5	助成金の活用	1	9/7	BCP 策定研修	1
	10/20	働き続けたい職場作り	1	3/8	レク研修	1
	10/13	アセスメント・情報分析	1			

#### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
5/30	生活困窮者への食糧支援	全員
6/16	坂部ふれあいサロンにて遊びりテーション 2/9 中止	2名
1年間	社会福祉法人等利用者負担軽減での施設サービス提供	利用者2名

#### F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
年6回	運営推進会議（書面会議4回、対面会議2回）	職員、家族・地域・行政代表
年1回	家族アンケートの実施	家族全員
毎月	グレイス便りの発送、利用者様状況個別報告	

#### G 苦情とその対応に関する報告 . . . 1件

日付	誰から	内容	対応者
10/12	匿名	職員と思われる車両の一旦停止無視について	相談員

#### H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	44	ヒヤリ	92	虐待	0	身体拘束	2
----	----	-----	----	----	---	------	---

身体拘束：感染症発生時、ご本人の安静と他利用者への感染拡大防止のため実施

#### I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

防災訓練を9回実施。地域の訓練に参加。備蓄食品を5日分から1週間分へ増量。職員の居住地域・施設周辺と出勤経路のハザードマップ確認。地震・台風等の被害はなかった。

#### J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）. . . なし

#### K 収支状況、並びに、借入金返済状況

##### 1 収支状況（事業活動）



科目	2023 年度決算	2022 年度決算	増減
サービス活動収益計	163,316,210	162,003,358	1,312,852
サービス活動費用計	175,507,848	173,536,489	1,971,359
経常増減差額	△11,991,284	△11,320,345	△670,939
特別増減差額	3,973,000	15,411,935	△11,438,935
当期活動増減差額	△8,018,284	4,091,590	△12,109,874

※サービス活動収益の内、寄付金収益（35,000 円）

2 借入金償還報告 なし

**L 主務官庁に関連した報告（実地指導や、指導監査等の報告、許可申請、その他）** なし

**M 実習生やボランティアに関する報告**

利用者との交流ボランティア：1 件（里山の会による餅つき・門松の設置）

日赤奉仕団・牧之原市社協等：環境整備（草取り・清拭縫い・車椅子掃除・ウエス作り）

榛原太鼓・さくら会：祭り・新年会等への協力

**N その他** （監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等） なし

## 2023（令和5）年度 事業報告

養護老人ホーム 相寿園

### A 2023 年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の 2023 年度事業計画に関する報告  
「利用者の立場に立ったサービス提供」の活動方針は、まだ不十分な点はあるものの、おおむね職員の意思統一がなされ、具体的な支援に生かされてきた。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
  - (1) 「利用者自身の思いが反映された生活を送ることができるように、意思決定支援に努める」計画に関しては、意思決定支援の研修を受講した職員が、その内容を職員会議で丁寧に説明し、具体的事例で検証をした。言語や動作で意思表示することが困難な利用者の思いを確認する作業は簡単なことではないが、知りたいと思う職員自身の気持ち（意志）と共に日常生活における信頼関係が試される結果となった。
  - (2) 「個別支援計画（ケアプラン）の充実」に関する計画は、おおむね計画通り進み、内容も担当職員が真剣に利用者に向き合った結果がケアプランに表われていた。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告  
特に職員育成に関する研修においては、オンライン研修が主流であったため職種を限らず研修のチャンスを得ることができた。また、支援会議や職員会議等の様々な場において、忌憚のない話し合いが少しずつできるようになった。

### B 利用者と職員の状況報告（実績）

#### 1 利用実績

措置入所定員	3月措置者数	短期入所定員	3月契約者数	延利用者数 (年)	月平均	利用率 (年)
50	31	5	3	11,151	929	60.9%
介護区分なし	要支援	要介護1~2	要介護3~5	知的障害	身体障害	精神障害
18	3	9	1	2	6	11

#### 2 職員状況

	施設長	副施設長	主任	支援員	生活相談員	看護師	合計
実人数	1	(1)	1	7	2	1	
常勤換算	1	(1)	1	4.57	1.73	1	
	栄養士	事務員	夜勤専門員	宿直補助員			
実人数	1	1	4	5			23
常勤換算	1	1	2.43	2.45			16.18

※副施設長は主任を兼務

#### 3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	899	最高残業時間	45時間	有給休暇取得率	86.9%
-------	-----	--------	------	---------	-------

#### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月1回	職員会議	全員	施設管理者会及び高齢者部会報告、法人理念の確認、研修報告等。
毎月1回	支援会議	全員	行事の計画、利用者の支援についての話し合い等。
毎月1回	ケアプラン会議	全員	年1回の利用者個別ケアプラン作成のための検討。
毎月1回	給食・献立会議	栄養士、主任、委託業者等	給食や献立に関するトラブルや問題点、課題の検討。また、食事に関するアンケートの取りまとめと考察。
毎月1回	防災委員会	副施設長、支援員	毎月1回開催する防災訓練（避難訓練）の計画立案。
年6回	感染症予防対策委員会	施設長、主任、看護師等	感染症の予防と対策、新型コロナウイルス感染症の現状確認、ワクチン接種の予定と段取り等の検討。
年6回	事故防止対策委員会	施設長、主任、看護師等	ヒヤリハット、事故の振り返り及び対策の確認。

年3回及び随時	身体拘束廃止委員会、虐待対応委員会	施設長、主任、看護師等	身体拘束が必要かどうかの検討。虐待防止のチェックリストの実施等。
---------	-------------------	-------------	----------------------------------

### C 利用者の喜びのために工夫したこと

- ・「誕生月外出」を実施。誕生月に利用者と担当職員が話し合って外出計画を立て実施するもので、利用者にとって大変楽しみな行事になっている。
- ・月1回はご利用者の自治組織である「白ゆり会」を開催。ご利用者も職員もお互いに住みやすい施設にするために話し合いをする場になっている。
- ・ご利用者が中心に花の苗を育て、野菜を育て、そして収穫するという積極的な園芸活動が行われている。今では利用者、職員と一緒にその成長を楽しみにしている。園の周囲の散歩の時間には多くのご利用者が参加するようになり、その時々には咲き誇る花や植木に癒されている。
- ・今年度より年1回の定期的な歯科検診を実施(3/14)するようにした。今後も利用者の方々の食べる喜び、話す楽しみを保ち、精神的健康にも大きくかかわる歯や口腔の健康管理に寄与したい。

### D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
月1回	ケアプラン会議	全員	ケース検討を丁寧に行い、アセスメントする力を養う。
月1回	支援ミーティング	支援員全員	今年度より開催。支援における具体的な課題を話し合い、職員会議に提出する議題を検討する。
月1回	職員会議	全員	法人の理念と現実の仕事との関連を考える機会とし、特に「心理的安全性」に配慮した時間とした。
月1回	給食献立会議	栄養士、支援員 相談員、給食業者	給食や献立に関するトラブルや問題点、課題の検討。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。  
毎朝の引継ぎの時間、職員会議、ケアプラン会議等々においては、具体的支援の際の苦労を共有できる時間にしたいと考えている。ご利用者との関係において、うまくいかない例や失敗例の中での職員の焦りや怒り、悲しみを共有し、同時にささやかな喜びも共有できる場にしたいと考え実践してきた。

#### 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	種別	日付	内容	人数
県老協及び中部地区連絡協議会	5月～3月	施設長、相談員、支援員、栄養士、看護師対象の各課題検討会	合計 10	外部研修	5月～3月	【静岡県社協】 ・感染症講座 ・高齢者虐待の予防等々	6
					7月～1月	【全老協】 ・全国老人福祉施設大会参加 ・誤嚥事故防止	4
4/15	新年度研修	4	法人研修		1/19	柴田主任、込山副主任 榊原副主任	3
		1					
外部研修	7/7	日本キリスト教社会福祉学会	1		8月～12月	(株)安全な介護 BCPと避難計画	1

### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
随時	自主短期宿泊制度	毎月平均2名～3名利用
12月	地域防災訓練の集合場所として駐車場の提供	約60名の地域の親子が参集
年3回	相良小学校の資源回収に協力	段ボール等をまとめ車庫に保管

**F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告**

日付	内 容	参加者
毎月1回	相寿園だよりを発行し、家族や関係機関に発送	約100部

**G 苦情とその対応に関する報告**

日付 誰から 内 容 対応者 なし

**H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告**（交通事故も別に記載）

事故	35	ヒヤリ	70	虐待	0	身体拘束	2
----	----	-----	----	----	---	------	---

**I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告**

防災訓練は毎月1回、地震想定、火災想定、夜間想定など様々な想定の上で実施している。また建物が浜岡原子力発電所から直線距離で10km未満の場所に立地しているため、原子力災害を想定した訓練を行政関係者や設備関係の業者と共に年2回実施してきた。

**J 環境整備に関する報告**（100万円以上の修繕や改装など）

なし

**K 収支状況、並びに、借入金返済報告**

## 1 収支報告（事業活動）

科目	2023年決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計	111,765,136	118,859,692	-7,094,546
サービス活動費用計	112,455,120	116,586,014	-4,130,894
経常増減差額	-313,000	2,683,364	-2,996,364
特別増減差額	15,400	-395,600	411,000
当期活動増減差額	-297,600	2,287,764	-2,585,364

※サービス活動収益の内、寄付金収益（58,000円）

## 2 借入金償還報告

契約年月日 利率 期間 金融機関 借入額 償還額 残額 なし

**L 主務官庁に関連した報告**（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

特になし

**M 実習生やボランティアに関する報告**

- ・実習生…なし
- ・ボランティア…①毎年4月に牧之原市人権擁護委員会のメンバーがひまわりの種の植付けに訪問されている。  
②2023年5月から毎月1回（土曜日）9:30～12:00 看護師の山岸さんが来られた。そして幸運にも2024年2月、正職員として相寿園に勤める決心をされた。2024年4月より勤務開始。
- ・相良高校インターンシップ…昨年参加した学生（女子）の印象が良かったためか2年目の受入れであった。今年は2年生男子であった。3日間の短い期間ではあったが、生徒にとっても施設にとっても貴重な経験となった。来年も打診があれば受入れたい。

**N その他**

就職者	12月	パート1名（夜勤補助）	累計数：1名
退職者数	3月	パート1名（支援員）	累計数：1名

## 2023（令和5）年度事業報告

養護老人ホーム  
島田市立養護老人ホームぎんもくせい

島田市の指定管理受託事業（島田市立養護老人ホームぎんもくせい）について  
令和6年3月31日をもって終了した。

### A 当年度目標と主要な計画

- 1 事業所の目標 「利用者の立場に立ち、根拠のある処遇の提供を行う」。
  - ▶ 処遇会議を毎月1回定期的に実施した。ご本人の希望や各職種からの意見を取り入れることができた。利用者の立場に立つことについては、接遇に関して利用者から苦情があり十分と言えない。
- 2 事業計画 処遇検討や苦情解決の標準化を進める。
  - (1) 困ったら「生立ち」や「略歴」を読む。②不完全でも期限を切って方針と結論を出す。(3日以内の反応。1週間以内の方針決定と実行。2週間以内の効果確認。)
  - ▶ 入所者の支援に関してPDC Aサイクルを定着させるには至らなかった。身体拘束等の緊急時には意識的にPDC Aサイクルに基づいて実施できた。
  - (2) 現場三者(主任(L) 支援員、看護師、生活相談員)による小会議の開催と「指示と心配」が「引き継ぎ」されているかの確認の実行。
    - ▶ 日常的に三者協議で検討・決定することはできたが、決定した内容を「引き継ぐ」ことについては十分と言えない。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
  - (1) 親しげであっても丁寧な物言いに努める。
    - ▶ 入所者から職員の接遇について苦情1件あり。接遇について職員会や職員個別面談(2回/年)、内部研修等を実施し振り返りに努めた。
  - (2) 「それでも一緒に歩いて行く」「人は命だけでは生きられない」を輪読する。
    - ▶ 職員会議中に、フロア対応の為職員が入れ変わるため輪読中止。途中から理念唱和に変更した。
- 4 「法人の当年度重点計画」との関連(法人中長期計画の初年)
  - (1) 秋から次年度計画の検討に入る。
    - ▶ 11月には指定管理更新見送りとなり、次年度計画は中止した。
  - (2) 12月末までに次年度必要な人材の半数を確保する。
    - ▶ 年度途中で委託事業終了が決まり、事業終結と次期指定管理者への引継ぎが主になった。

### B 利用者と職員の状況

#### 1 利用実績

本入所定員	3月措置者数 *3月 月初	生活指導短期宿泊事業(延べ)	(自主)短期宿泊事業(延べ)	本入所者数(延べ)	本入所者数 月平均	利用率
50	38	12	29	13,865	1,155	75%
障害者加算	要支援	要介護1~2	要介護3~5	知的障害	身体障害	精神障害
17	4	11	3	5	7	3

#### 2 職員配置状況 その他は清掃担当。3月末実績

	施設長	副施設長	主任	支援員	生活相談員	看護師	
実人数	1	0	1	10	2	1	
常勤換算	1.0	—	1.0	5.6	2.0	1.0	
	栄養士	事務員	宿直員	その他			合計
実人数	1	1	3	1			21
常勤換算	1.0	0.8	1.0	0.3			14.9

#### 3 残業と、有休休暇取得について

総残業時間	1,138 時間	最高残業時間	216 時間	最終有休取得率	83%
-------	----------	--------	--------	---------	-----

#### 4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	内 容
毎月末	職員会議	連絡事項 各部署から 処遇計画報告 内部研修
毎月中	部署会議	支援員会議は定期的を実施
年 2 回	虐待防止委員会	報告・対策と研修 身体拘束適正化委員会と同時開催
年 2 回	事故防止委員会	報告・対策と研修 苦情解決委員会と同時開催
年 2 回	感染症委員会	報告・対策と研修 職員会内で開催
年 2 回	食中毒予防委員会	報告・対策と研修 職員会内で開催

#### C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

5 月運動会 8 月夕涼み会 9 月敬老会 10 月保証人会 11 月大津ふれあい祭り 12 月クリスマス会・大掃除 1 月新年会 2 月豆撒き 3 月バス旅行

#### D 職員の喜びや成長のために実現したこと

- 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画
  - ▶法人新年度研修の参加や、職員会議で毎回法人理念を確認した。
- 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画
  - (1) 懇親会の開催。年 1 回、職員間で慰労の会を設ける。
    - ▶事業終了となり施設独自の親睦会は 1 月に解散した。3 月に職員慰労会を実施した。
  - (2) 普段の仕事上の大変さを吐露し、共有する(苦労分かち合い)の機会を設け、チームワーク形成とストレス緩和を行う。
    - ▶コロナ感染クラスターの際は、困難な状況であったがチームとして対応できた。

#### 3 研修

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	2～3 月	虐待・身体拘束	5～7	秋冬	感染症研修（ガウンテクニックなど）	5～7
	夏秋	介助技法、障害特性、認知症	5～7			
法人研修	4/15	新年度研修	5～7	随時	未来検討会への参加	1
施設外研修	各月	中公養護研修	1～2			

#### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流

- 自主事業としての契約入所事業の対象者を拡充し、低利用料提供を実施する。
  - ▶制度としては整備したが適用するケースはなかった。
- 大津地区社協手動の買い物支援（毎月第 4 水曜）に、車両提供をする。
  - ▶車両の登録はしたが実績はなし。

#### F 家族との連携、交流、連絡など

日付	内 容	参加者
毎月初	ぎんもくせい通信の発行、送付、掲示依頼	行政、大津小、大津改善センター、保証人等へ送付
8/17	納涼夕涼み会	地域の方、行政、保証人等
10/14	保証人会	職員 5 名、保証人 20 名

#### G 苦情について対策（前年度を振り返って）

苦情累計件数：1 件 苦情内容：利用者から 職員の接遇態度について  
館内に 2 カ所の投書箱(苦情箱 1F とご意見箱 2F)を設置。毎月末月初に確認したが今年度は投書なし。

## H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 1 事故：60件（前年度2月末まで）
- 2 ヒヤリハット：245件（前年度2月末まで） 同上
- 3 虐待：0件（前年度3月末まで）
- 4 身体拘束：7件（前年度3月末まで）  
利用者同士のトラブル（暴力行為）回避の為施設 1件、自傷他害行為による危険回避 1件、体調不良による転落防止の為 5件

## I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 7月にコロナクラスター発生。入所者の9割、職員の2割が感染。感染拡大は防ぐことができなかったが、発生時の対応は感染症研修や訓練を生かすことができた。

## J 環境整備に関する計画（定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

- 引継ぎに伴うリース物件解約のうちLED照明の残債

## K 収支、並びに、借入金返済計画

### 1 収支報告

科目	2023年度決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計（累計）	123,830,156	115,191,819	8,638,337
サービス活動費用計（累計）	117,359,024	121,147,210	△3,788,186
経常増減差額	8,188,879	△5,954,712	14,143,591
特別増減差額	△6,124,297	130,600	△6,254,897
当期活動増減差額	2,064,582	△5,824,112	7,888,694

### 2 借入金償還計画

返済日	利率	期間	相手先	返済額	償還額	残額
2024.3			法人本部	8,000,000		0

## L. 主務官庁との関連

- 県指導監査 9/15 改善指導事項（処遇計画作成・身体拘束委員会・身体拘束研修・身体拘束記録）すべて改善、理事会承認済み、県報告済み。

## M. 実習生やボランティアに関する報告

- 看護学生2名の受け入れ

## N. その他

## 2023（令和5）年度 事業報告

通所介護  
介護予防・日常生活支援総合事業  
デイサービスセンター真菜

### A 2023年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について  
利用者、家族の思いに寄り添い、安心して過ごせた。稼働率が11月から1月にかけてUPしたが、2月に新型コロナウイルスの感染があり稼働が下がってしまいました。職員がチームワーク良く、協力し合える環境を整えるよう努めた。
- 2 事業報告
  - (1) LIFEの加算取得ができた。
  - (2) 職員会議でグループワークを取り入れ、雰囲気よく意見交換が行えた。時間差で出勤してくる職員に情報共有する時間を作った。
  - (3) 送迎時に家族とのコミュニケーションを大切にし、できるだけ良い報告をするよう努めた。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
  - (1) 一人ひとりの思いに寄り添い、利用者とともに行う活動を定期的に行えた。
  - (2) 石雲院、平井農園の収穫手伝い、オリーブ摘み、コーヒーショップ等に出かけた。地域の方々との交流もできた。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
  - (1) 入浴・排泄は同性介助に務めた。
  - (2) 介護福祉士を目指し、1名受験し合格した。認知症基礎研修2名受講した。
  - (3) 生活困窮者への食糧支援を法人で1回、5月に行った。サロンの送迎を毎月行った。

### B 利用者と職員の状況報告

#### 1 利用実績

定員	登録者数 一月平均	利用者数	目標利用者 数一日平均	開所日数	一日平均	利用率
35	67.6	7,793	26.0	309	25.2	72.1%

#### 区分による利用者数

##### (実人数)

事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
60	58	89	285	167	94	47	12

##### (延べ人数)

事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
269	218	567	3,340	1,973	777	414	235

#### 2 職員状況

	施設長	生活相談員	介護員	看護師	事務員	その他	合計
実人数	1	1	10	3	1	3	19
常勤換算	1.0	1.0	7.7	2.1	0.5	0.9	13.2
計画との差	0	0	0.7	0.4	0	△0.4	0.7

#### 3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	655.2	最高残業 時間	177.3	有給義務 取得率	100%	有給休暇 取得率	75%
-------	-------	------------	-------	-------------	------	-------------	-----



#### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催数	種類	参加者数
毎月	職員会議	16名	9/4	法人防災委員会	1名
毎月	くもん月次検討会	8名	5/24・11/21	法人事故防止委員会	1名
毎月	DS会議	2名	毎月	業務改善委員会	5名
毎月	高齢者部会	1名	偶数月	ケース検討会	4名
毎月	施設管理者会	1名	3回	安全対策委員会	2名
4/26・10/25	法人苦情解決委員会	2名	奇数月	給食会議	1名

#### C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 日課については、歩行運動や午後の入浴、下肢筋力維持のための体操、手芸や書道等、利用者のやりたいことができるよう支援した。輪投げや手作りゴルフは男性利用者に喜ばれた。全国書画展覧会へ書道の作品を出展した。秋に真菜芸術祭を行い表彰を行った。ご家族にも喜ばれ、利用者の意欲向上に繋がった。
- 行事については、季節の行事や利用者の希望を叶える外出でコーヒーショップに出かけた。手作り昼食やおやつ作りで活躍の場が増え、感謝を伝えることができた。ケアセンター花ももや聖ルカホームと夏祭りや運動会、喫茶や餅つき等、交流の機会が増えた。

#### D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月	理念の継承	全員	職員会議でサービス提供指針を読み合わせる
毎月	理念の継承	全員	理事長からの聖句・それでも一緒に歩いて行くを読む

- 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
  - 毎月の職員会議でグループワークを取り入れ、いろんな職員と活発な意見交換ができるように工夫した。
  - 朝礼・終礼・職員会議で感謝や良いケアをできるだけ伝えるようにしたが、思うようにできなかった。ありがとうカードの活用もあまりできなかった。行事担当者を月ごとに決めて計画、実行することで、職員同士の協力体制を作れるようにした。3月には年間のレク活動の投票を行い、部門賞や個人賞の表彰を行った。

#### 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	4/20	防災・初動対応について	1	11/13	効果がアップする運動	15
	6/22	信頼される言葉づかい	15	6/8	DS合同災害シュミレーション	3
	8/24	不適切なケアについて	15	7/13	DS合同虐待・身体拘束研修	14
	8/24	介護技術	15	12/5	DS合同感染症研修	15
	10/19	虐待・身体拘束	14	12/21	感染症・ガウンテクニック	15
法人研修	4/1	新人オリエンテーション	2	8/22	人事評価の進め方	2
	4/15	新年度研修	5	9/7	事例検討研修	1
	6/16	1等級・2等級職員研修	3	9/27	皮膚疾患について	2
	8/3	交通安全講習	4	1/19	主任等研修	1
施設外研修	5/17	怒りと上手く付き合う方法	1	10/7,10/10	認知症基礎研修	2
	5/19	接遇マナー・コミュニケーション講座	1	12/14	安全運転管理者法定講習会	1
	5/29	イマドキ世代の育て方研修	1	1/22	くもんマスター指定研修会	2
	7/20	「動き出しは本人から」介護実践講座	1	2/19	くもんマスター指定研修会	2
	7/13	くもんマスター認定研修会	2	2/1～2/2	令和5年度甲種防火管理新規講習	1

	10/4	いつまでも脳を元気に保つために	2		
--	------	-----------------	---	--	--

#### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
4月～	サロンの送迎	職員1名
9/18	ジョブシャドウイング	相良高校 2名
9/7	生活困窮者のための食糧支援 法人本部へ届ける	職員1名
10/17	平井農園収穫手伝い	職員1名 利用者3名
10/13	オリーブ摘み	職員2名 利用者5名
3/25～27	牧之原市インターンシップ事業	相良高校 2名

#### F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
2/4	DS 合同介護者の集い	利用者家族 10組 11名
毎月	真菜だより発行	利用者家族・CM
3/19	満足度調査	利用者家族・CM

#### G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内容	対応者
3/6	利用者家族	連絡の伝達方法について	施設長

#### H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	44	ヒヤリ	75	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

事故：車輛事故9件 転倒 14件 労災1件

ヒヤリ：転倒しそうになる、ひとりで送迎車から降りてきた、利用者が他の利用者の介助をしていた。）

※行政へ報告した事故3件（救急車要請2件、転倒→受診）

#### I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

日付	内容	参加者
毎月	施設防災訓練	職員・利用者
11/24	法人全体防災訓練	職員・利用者 34名
6/8	DS 合同 災害シュミレーション	職員2名

#### J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

9/26 防虫点検 4/7,10/6 給茶機点検 4/10 カーテンクリーニング 5/23 乾燥機点検  
3/7 消防設備点検

#### K 収支状況、並びに、借入金返済報告

##### 1 収支報告（事業活動）

科目	2023年度決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計	70,464,544	65,178,592	5,285,952
サービス活動費用計	69,685,503	76,954,222	△7,268,719
経常増減差額	816,621	△11,550,975	12,367,596
特別増減差額	△44,000	△62,822,901	62,778,901
当期活動増減差額	772,621	△74,373,876	75,146,497

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ ）

##### 2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	借入機関	借入額	償還額	残額
2022/3		20年	法人本部	30,000,000	4,000,000	26,000,000

- L 主務官庁に関連した報告**（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）  
 2/10 LIFE 科学的介護体制加算取得の届出を行い、3月請求分より算定。  
 3/10 サービス提供体制強化加算ⅡからⅠへ変更の届出を行った。

**M 実習生やボランティアに関する報告**

実習生 相良高校 ジョブシャドウウイング 2名 インターンシップ事業 2名  
 ボランティア 霊気ヒーリング 柳本明日香様 11回  
                   あった歌・会 2回 あぞみ会 1回  
                   畑の手入れ 5名

- N その他** （監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

退職者数	3月末	0名	累計数： 0名	離職率 0%
異動者数	4月	1名	すずらんへ	

- 1 創立 25 年
- 2 11/12、3/3 牧之原市介護者のつどいを開催した。
- 3 新型コロナウイルス感染 利用者 21 名 職員 6 名 インフルエンザ感染 職員 1 名。

## 2023（令和5）年度 事業報告

### 認知症対応型通所介護 デイサービスセンターすずらん

#### A 2023 度の目標と実践に関する振り返り

- 事業所の 2023 年度事業計画に関する報告（総括）  
 施設入所を検討しているご家族は増えていたが、在宅を選択した方が多いこともあり、昨年度より稼働率が向上した。家族の頑張りを支える上でも職員と家族の情報交換を常にとることを心がけ、ケアマネジャーとも密に情報共有をした。  
 認知症の進行が進んでいる方・身体機能の低下している方それぞれに個別対応ができるよう勉強会を開いたり、職員同士のコミュニケーションもとれるように「笑う門には福来る」のことわざ通りに、笑顔で接することに努めた。  
 女性に対する同性介護は定着したが、男性に対しては、男性職員が1名ということもあり、対応ができないことが多く課題が残りました。
- 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告  
 理事長からの本日の聖句とメッセージを共有することで、職員が一人で仕事をしているのではなく、仲間あつての仕事ができていることを認識し、認知症の理解者として自信をもって仕事に取り組むことができた。
- 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告  
 外部研修はお茶の水学院のネット配信を活用したり、デイサービスセンター真菜との合同研修を開催することで、通所ならではの課題にも取り組むことができた。  
 生活困窮者への支援や地域サロンへの出張レクも継続的に参加できた。地域への取組はずっと同じ事を継続しているにとどまる形となっている。

#### B 利用者と職員の状況報告

##### 1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
12	21	+3	309	3044	10.6	82.1%
要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
0	0	9	6	3	3	0

##### 2 職員状況

	施設長	認知デイ 管理者	相談員	介護員	看護師	運転手	事務員	合計
実人数	1	(1)	1	6	1	1	1	12
常勤換算	0.1	(0.1)	1.0	5.32	0.025	0.15	0.2	6.795

##### 3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	158 時間 30 分	最高残業時間	69 時間 30 分	有給休暇取得率	48.2%
-------	-------------	--------	------------	---------	-------

職員の役職が変わったことで、職員の残業が大幅に減っている。  
 退職による有休消化があつたが、昨年度よりかなり低い数字となっている。

##### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内 容
年 11 回	恵の丘職員会議	1 名	各事業所・部門からの報告、業務改善提案、研修
年 11 回	経営運営会議	1 名	恵みの丘施設全体の運営について検討
年 10 回	すずらんミーティング	全員	業務等、利用者状況の共有、各委員会報告、研修
年 12 回	DS 真菜との合同会議	米山	通所の BCP 見直し/感染症対策の検討・訓練/介護技術/事故の分析等
年 2 回	法) 事故防止委員会	米山 片山	事故集計報告、各施設の取組、グループ事例検討他

年 2 回	法) 防災委員会	米山	防災研修会、各事業所の BCP の共有等
年 1 回	法) 虐待防止委員会	米山	予防の為の取組報告、事例の報告・今後の対策
年 2 回	法) 苦情解決委員会	片山	苦情解決経緯・対応等の検討、第 3 者委員講評
年 1 回	感染対策等委員会	米山	感染症及び食中毒まん延防止のための対策検討等
年 10 回	防災メンテ委員会	片山	防災訓練の計画、実施 施設設備のメンテナンス 等
年 1 回	安全対策等委員会	米山	介護事故・虐待防止、身体拘束廃止の対策の検討
年 4 回	食事レク委員会	1 名	献立・形態の検討、要望等、全体レク打ち合わせ等
年 2 回	運営推進会議	1 名	施設運営実績の報告、意見交換、

### C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

毎月、食事作りを実施。調理活動を行うことで、手指のリハビリを行うと同時に、昔を思い出しながら家族の健康を支えてきた頃を思い出してもらった。認知症になっても高齢になっても人の役に立つこと、できることをつづけることで、自分の役割をもって活動に参加してもらうことができた。

折り紙や手芸も毎月行うようにし、手指の動きや完成した時の喜び達成感をあじわってもらった。作品は本人も喜ばれていたが、ご家族にも好評を得た。

筋力の低下が著しく、体操を中心に体力の維持を図ったが、マンツーマンの対応が多くなったことで、歩行訓練の時間をとることが難しかった。

### D 職員の喜びや成長のために実践したこと

#### 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認知式するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎月	理念の継承	全員	ミーティングでサービス提供指針の読み合せ 本日と聖句の読み合わせ
		1～2 名	本日と聖句等を黙読し、グループで感想を述べ発表

#### 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して

認知症の症状が悪化傾向にある人に対するケアをミーティングで相談するだけでなく、経験豊富な職員からのアドバイスを聞く時間を増やした。職員が高齢化していることもあるし、腰を傷めない介助方法(車椅子からの移乗等)を学ぶことができた。

#### 3 研修報告

種別	日付	内 容			人数	
施設内研修	毎月	感染症・認知症・身体拘束廃止・虐待・リスク・個人情報・BCP シミュレーション 等			1～2	
DS 内研修	年 10 回	業務改善・認知症・アセスメント・不適切ケア 感染症・身体拘束虐待・防災訓練シミュレーション・ ハラスメント・個人情報保護・倫理及び法令遵守 等			全員	
法人研修	4/15	新年度研修	1	8/3	安全運転講習会	1
	9/7	事例検討会	1	8/22	人事評価の進め方	1
	10/20	起震車体験	2	12/8	防災研修	1
真菜 合同研修	年 3 回	高齢者虐待と不適切ケア 自然災害(シミュレーション) 感染症研修(シミュレーション)			全員	
施設外研修	4/20	牧之原市高齢者虐待対応研修			1	

	6/1	保健福祉制度勉強会	1
	7/5	若年性認知症研修	6
	6月～9月	認知症介護実践者研修	1
	11/13	運動の説明	1
	3月	認知症管理者研修	1
	3月	第三者評価研修	1

#### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
年1回	生活困窮者への食糧支援	全員
年1回	坂部ふれあいサロンにて遊びりテーション等	2名
5/24	相良高校インターンシップ報告会	1名

#### F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
年8回	すずらん便りの発行	全利用者・家族
年2回	運営推進会議	
年1回	介護者のつどい 事業所の防災の取組や施設見学 等	

#### G 苦情とその対応に関する報告

帰宅時間がいつもより遅くなってしまい、ご家族に心配をかけてしまった。朝夕の自宅への到着時間が遅くなる場合は、ご家族に連絡をすること等を周知した。

#### H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	15	ヒヤリ	23	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

#### I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

外出先での地震・津波にあった際の津波タワーへの避難訓練を行った。避難するには体力が必要と感じた。

能登半島地震で被災した介護施設の動画を視聴した。自分の家族の心配や実際に施設が避難場所になった時の問題点を皆で共有した。

#### J 環境整備 (100万円以上の修繕や改装など)

なし

#### K 収支状況、並びに、借入金返済報告

##### 1 収支状況 (事業活動)

科目	2023年度決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計	38,643,816	33,569,747	5,074,069
サービス活動費用計	31,542,566	30,299,428	1,243,138
経常増減差額	7,099,950	3,281,639	3,818,311
特別増減差額	△6,070,000	△5,409,000	△661,000
当期活動増減差額	1,029,950	△2,127,361	3,157,311

※サービス活動収益の内、寄付金収益 ( なし )

##### 2 借入金償還報告

なし

#### L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や、指導監査等の報告、許可申請、その他)

なし

**M 実習生やボランティアに関する報告**

ボランティア 1年を通して、週2回程度 三浦孝様  
5月 田中恵子様 6月 さくら会  
職業体験 9月 ジョブシャドウイング 相良高校生1名  
9月 職業体験 榛原中学生 4名

**N その他** (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

大きな指摘事項なし。

## 2023（令和5）年度 事業報告

訪問介護事業  
介護予防・日常生活支援総合事業  
ライフサポートさふらん

### A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の目標 「ご利用者・ご家族・職員に笑顔の花を咲かせたい」
  - ➡ 利用者それぞれの状況や課題などの情報を職員で共有する事ができた。ご家族やケアマネジャーとの情報共有を行うことで、適切なケアに繋げることができた。ケア件数は前年度に比べ減少している。さふらんが選ばれる事業所となるためにどの様にするべきかを考えた一年でした。登録ヘルパーの確保ができたことは、これからのサービス提供の拡大のために希望となった。
  
- 2 事業計画
  - (1) 一人ひとりに寄り添える介護を実践するため、身体状況や住環境、生活についての要望などをしっかりと把握し、可能な限り住み慣れた地域で暮らしていけるよう支援していきます。 ➡ 担当者会議や提供表などから、本人や家族の要望や気持ちを知り、サービス提供に繋げる事ができた。アンケートの実施により、自事業所の現状や家族の思いを知る事もできた。
  - (2) 研修会や日々の実践教育をとおり職員の専門性が高められ、利用者一人ひとりに適切な支援ができるよう努めます。 ➡ 積極的に研修への参加を促すことができた。研修の内容については職員ミーティングで発表し共有した。
  - (3) 地域の方々や関係機関と連携することで、利用者サービスの向上に努めます。 ➡ 具体的な取組みは出来ませんでした。
  - (4) 法律や法令等の順守、各種マニュアルの整備などにより、根拠ある施設運営とより適切でわかりやすい利用者支援が出来る働きやすい職場となるよう努めます。 ➡ 静岡県並びに牧之原市開催の「介護保険事業所集団指導」に参加し必要事項について確認をした。
  
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
  - (1) 職員が法人理念を深く理解し実践できるよう、学びの機会を設ける。 ➡ 会議等で「わたしたちの願い」「サービス提供指針」の唱和を行った
  - (2) 一人ひとりがかげがえのない存在である事を認識し、尊厳ある対応ができるよう職員育成を行う。 ➡ 会議等で「わたしたちの願い」「サービス提供指針」の唱和を行った。「理事長からのメッセージ」について職員で考えた。
  
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
  - (1) 職員が、仕事を通じ自己の成長や喜びを感じそれぞれの役割りを意欲を持って行える職場づくりを目指す。 ➡ 一人ひとりが目標を決め、月ごとに振り返りを行う
  - (2) 地域貢献事業について計画実施していく。 ➡ 具体的な取組みは出来ませんでした。

### B 利用者と職員の状況報告

#### 1 利用実績

介 護			総合事業		自費	合計
身 体	身体生活	生 活	訪問型	緩和型		
4,315	767	0	1,660	136	41	6,919



## 2 職員状況

役職・職務	実人員	常勤換算	備考
施設長	1名	0.25	聖ルカホーム管理者兼務
ホームヘルパー	15名	5.45	正職員3名、パート1名 登録ヘルパー11名（他事業所兼務2名）
事務員	1名	0.25	聖ルカホーム事務兼務
合計	17	5.95	

## 3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	694時間40分	有給休暇取得率	81.22%
-------	----------	---------	--------

## 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月	経営会議	施設長・サービス提供責任者・事務主任	施設運営全般、職員教育、課題解決等
毎月	職員ミーティング	全員	ヒヤリ、事故、苦情報告 ご利用者状況の共有 研修報告、事務連絡、研修会

### C 利用者の喜びのために工夫したこと

- ① 季節に合わせた植物の写真を撮り、ご利用者と観賞した。ご利用者がその時の感想を俳句にした。
- ② 利用者の趣味や興味のある事を事前に情報収集し、訪問時の会話を楽しんでもらった

### D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
各会議	理念の継承	全員	サービス提供指針の読み合わせ
各会議	職場の倫理	全員	サービス心得の読み合わせ
毎月	目標管理シート	全員	施設目標、部署目標、個人目標の達成度を毎月振返り次月に繋げる

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

職員ミーティングでは、情報の共有や気づきなどスタッフが発言しやすいよう配慮した。開催時間なども、昼間や夜間帯など多くのスタッフが参加できるよう工夫した。

### 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	5/16	食中毒予防	10	6/22	緊急時対応	10
	8月	認知症について	10	9/27	褥瘡について	2
	12月	身体拘束排除	11	11/23	虐待防止	11
	その他、オンライン研修を受講					
法人研修	4/15	新年度研修	1			

施設外研修	7月	在宅系(訪問)事業所におけるBCP作成	2	8/3	交通安全講習会	1
	9月	介護保険サービス提供事業者集団指導(県)	2	10/13	介護保険サービス提供事業者集団指導(市)	2
	12/1	感染対策	1	3/14	令和6年度介護報酬改定について	3
	3/18	BCP訓練セミナー	1	3/26	介護保険サービス提供事業者集団指導(市)	2
	研修参加者は会議等で報告を行い全職員で共有					

#### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

- ①介護保険サービス以外のサービスを実施
- ②社会福祉法人減免

#### F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
10月	ご家族アンケートの実施	ご利用者及びご家族

#### G 苦情とその対応に関する報告

なし

#### H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	13	ヒヤリ	1	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	---	----	---	------	---

#### I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

ご利用者宅の自然災害などの予想状況を調査し、訪問時に災害があった場合のヘルパーの取るべき行動について話し合いを行った。

#### J 環境整備に関する報告 (100万円以上の修繕や改装など)

なし

#### K 収支状況、並びに、借入金返済報告

##### 1 収支報告 (事業活動)

科目	2023年度決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計	27,663,554	28,125,251	△461,697
サービス活動費用計	28,636,908	26,426,667	2,210,241
経常増減差額	△1,099,927	1,555,098	△2,655,025
特別増減差額	0	△216,425	216,425
当期活動増減差額	△1,099,927	1,338,673	△2,438,600

※サービス活動収益の内、寄付金収益 ( 0円 )

##### 2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2014.10.7	0.57545	10年	静岡銀行	5,000,000	1,463,700	3,536,300
2014.10.7	0.695	30年	島田掛川信用金庫	22,500,000	5,453,510	17,046,490

- L 主務官庁に関連した報告**（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）  
指定更新・・・総合事業  
    牧之原市（指定期間 2024年4月1日～2026年10月31日）  
    吉田町・島田市（指定期間 2024年4月1日～2030年3月31日）  
廃止・・・・・・・・総合事業 御前崎市（～2024年3月31日）
- M 実習生やボランティアに関する報告**  
なし
- N その他**（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）  
なし

## A 2023 年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の目標
  - ・利用者の人権を擁護し、本人の思いに寄り添いながら利用者本位の立場からの支援を心掛けた。
- 2 事業計画
  - ・基本理念を意識して、利用者・職員・地域とともに、その人に喜びを与え、その人を活かす支援と事業運営を常に心がけた。今後も利用者の尊厳、人権が守られ、利用者本位の立場からの支援が確実に実践できるよう事業所の計画を継続し、専門性と人間性を大事にした働きをすすめ、かつ意識の定着を図っていききたい。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
  - ・毎月法人理念を示唆してくれる書物の読み合わせ、感じた事を共有しあう事で理念の浸透を図った。
  - ・利用者の意思決定、利用者本位の支援を常に念頭に置きケアマネジメントを提供した。
  - ・地域との繋がりを深め、インフォーマルな支援を組み入れたサービス計画を作成した。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
  - ・法令を遵守し、研修等で知識を習得し自己研鑽に努めた。困難ケースも積極的に受入れ、事業所内で共有・相談しながら支援にあたり、同時に実践の中で職員を育成した。
  - ・生活困窮者への食糧支援、民生委員との勉強会、基幹病院との関係づくり、地域サロンへの出張レク等で地域とのつながりを深めた。

## B 利用者と職員の状況報告

## 1 利用実績

2024.3月末現在

定員	契約者数	昨年比	開所日数	延利用者数	月平均	利用率
67	53	+15	258	520	43	64.6%
総合事業	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0	6	18	14	11	3	1

※介護請求常勤換算 1.7

- ・今年度新規契約 42 件、御逝去等で終了 24 件、区分切替 3 件であった。

## 2 職員状況

	施設長	主任介護支援専門員	介護支援専門員	事務員	合計
実人数	1	1	1	1	4
常勤換算	0.1	0.9	0.7	0.05	1.75

※施設長 兼 主任介護支援専門員 1名

- ・主任介護支援専門員常勤換算 0.9 だが、が、介護請求常勤換算の 1.0 で稼働している。

## 3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	15 時間 30 分	最高残業時間	15 時間 30 分	有給休暇取得率	16.8%
-------	------------	--------	------------	---------	-------

- ・リフレッシュ休暇として有給休暇を有効的に活用することができなかった。

## 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
月 1 回	経営運営会議	栗林	恵の丘 3 施設全体の運営について検討
月 1 回	恵の丘職員会議	全員	各事業所・部門からの報告、業務改善提案、研修
年 1 回	感染対策委員会	栗林	感染症の予防・まん延防止のための対策を検討
年 1 回	虐待防止委員会	栗林	組織・指針の整備、研修、体制整備、防止策等
月 1 回	市主任ケアマネ会議	栗林	ケアマネ育成・資質向上のための研修企画・講師
年 3 回	市介護予防ケアプラン会議	栗林内藤	ケアプラン、地域課題の検証・事例提供者への助言等
年 2 回	法)事故防止委員会	内藤	事故集計報告、各施設の取組、グループ事例検討他
年 1 回	法)防災委員会	栗林	防災研修会、各事業所の BCP の共有等
年 1 回	法)虐待防止委員会	栗林	予防の為の取組報告、事例の報告・今後の対策、
年 2 回	法)苦情解決委員会	栗林	苦情事例の解決経緯・対応等検討、第 3 者委員講評

**C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）**

- ・これまで支援等の介入がないまま過ごされていた独居の方についての相談を受け、状態から緊急性が高いと判断しケアマネ2名体制で対応にあたったが、その他も同様に多問題を抱えたケースなどは事業所として支援にあたる事で早期に安心した生活が送れるよう対応している。
- ・『利用者の制作した作品を発表できる場を提供した事で皆さんに見て頂けたと喜ばれ、新たな作品作りへの意欲に繋がった。』など、介護保険サービスに繋げるだけでなく利用者のやりがいや役割を大事にする支援も行った。
- ・サービス事業所見学や福祉用具展等で得た情報を利用者に提供する事で、複数サービスの中から自らが選択できるような支援を行った。

**D 職員の喜びや成長のために実践したこと**

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
月1回	理念の継承	全員	法人理念を示唆する書物の読み合わせとGW
年1回	事例検討会	全員	ケースの事例検討、地域課題の抽出
年1回	新人ケアマネ研修	内藤	市内主任ケアマネによる指導・地域資源周知・他

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- (1) 居宅会議として時間を取る事が難しく実施できなかったが、常にお互いのケースについての状況を把握。日々報告・相談しながら業務にあたった。また、不定期だが、外岡新聞、研修や苦情・事故の事例等を共有し話し合う機会を設けた。
- (2) 茶話会はできなかったが、昼食時に日頃の楽しみ事などの話をしたり、グレイス楽笑会やサロンへの参加で業務とは違った利用者との関わりの時間が、自分達のリフレッシュにもなった。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容				人数
施設内研修	年12回	感染症・認知症・身体拘束廃止、虐待、リスク、個人情報等				全員
法人研修	4/15	新年度研修	2	8/3	交通安全講習会	1
	10/5	子育て・介護と仕事の両立支援への取組	1	12/8	BCPの質を高める災害対応研修	1
施設外研修	4/20	高齢者虐待対応研修	2	6/9～8/22	主任介護支援専門員更新研修	1
	5/17	コロナ感染症5類位置付けに伴う対応とBCP作成のポイント	2	6/1	牧之原市保健福祉制度勉強会	2
	7/12	ポジショニング・褥瘡予防研修	1	8/5	ケアマネジメントに求められるリハビリの視点	1
	8/31	権利擁護研修	2	9/14	ACP研修	1
	9/27	褥瘡予防と対処法・スキントピア研修	2	10/23	DNARへの救急隊の対応について	2
	10/31	ケアマネジメントに活用できる生前整理の知識	1	11/13	介護支援専門員難病研修（基礎知識I）	1
	12/10	静岡県災害支援リーダー研修	1	12/27	介護予防ケアマネジメント新任者研修	1
	1/20	BCP講座	1	2/6	介護保険と障害者総合支援法の制度の違い	2
2/16	誤嚥性肺炎と予防	1	3/7	認知症と精神疾患について	2	
	3/27	介護予防ケアマネジメント現任者研修	2			

**E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告**

日付	内 容	参加者
8/16	相良地区民生委員との事例検討会	栗林・内藤
10/21	榛原地区民生委員との災害時対応勉強会	栗林・内藤
12/7	牧之原市医療介護連携、基幹病院との情報交換会	内藤
年1回	坂部ふれあいサロンにて遊ビリテーション	栗林・内藤
年1回	生活困窮者への食糧支援	全員

- ・牧之原市主任ケアマネ連絡会にて地域課題を検討、利便性向上・改善を実施した。

**F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告**

日付	内 容	参加者
月 1 回	全利用者宅訪問 (状況に応じ月 1 回以上)	栗林・内藤

・月 1 回のモニタリング訪問以外、サービス利用に関する調整、入退院時の調整、介護における相談や助言等を電話対応だけでなく、状況に応じて訪問し対応している。

**G 苦情とその対応に関する報告**

・定期的な委員会で得た事例や情報等を事業所内でも検討し共有。サービスの質や信頼性向上に努めている。

**H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)**

事故	0	ヒヤリ	0	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

・8/3 交通安全講習会に参加し、交通事故がないように努めている。  
 ・定期的な委員会で得た事例や情報を事業所内でも検討し共有。類似事故やヒヤリが発生しないよう努めている。  
 ・虐待防止や身体拘束廃止に関する研修を受け、理解を深めている。

**I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告**

- (1) 恵みの丘事業所としてグレイスの防災訓練に参加した。
- (2) 法人防災訓練に参加し、災害時の初動、発災 1 時間以降を想定した机上訓練実施。
- (3) 利用者災害用情報シートの更新が不十分と感じられた。

**J 環境整備に関する報告 (100 万円以上の修繕や改装など)**

なし

**K 収支状況、並びに、借入金返済報告**

## 1 収支報告 (事業活動)

科目	2023 年度決算	2022 年度決算	増減
サービス活動収益計	6,358,007	5,237,808	1,120,199
サービス活動費用計	10,306,634	8,904,248	1,402,386
経常増減差額	△3,908,627	△3,526,357	382,270
特別増減差額	2,097,000	3,468,000	△1,371,000
当期活動増減差額	△1,811,627	△58,357	△1,753,270

※サービス活動収益の内、寄付金収益 ( なし )

## 2 借入金償還報告

なし

**L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や、指導監査等の報告、許可申請、その他)**

日付	内 容	参加者
10/13	牧之原市集団指導	栗林・内藤
3/26	牧之原市集団指導 1 部・2 部	栗林・内藤

・令和 5 年度特定事業所集中減算に関する届出書 (前期・後期) を提出。80%超サービス事業所があったが、正当な理由に該当するため減算にはあたらなかった。

**M 実習生やボランティアに関する報告**

・ケアマネジメントにおいて、地域のボランティアとも連携しインフォーマルな支援と位置付けて支援した。

**N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)**

なし

2023（令和5）年度 事業報告

包括支援センター オリーブ

**A 2023 年度の目標と実践に関する振り返り**

- 1 目標 ⇒「個々が決められた業務を時間内に責任を持って行う事ができる」  
適切な職員配置ができず、結果的に個々の職員に負担がかかり、業務量にも偏りが起きた。
- 2 事業報告
  - (1) 「マニュアルを整備する」⇒ 必要なマニュアルは、順次整備していった。
  - (2) 「カンファレンスを継続する」⇒ 時間的な工夫をしながら継続した。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
  - (1) 理念・行動指針・私たちの願いを職員会で唱和する ⇒ 職員会で毎回唱和した。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
  - (1) ICT化への取り組み ⇒ 多職種連携で ICT/シズケアかけはしを利用して医療・介護連携を行う。
  - (2) 地域への取り組み ⇒
    - ・地域のサロン・公民館などで啓発事業を行う。
    - ・生活支援コーディネーターと話し合いの場を持ち情報を共有する。

**B 利用者と職員の状況報告**

1 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	I 2	1月	2月	3月	合計(達成率)
給付	76	80	77	81	75	79	78	73	77	80	85	78	939(89%)
総合	60	60	57	58	58	62	57	57	60	58	59	60	706(98%)
実態把握	10	23	34	36	26	35	33	23	28	29	30	15	322(100%)

2 職員配置(2023.12)

	施設長	社会福祉士	保健師(準ずる者)	主任ケアマネ	ケアマネ	主事	事務員	合計
実人数		3	1	2	1	1	1	9
常勤換算		2.75	1	1.75	0.53	1	0.48	7.51

3 残業、有休休暇取得状況

年間総残業時間	1,150h	年間個人最高残業時間	269h	有休義務取得率	100%	有給休暇取得率	88.1%
---------	--------	------------	------	---------	------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月第1火	職員会	全員	毎月第2水	(法)高齢者部会	1
毎月第1火	権利擁護検討会	2	毎月第3水	(法)管理者会	1
10日前後	主マネ連絡会	2	毎月第2火	(法)研修部会	1
年2回	策定懇話会	1	年2回	(法)事故防止委員会	1
年2～3回	ケアマネ連絡会	2～4	年2回	(法)苦情解決委員会	1
回	事業所連絡会	2	年3回	(法)防災委員会	1
第2・4水	支援センター連絡会	2	2/15	(法)虐待防止委員会	1
奇数月木	高齢者障害者連絡会	2	年3回	民協での研修会	2～8

**C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）**

- 1 利用者さん個々にあった自立支援のプランを作成し事業所と連携して支援した。

**D 職員の喜びや成長のために実現したこと**

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
第1火	理念の継承	全員	職員会で理念とサービス提供指針を読合せた

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記の事を行った。

(1) 同じ事務所にいる生活支援センターと常に情報を共有した。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	第2火	虐待・感染症・防災・個人情報管理・事故・苦情・全方位	8			8
法人研修	4/2	新年度研修	8	4回	主任等研修	2
	6/17	キャリアアップ研修	3	4回	管理者研修	1
施設外研修	2/21	牧之原市集団指導	2	9/8	介護・医療連携研修	6
	3/3	地域ケア会議研修	3	5回	認知症関連研修	3

#### E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

	日付	内 容	参加者
啓発	年間 合計 20回	サロン等高齢者集まり	高齢者・職員
支援	年間 合計 3回	事業がサロンに行く時支援をした	事業所・職員

#### F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

1 毎月1回「ええあんばい」の機関誌を発行し、市内在住の高齢者から俳句の投稿を募った。作品を掲載することで自立支援促進をはかった。

#### G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

1 苦情件数 8件

2 特に後半は、利用者やその家族の方から「担当者を変えて欲しい」という苦情が目立った。担当者のちょっとした言葉遣いが利用者にとっては「バカにされた」と受け取られたり、目が不自由な利用者の体を支える為に担当者がとっさに体に触れたことが「何も言わずに体を触られた」と利用者には不快な感じに受け取られてしまった、等々の事例である。いずれも担当者にとっては大きなショックであった。勿論、相談技術を身につけ、信頼関係を作る努力は必要であるが、現場においては、常にこのように職員にとっては過酷とも言える事態が待ち受けていることを自覚せざるを得ない。

#### H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の報告

事故	5件	ヒヤリ	18件	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	-----	----	---	------	---

#### I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- 1 法人のBCPを確認する。包括のBCP作成中、3包括と市で共有していく。
- 2 法人の安否コールによる情報伝達訓練と市の伝達訓練に参加した。
- 3 牧之原市総合防災訓練や法人合同防災訓練に参加した。

#### J 環境整備に関する報告

なし

#### K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2023年度決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計	45,863,381	47,744,087	△1,880,706
サービス活動費用計	46,635,904	48,200,351	△1,564,447
経常増減差額	△355,974	△420,875	64,901
特別増減差額	△1	0	△1
当期活動増減差額	△355,975	△420,875	64,900

2 借入金償還計画

なし

#### L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

1 4月に市へ包括体制の届け出をする。

#### M 実習生やボランティアに関する報告

1 受診時の送り出し支援の為にボランティアさんに依頼する。

#### N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

1 公益的な機関として健康福祉センターさざんかに事業所がある為、公正中立性の高い事業運営に留意して事業に携わり、運営協議会に報告説明第3者評価を受けた。



## 2023（令和5）年度事業報告書

介護予防拠点施設  
コミュニティセンターぶどうの木

### A 2023年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について  
短時間リハビリの事業が8月で終了となり空いた時間を活用して、事業所の目標である「新たなサービス」として介護講座の企画をし、一般の方中心に、介護予防に取り組めた。（自立体力測定講座1回、介護講座7回実施）
- 2 事業報告  
(1) 利用者の状態変化や状況を把握しケアマネ(地域包括支援センターオリーブとさんいく)と常に情報共有し円滑に連携できた
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告  
毎月の職員会を利用して、サービス提供指針の「わたしたちの願い」と「人は命だけでは生きられない」と理事長からのメッセージを読み合わせ確認した
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告  
(1) 職員の育成  
① 研修参加後、内部で報告会を行い質の向上に努める  
法人防災研修 外部感染症 施設内感染症、事故防止、法令遵守、防災等研修を実施  
(2) 地域福祉への貢献  
① 在宅高齢者の健康維持に関する支援を行う  
サロン(ふれあいサロン含む)へ出向き「ポイント啓発」を実施した(17回 延べ228名)  
② 地域活動組織の育成及び支援  
4地区6回 延べ68名参加した

### B 利用者と職員の状況報告

#### 1 利用実績

種別/定員	延登録者数	昨年延登録者数	延利用者数	開所日数	一日平均	利用率
短時間デイ/15	578	(592)	1568	192	8,16	54.4
短時間リハ/10	23	(168)	75	28	2,67	26.8
ほっとサロン/15	275	(133)	274	24	11.41	76.1

要支援区分(延べ)

一般	事業対象者	要支援1	要支援2
153	461	81	50

#### 2 職員状況

	施設長	常勤専任	パート支援員	事務員	合計
実人数	1	2	2	1	6
常勤換算	0.7	2.0	1.32	0.35	4.37
計画との差	-0.14	1	-0.06	-0.13	0.67

#### 3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	95	最高残業時間(個人)	13.5 (87,5)	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	85.2
-------	----	------------	----------------	---------	-----	---------	------

#### 4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	5	毎月	合同カンファレンス	3
月末/水	SC居場所づくり検討	4	隔月	法人編集委員会	1
年3回	法人防災委員会	1	年2回	法人苦情解決委員会	1
年2回	法人事故防止委員会	1	年2回	法人全体虐待防止委員会	1

### C 利用者の喜びのために工夫したこと(日課・行事・その他)

- 1 四季折々に桜・藤・つつじ・あじさい・彼岸花などドライブ兼ねて花を見ながら送迎した
- 2 月内の誕生日付近に写真付きメッセージカードを作成し皆さんに紹介後プレゼントした

#### D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った

日付	プログラム名	人数	内 容
毎月	理念の継承	全員	職員会議で、サービス提供指針を唱和し 「人は命だけでは生きられない」の本と理事長からのメッセージを読み合わせ、感想も伝えた

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った

- ① 職員の誕生月の職員会ではケーキ・コーヒータ임을設け、交流を図った  
 ① 年2回の面談や要望があったらその都度面談をし、話を伺い職場内の調整を図った

#### E 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	10/4	感染症(熱中症・食中毒・新型コロナウイルス)	全員	7/5	防災(災害対策チェックシートから)BCP	全員
	12/6	予防着の着脱練習		8/2	持ち出し品など確認	
	2/7	チェックシートで確認				
	6/7	交通安全(事故時のフローチャート確認) 事故防止	全員	5/11	法令遵守・人権の尊重 (コンプライアンス) (虐待)	全員
法人研修	4/15	新年度研修	3名	10/31	ワークバランス研修	1名
	5/24	主任等研修	1名	9/20	BCP作成研修	1名
	9/7			12/8	全体防災研修	
	1/19					
	12/5	感染症発生状況・新型コロナ「5類」へ	1名	8/3	交通安全講習会	2名
施設外研修	4/20	牧之原市主催 虐待研修	3名	3/14	牧之原市主催 介護予防事業従事者	3名
	3/26	牧之原市集団指導	2名	3/11	認知症基礎研修	1名

#### F 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
12/3	地域防災訓練に参加予定だったが当日中止	職員0名
年17回	地域ポイント啓発(坂部サロン含む)実施	延べ職員33名 延べ利用者228名
月1回	お茶飲み会(中地区)6回実施	延べ利用者25名
毎月	婦人交通指導員による「講話」11回実施	延べ利用者22名
依頼時	地域活動組織の育成と支援(4地区へ6回)	延べ利用者68名

#### G 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

毎月1回ぶどうの木だよりのお便りを発行した

年1回アンケートを実施した。事業所への不満はなかったが、利用者の体力(主に歩行)、認知面を心配しているご家族が増えていて、会話も少なくなっていた。結果は書面で報告した。また、来年度に向けて利用料値上げや利用日変更、定員の変更等のお知らせをした

#### H 苦情について対策(前年度を振り返って考えること)

2件苦情があった。いずれも家族からで、話を伺い謝罪と説明をした。クラス編成に関しては家族の思い通りにはいかないが、体制に関する事なので、納得はしてもらった

#### I 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	5	ヒヤリ	1	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：転倒2件・・・①足浴後に前の利用者がしっかり足を拭かなかったので、水たまりができ、後の人が水たまりで滑った。(足ふきマットを大きくした)

(ア)送迎時、事業所の車を見て歩き出し、躓いて座り込んだ。(家族と共有した)

鍵の紛失1件…施設終了後鍵をどこかで落とした。探したが見つからない(作成)

車両2件・・・送迎前と後に(利用者居ない)慣れないところで横側をぶつけた

ヒヤリ：帰宅時、自分の洋服をハンガーから取る時、うまく取れず可動式のラックにぶら下がった。(可動式のラックをやめた)

**J 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告**

- 7/5:マニュアルの検討、机上訓練で、避難場所や災害状況の確認と持ち出し品のチェック
- 9/4：法人全体防災会議に参加
- 11/22：防災食（カレー）の試食を利用者で行う
- 11/20～24 施設防災訓練実施                      11/24 法人防災訓練実施

**K 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）**

- 1 消防用設備等点検：法定点検：11/22、      機器点検：5/31  
浄化槽保守点検：6/1・9/4・12/7・3/4      法定検査 9/14      清掃 3/23  
エレベーター定期点検：1/22                      自動ドア保守点検：1/12  
電気設備定期調査：12/26                      ガス設備保安点検：9/28
- 2 修繕状況  
テレビアンテナ：4/20      浴槽手すり工事：7/6  
1階2階エアコン工事：7/22・23（市が対応）  
自動ドア及びヒンジドア錠前変更：9/5      水道メーター交換：10/18  
エレベーター部品交換：3/15                      1階トイレ部品交換：3/25

**L 収支状況、並びに、借入金返済報告**

1 収支報告（事業活動）

科目	2023年度決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計	16,711,640	15,782,300	929,340
サービス活動費用計	18,552,083	16,194,108	2,357,975
経常増減差額	909,024	△401,291	1,310,315
特別増減差額	32,591	0	32,591
当期活動増減差額	941,615	△401,291	1,342,906

2 借入金償還報告

なし。

**M 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）**

- 1 2009年4月から「生きがいガーデンこにた」の指定管理を受託し2024年3月末で15年になる。2024年4月から建物は市が管理し、事業である「牧之原市介護予防・日常生活支援総合事業」のみ受託した。期限は3年間
- 2 一般介護予防事業の介護予防普及啓発事業が新規で通所型「キープアップ事業」が令和6年4月から始まる。
- 3 利用料が改訂され通所型事業は全て50円アップとなり、定員も短時間デイは15人→6人（1回）一般介護予防通所型は15人→8人（1回）となる

**N 実習生やボランティアに関する報告**

- 実習生は無かった。踊りの慰問が1件あった
- 3/17 ボランティア団体「さくら会」の送迎支援を実施した。

**O その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）**

なし

付属明細書

該当なし